

授業科目名	キャリア教育		
担当者名	橋元 隆、高橋 精一郎、石橋 敏郎、 佐野 幹剛	実務家教員	
授業コード	1200005001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士、作業療法士 必修
ナンバリング	DP1-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	仕事において専門知識・技術を持つことは当然のことながら、その一人ひとりの人格が最も大切な仕事上のベースとなる。個人の人格を主体とし、社会人としての明確な天職の自覚意識形成を不可欠である。専門的な知識・技術及び国家資格の取得と共に、明確な仕事に対する天職としての「務め意識」への信念と使命感について講義形式で教授する。建学の精神に基づく人格教育の部分と、社会人・医療人として働くことの意義・価値を認識する講義内容とする。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	建学の教育理念に基づく行事教育や人格教育、生活指導教育と本学の専門的教科教育・就職支援の取り組みについて理解できる。自らが目指す理学療法士・作業療法士像を探求し、それにむかっの短・中期プランを構築し、キャリアアップを図る。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	キャリアとは何か(橋元)	事前:キャリアとは何か考える (90分) 事後:自らのキャリアを整理する、ノートを作成 (90分)	
2	組織と人間関係について (橋元)	事前:自分が所属する集団・組織について調べる (90分) 事後:教科ノートの作成・整理 (90分)	
3	リハビリテーション学部が目指すキャリア(石橋学部長)	事前:リハ学部のポリシーを確認する(90分) 事後:レポート作成(90分)	
4	理学療法士・作業療法士の現況と就労状況(橋元)	事前:PT・OTの職域について調べる (90分) 事後:教科ノートの整理 (90分)	
5	理学療法士・作業療法士の卒前・卒後教育(橋元)	事前:2020年度に何故、養成施設指定規則が改正されたかについて調べる (90分) 事後:ノートの作成・整理 (90分)	
6	作業療法分野におけるキャリア教育(佐野教務部長)	事前:OT分野の卒後教育について調べる(90分) 事後:レポート作成(90分)	
7	発達分野におけるキャリア教育(佐野教務部長)	事前:発達分野における役割を考える(90分) 事後:レポート作成(90分)	
8	医療職の使命について(橋元)	事前:チーム医療について調べる (90分) 事後:教科ノートの授業内容の整理 (90分)	
9	理学療法士・作業療法士の社会的責務と展望(橋元)	事前:PT・OTの果たすべき本質とは何かを考える(90分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理 (90分)	
10	本学における建学の精神(高橋学長補佐) 理学療法士・作業療法士の使命とは	事前:建学の精神を確認する(90分) 事後:レポート作成(90分)	
11	理学療法士・作業療法士に望まれる資質(橋元)	事前:PT・OTとしてのキャリア・アップについて考える (90分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理 (90分)	

12	就職活動にあたって(橋元)	事前:就職面接におけるマナーについて調べる(90分) 事後:教科ノートへ授業内容を整理(90分)
13	社会人としてのマナー:書類(手紙を含む)作成(橋元)	事前:ほう・れん・そう、について調べる(90分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(90分)
14	社会人としてのマナー:飲酒・喫煙について(橋元)	事前:飲酒・喫煙の功罪について調べる(90分) 事後:ノートへの作成・整理(90分)
15	「健康生活の番人」とは(橋元)	事前:3Pを確認する(90分) 事後:キャリアプランのレポート作成(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

教室だけのものだけでなく専門職を目指す自らの将来について夢を描き、それを実現するために日常から友人・教職員と語り合うことが重要です。現在、リハ学部で役職の立場にある教員に自らのキャリアを通して講義していただく。

成績評価の方法[評価項目と割合] ※上段:評価項目、下段:割合(%)

レポート課題	受講姿勢・行事への参加度		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

適時資料を配布する。

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

まずは、何故理学療法士・作業療法士になる道を選択したのか考えてみよう。そして、自ら目指すリハビリテーションの専門職として、夢を言葉として表現することから始めよう。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	スタートアップ教育 I		
担当者名	中藤 佳絵、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、吉田 遊子、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦、 松崎 英章	実務家教員	○
授業コード	1200099001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	スタートアップ教育は、大学の教育理念および建学の精神、リハ学部の教育目標を実践する場として科目を位置づける。スタートアップ教育 I では、1年次行事の企画や実施への参画、大学生生活を円滑に送るために必要な図書館の利用方法や情報リテラシーなど情報処理能力について演習形式にて修得を目指す。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.大学の教育理念および見学の精神について理解できる。 2.大学生活の開始に必要な基本的な知識を身に付ける。 3.行事やボランティア活動の意義について理解し、参加することができる。 4.建学の精神とお掃除について考え実践することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(中藤) 建学の精神	事後:学長講話から学んだことについてレポートを作成(45分)	
2	衛生管理・スタンダードプリコーション	事前:衛生管理・標準予防策について調べ学習を行う(20分) 事後:授業で学んだ内容を実践する(25分)	
3	学修支援のためのツールとその活用(中藤)	紹介された内容を使用できるように準備し、適宜活用する(45分)	
4	情報処理室の活用と情報リテラシー(廣滋)	事前:情報リテラシーについて調べる(20分) 事後:講義内容に沿った課題を実施する(25分)	
5	ボランティアの意義(松崎)	事後:ボランティア参加を企画する(45分)	
6	理学療法の歴史と記念館見学(橋元 中藤)	事後:講義と見学内容についてレポートを作成(45分)	
7	人体の機能と構造の理解を深める	事前:入学後からここまでの学びを振り返る(45分)	
8	学修方法の多様性	大学内の資料を使って学びを深める(45分)	
9	より専門性の高い学修に向けた取り組み	後期以降に開講される専門科目や臨床科目のシラバスを確認する(45分)	
10	様々な分野の理学療法①整形疾患の理学療法(時任 松崎)	事後:講義内容に関連する書籍を閲覧する(45分)	
11	様々な分野の理学療法②中枢疾患の理学療法(鈴木 長野)	事後:講義内容に関連する書籍を閲覧する(45分)	
12	様々な分野の理学療法③内部疾患の理学療法(井元 神崎)	事後:講義内容に関連する書籍を閲覧する(45分)	
13	様々な分野の理学療法④予防理学療法(廣滋)	事後:講義内容に関する書籍を閲覧する(45分)	
14	様々な分野の理学療法⑤地域貢献(長野)	事後:講義内容に関連する書籍を閲覧する(45分)	

15	学修支援(中藤・松崎)	大学生生活や学修について振り返り、課題を確認する(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>学生便覧その他の配布資料を確認すること。学生ポータルサイト UNIPA を頻回に確認し、予定変更に対応できるよう備えること。レポート課題の提出がある場合は、期限を守って提出すること。</p>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
授業への取り組み	レポート課題		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
適宜資料を配布する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
<p>不定期開催となるため常にスケジュールを確認すること。</p> <p>出席および提出物の締切を守ることは特に厳しく評価する。</p> <p>第1回、4回、6回:行事や授業を通して学んだことについてレポート課題を作成し、提出する。</p> <p>第2回:抗体検査の結果や母子手帳など準備するものを確認して持参する。</p> <p>第3回、4回:クラス別に実施する予定。</p> <p>第5回:後期「スタートアップ教育Ⅱ」ではその報告会を実施する。</p> <p>第15回:一斉の学修支援授業と個別面談をもって授業参加とする。</p>			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	スタートアップ教育Ⅱ		
担当者名	中藤 佳絵、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、吉田 遊子、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦、 松崎 英章	実務家教員	○
授業コード	1200100001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	スタートアップ教育は、大学の教育理念および建学の精神、リハ学部の教育目標を実践する場として科目を位置づける。スタートアップ教育Ⅱでは、大学祭などの行事の企画や運営への参画、臨床実習や医療人として身につけておくべきコミュニケーション力などをアクティブラーニングや施設見学を通して演習形式にて学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.大学の教育理念および建学の精神について理解し行動できる 2.医療人に必要な基本的な態度や構えを身に付ける 3.行事の意義について理解し、参加することができる 4.建学の精神とお掃除について考え実践することができる		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	医療人としてのモラル・マナーについて考える	事前:モラルとマナーの違いについて調べる(20分) 事後:講義を通して学んだことを振り返る(25分)	
2	医療人に求められる身だしなみについて考える	事前:医療人に求められる身だしなみについて自身の考えをまとめる(20分) 事後:講義を通して学んだことを振り返る(25分)	
3	ワクチン接種の目的と利用について	事前:抗体とワクチンについて調べ学習を行う(20分) 事後:ワクチン接種計画を確認する(25分)	
4	臨床見学	事前:見学に応じた準備をする(20分) 事後:報告資料を作成する(25分)	
5	病院見学報告会	事前:病院見学報告の準備をする(20分) 事後:報告会で得た気づきを振り返る(25分)	
6	プロジェクト演習(企画の立案・準備)	事前:本学の行事の意義を確認する(20分) 事後:演習を通して学んだことを振り返る(25分)	
7	プロジェクト演習(企画の実施)	事前:本学の行事の意義を確認する(20分) 事後:演習を通して学んだことを振り返る(25分)	
8	プロジェクト演習(実施結果と今後の課題)	事前:本学の行事の意義を確認する(20分) 事後:行事を通して学んだことを振り返りレポート作成(25分)	
9	建学の精神の理解	事前:本学の行事の意義を確認する(20分) 事後:行事を通して学んだことを振り返りレポート作成(25分)	
10	人体の機能と構造について理解を深める1	事後:演習で行った内容を復習し、次回必要な内容について学修する(45分)	
11	人体の機能と構造について理解を深める2	事後:演習で行った内容を復習し、気づいたことを記録する(45分)	

12	人体の機能と構造について理解を深める 3	事後:演習を通して理解したことなどを気づきリストとして作成する(45分)
13	ボランティア活動の報告会	事前:ボランティア活動報告の準備をする(20分) 事後:報告会で得た気づきを振り返る(25分)
14	これからの学修に向けて1	事後:講義で出された課題を行う(45分)
15	これからの学修に向けて2	事後:講義で提示された課題を行う(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>学生便覧その他の配布資料を事前に確認すること。</p> <p>学生ポータルサイト UNIPA を頻回に確認し、予定変更に対応できるよう備えること。</p>		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
授業への取り組み	課題	
50%	50%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布する		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<p>不定期開催となるためスケジュールを確認すること。出席・提出物の締切を守ることにについては特に厳しく評価する。</p> <p>第5回、第13回:見学あるいは活動内容をレポートにまとめ、提出する。</p> <p>第6~8回:各クラス固有のプロジェクトを、その企画運営実施に主体性をもって取り組むことを目指す。</p> <p>プロジェクトの終了報告として、行動記録と感想をレポートとして提出する。</p> <p>第9回:行事を通して学んだことについてレポートを作成し、提出する。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	健康と栄養		
担当者名	渡辺 響子	実務家教員	○
授業コード	1200101001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリの効果に影響を与えるものの一つに、対象者の栄養状態の良否がある。そこで、食品や栄養・食生活についての基礎知識を学ぶ。この講義では、行政や病院の管理栄養士としての職務経験を有する教員が、経験談を含めて、栄養・食生活についての基本的な講義を行う。視覚的に分かりやすいスライドや資料を準備し、学生による演習なども行いながら、講義を進めていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康・栄養の現状について理解できる。 ・各栄養素の基本的な役割について理解できる。 ・ライフステージ別の栄養管理の特徴について理解できる。 ・主な生活習慣病の栄養管理について、基本的な内容が理解できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	教科の概要、国民健康・栄養の現状	事前:現代の日本人の食生活の現状について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
2	栄養素の役割1 たんぱく質、脂質、炭水化物	事前:3大栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物)について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
3	栄養素の役割2 ビタミン、ミネラル	事前:ビタミン、ミネラルについて調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
4	食品と栄養1 食品の分類と特徴	事前:食品の分類(日本食品成分表による)について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
5	食品と栄養2 栄養成分表示、健康食品 食品衛生	事前:栄養成分表示、健康食品について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
6	健康増進法、健康日本21、食育基本法、	事前:健康増進法、健康日本21について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
7	食事計画、食事バランスガイド	事前:食事バランスガイドについて調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
8	食生活指針	事前:食生活指針について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
9	ライフステージ別栄養管理1 妊娠期、授乳期	事前:妊娠期、授乳期の栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
10	ライフステージ別栄養管理2 乳幼児期	事前:乳幼児期の栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	
11	ライフステージ別栄養管理3 学童期、思春期	事前:学童期・思春期の栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)	

12	ライフステージ別栄養管理4 成人期、 (メタボリックシンドローム)	事前:成人期の栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
13	ライフステージ別栄養管理5 生活習慣病と栄養ケア	事前:生活習慣病と栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
14	ライフステージ別栄養管理6 高齢期、 (フレイル、サルコペニア)	事前:高齢期の栄養について調べておく。(90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
15	医療と栄養、福祉と栄養	事前:医療現場での管理栄養士の業務について調べておく。 (90分) 事後:指定した項目について、ノートにまとめる。(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:食事や栄養に関することについて、情報収集を心がける。 ・事後学習:学習内容を整理して記載し、予習、復習を常に行ない、次週の授業に備える。 		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	小テスト	授業への積極的取り組み
80%	10%	10%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・講義時に、プリントを配布、参考文献は適宜提示する。 		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<p>※成績評価について、</p> <p>①講義終了時に、小テストを実施することがある。</p> <p>②学期末に15回の講義日以外の日程で試験を実施する。</p> <p>①②を総合して習熟度を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて教材・資料として、プリントなどを配付するので、各自ファイリングして活用すること。 ・講義中の私語や、居眠り等、不真面目な態度は減点の対象とする。 		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	北九州市のノーマライゼーション		
担当者名	宮永 敬市	実務家教員	○
授業コード	1200102001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーション学部の教育目標として、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れたところで、心豊かに、安心して暮らせる地域づくりに寄与することが掲げられている。そのため、ノーマライゼーションの実現に向けた北九州市の保健・福祉の取り組みを幅広く学習する。また、健康と福祉の促進について、北九州市の取り組みを現地で学ぶ。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域をとりまく現状から地域共生社会や地域包括ケアに至る経緯や役割を理解する 2. 少子高齢社会の状況及び将来予測を学習し、課題や対応策を考察する 3. 地域活動の事例を通じて、地域において自分らしく暮らし続けるために必要な行動や課題を把握するとともに、地域リハビリテーションにおける役割を理解する 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	人口動態、少子高齢社会の状況やリハビリテーションの動きを理解する	事前:人口動態(全国、県など)、少子高齢社会の状況やその課題、リハビリテーションの動きについて調べ、予備知識を得ておくこと(90分) 事後:配布資料を読み、要点を取りまとめポートフォリオに整理すること(90分)	
2	ノーマライゼーションの基本を理解する ※一部、グループワーク(人の捉え方)	事前:ノーマライゼーションの概念について調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえノーマライゼーションについてレポートを作成すること(90分)	
3	地域共生社会・地域福祉の基本を理解する(1)	事前:地域共生社会・地域福祉の概念について調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえ地域共生社会・地域福祉についてレポートを作成すること(90分)	
4	地域共生社会・地域福祉の基本を理解する(2) ※一部、グループワーク(地域生活マップの作成)	事前:地域生活マップ作成に向けて、地域の社会資源を調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえ、地域生活マップについてレポートを作成すること(90分)	
5	地域包括ケアの基本を理解する(1) ※一部、グループワーク(事例検討)	事前:地域包括ケアの概念について調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえ地域包括ケア及び事例についてレポートを作成すること(90分)	
6	地域包括ケアの基本を理解する(2) ※一部、グループワーク(事例検討)	事前:地域包括ケアの概念について調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえ地域包括ケア及び事例についてレポートを作成すること(90分)	

7	現地学習(講義形式) 予定:地域におけるボランティア活動(1)※順番の入れ替わりあり	事前:地域におけるボランティア活動についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:現地学習を踏まえ地域におけるボランティア活動についてレポートを作成すること(90分)
8	現地学習(講義形式) 予定:地域におけるボランティア活動(2)※順番の入れ替わりあり	事前:地域におけるボランティア活動についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:現地学習を踏まえ地域におけるボランティア活動についてレポートを作成すること(90分)
9	現地学習 予定:地域における社会福祉協議会の活動 ※順番の入れ替わりあり	事前:社会福祉協議会についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:現地学習を踏まえ社会福祉協議会の活動についてレポートを作成すること(90分)
10	現地学習 予定:地域における障害者の社会参加活動(1)※順番の入れ替わりあり	事前:障害者の社会参加活動についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:現地学習を踏まえ障害者の社会参加活動についてレポートを作成すること(90分)
11	現地学習 予定:地域における障害者の社会参加活動(1)※順番の入れ替わりあり	事前:障害者の社会参加活動についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:現地学習を踏まえ障害者の社会参加活動についてレポートを作成すること(90分)
12	現地学習(講義形式) 地域リハビリテーションの基本を理解する※順番の入れ替わりあり	事前:地域リハビリテーションについて調べておくこと(90分) 事後:講義を踏まえ地域リハビリテーションについてレポートを作成すること(90分)
13	視覚障害者への生活・社会参加支援 ※順番の入れ替わりあり	事前:視覚障害者への生活・社会参加支援についてあらかじめ調べ、質問などを設定しておくこと(90分) 事後:視覚障害者への生活・社会参加支援についてレポートを作成すること(90分)
14	グループワーク:地域共生社会の実現に向けてリハ職の関わり	事前:グループ発表に向けて調査した項目について整理すること(90分) 事後:グループ発表に向けてプレゼンテーションの準備を行うこと(90分)
15	課題に関するプレゼンテーション及びディベート講評・地域共生社会のまとめ	事前:プレゼンテーションに向けて発表内容及びプレゼン資料を調整すること(90分) 事後:プレゼンテーションの内容について良かった点、反省すべき点、他グループへの感想などを整理し、レポートを作成すること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

テーマごとに課題を整理し、プレゼンテーションの実施及びレポートの提出を課するので、事前学習及び復習並びにグループワークが必要となる。地域活動やノーマライゼーション及び共生社会の実際の状況を確認することとなるため、事前に学習し、質問、意見等をまとめておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
レポート	ポートフォリオ		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
配布資料は随時作成。事前、事後学習を行った資料を取りまとめポートフォリオとして提出。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	食と農園		
担当者名	佐野 幹剛、室井 由起子	実務家教員	
授業コード	1200093001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	通年
単位数	1単位	履修	選択・園芸療法士必修
ナンバリング	DP1-1-C		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	人の健康生活の基盤となる「食と運動」を連動的にとらえるために、学生は土づくりから始め、畑を耕し、種をまき、草をとり、肥料を与えるといった実学教育の中で、植物の生命力、仲間とのふれあい、自然の恵みに対する感謝、作物に関する知恵を学ぶ。また、学生は、畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について学ぶ。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・農園作業を体験し、作物の成長までの過程を理解することができる。 ・作業に伴う身体的精神的特性を理解することができる。 ・畑で収穫した野菜の栄養成分や栄養価について理解することができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	前期コースオリエンテーション、農園実習について	事前:学内農園を見ておくこと(20分) 事後:農園手帳の準備と前期スケジュールの記載(25分)	
2	夏野菜を育てよう①土づくりと苗床作りの基本	事前:土づくりについてweb等で調べておくこと(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
3	夏野菜を育てよう② 種蒔作業	事前:さつま芋について調べておくこと(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
4	夏野菜を育てよう③ さつま芋畑づくり	事前:さつま芋について調べておくこと(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
5	夏野菜を育てよう④ 苗の管理と除草作業	事前:トマト、キュウリの管理方法について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
6	夏野菜を育てよう⑤ 追肥と害虫忌避・駆除作業	事前:追肥の種類と害虫忌避の方法について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
7	夏野菜を育てよう⑥ 夏野菜の収穫と栄養価	事前:トマト、キュウリ、オクラの栄養価について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
8	夏野菜のメンテナンスと除草作業、前期のまとめ	事前:野菜のメンテナンスについて調べておくこと(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
9	後期コースオリエンテーション	事前:秋・冬野菜の種類について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
10	秋・冬野菜を育てよう① 土づくりと苗床作り	事前:農業用マルチシートの使用目的、方法について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
11	秋・冬野菜を育てよう② 種蒔作業	事前:ダイコン、カブの種蒔方法について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	
12	秋・冬野菜を育てよう③ さつま芋収穫準備作業	事前:さつま芋のつる返しについて目的と方法を調べておく(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)	

13	秋・冬野菜を育てよう④ 追肥と間引き作業	事前:ダイコン、カブの間引き作業の目的と方法を調べておく(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)
14	秋・冬野菜を育てよう⑤ 冬野菜の収穫と栄養価	事前:ダイコン、カブ、オクラの栄養価について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)
15	さつまいもの収穫作業	事前:さつまいもの利用方法について調べる(20分) 事後:農園手帳に作業内容・気づいた点などを記載(25分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
農園手帳はその日の講義で体験できたことや野菜などの成長を記録してください。半期ごとに回収しチェックします。最終講義の後1週間以内に提出してください。		
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)		
農園手帳記載内容の完成度	課題レポートの完成度	授業への取り組み
40%	40%	20%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない(都度資料を配布)		
参考書又は参考資料等		
九州栄養福祉大学研究紀要第12号「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」p65-74		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
前期は8回、後期は7回の開講予定。年間を通して、野菜等の成長観察と収穫が体験できるようにスケジュールを調整します。課題レポートについては、「野菜の収穫と精神作用について」、「野菜の持つ栄養成分と栄養化について」を作成してください。レポートはフィードバック資料として返却します。事後学習の参考にして下さい。授業への取り組みは、「水やり」「作業への取り組み」について判断します。作業ができる服装で参加してください。特に、靴は汚れますので長靴を各自用意してください。また、軍手、タオル、水分なども用意しておくとう便利です。受講生が多い場合は、抽選となる場合があります。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	医療人のための教育学 I		
担当者名	脇田 哲郎	実務家教員	○
授業コード	1200103001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	将来、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、現場で出会うことが予想される患者としての子供やその保護者、患者に提供するリハビリテーションをチームで行うために医師や看護師、同僚の療法士などによりよい人間関係を築くための具体的方途を体験的に学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.理学療法士(以下、PT)、作業療法士(以下、OT)として人と関わるために大切なことを理解する。 2.患者として出会うことが予想される子供の特性について理解する。 3.PT、OTとしてのキャリア発達のために必要なスキルを身に付ける。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	PT,OTに求められる人間性について、現場で出会うことが予想される人との関係から考察する。	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
2	こども理解(発達障害について)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
3	こども理解(発達障害について)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
4	こども理解(子ども基本法)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
5	こども理解(人を思う心について)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
6	基本的生活習慣(時間を大切に)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
7	基本的生活習慣(お金を大切に)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
8	初対面の人への挨拶	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
9	自己・他者への気付き(上手な聴き方)	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
10	自分の長所・短所	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
11	自分の考え方の特徴	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
12	別の面への気付き	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
13	気持ちの伝え方	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
14	顔の見えないコミュニケーション	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
15	学修を振り返り、PT、OTに必要な能力や態度についてまとめる。	振り返りのレポートを書く。	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
理学療法士(以下、PT)、作業療法士(以下、OT)に求められる人間性について自分なりの考えを持つことができたか。	患者として出会うことが予想される子供の特性について理解することができたか。	PT、OTとしてのキャリア発達のために必要なスキルを身に付けることができたか。	
振り返りのレポート(70%)	ポートフォリオ(20%)	授業への参加状況(10%)	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
高校生のための社会性と情動の学習(SEL-8S)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	社会福祉と地域ケア		
担当者名	竹並 正宏	実務家教員	○
授業コード	1200013001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP3-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>リハビリテーションの概念は、年老いても障害を持ちながらも、住み慣れたところで安心して自分らしく暮らせることを具現化することであり、理学療法士・作業療法士は心豊かに暮らしていける地域づくりに寄与していかなければならない。そのためには、社会福祉の基本知識を習得したうえで、地域ケアシステム構築への理解が求められる。本講義は、高齢者や障害児・者、児童、経済的困窮者などの抱える福祉課題や現状、社会福祉の制度や様々な専門職やボランティアによる活動について取り上げ、社会福祉に関する基礎的な知識を習得するとともに生活者としてのクライアントを見る視点を形成することをテーマに講義を実施する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義及び制度について、歴史的経緯を踏まえつつ理解し、説明できる。 2. 高齢者の地域包括ケアシステムや障害者総合支援制度における地域ケアの考え方を習得し、これに参画するための行動目標を示すことができる。 3. 社会福祉に関する基礎的な知識を習得して生活者としてクライアントを見る視点が身に付いている。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	社会福祉の考え方 本講義の概要、オリエンテーション	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
2	福祉の意味と対象	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
3	私たちの暮らしと社会保障	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
4	児童と家庭の福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
5	高齢者福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
6	障害者福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90分)	
7	地域ケアについて(KJ 法によるグループワーク)	事前:地域ケアの意味を調べる。(90分) 事後:グループワークやディベートを取り入れ考察する。(90分)	
8	地域ケアについて(KJ 法によるグループワーク)	事前:テキストの指定範囲を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、キーワードノートに記載すること(90分)	

9	地域ケアについて(KJ 法によるグループワーク)	事前:地域ケアの意味を調べる。(90 分) 事後:グループワークやディベートを取り入れ考察する。(90 分)
10	地域ケアについて(KJ 法によるグループワーク)	事前:テキストの指定範囲を通読しておくこと(90 分) 事後:指定した用語の意味を調べ、キーワードノートに記載すること(90 分)
11	ひとり親家庭の福祉・女性福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90 分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90 分)
12	社会福祉援助技術	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90 分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90 分)
13	地域福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90 分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90 分)
14	医療福祉	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90 分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90 分)
15	社会福祉の担い手及び全体のまとめ	事前:UNIPA で通知したキーワードの意味を調べる。(90 分) 事後:キーワードを用いて理解した内容をアイデアノートにまとめる。(90 分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。
視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	レポート	授業への取組み姿勢	
50%	30%	20%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
福祉・栄養・看護のための改訂社会福祉論	赤木正典・平松政臣編著	建帛社

参考書又は参考資料等

毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入し参考資料としていく。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

・社会福祉を通して、地域社会や地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献することを要望する。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	医学倫理学		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	
授業コード	1200012001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	保健医療福祉の分野で求められているチーム医療では、異なる職種が協力して有効な保健医療サービスを提供することが求められている。そのためには職種間の対話と理解が不可欠であり、確かな知識や方法を共有しておくべきである。医学倫理学の基礎を理解・修得できるように、総論と各論に分けて15講に区切り、レビュー(基礎的な情報)とケーススタディ(架空事例などの提示)の2つの部分を参考にして講義を進めていく。受講する前にテキストを必ず読み、事前と事後の学習を自ら進んで取り組むように努力してください。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①医学倫理の歴史について、重要事例を通してその内容を理解できる。 ②医学倫理を理解する方法について、その手順(原則論・物語論・手順論)を含めて視点を理解できる。 ③医学倫理の各論では、重要な倫理的問題について、架空事例を通して具体的にその捉え方を理解できる。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	医療倫理の歴史①(古代から近代の医療倫理の変遷)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
2	医療倫理の歴史②(現代:患者の権利の時代へ)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
3	医療倫理学の方法①(基本的な概念と構造)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
4	医療倫理学の方法②(原則論と物語論)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
5	医療倫理学の方法③(手順論)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
6	死と喪失についてのレビュー	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
7	告知:深刻な診断を知る、それを伝えるということ	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	
8	尊厳死:最後まで生きる、その人にかかわるということ	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)	

9	性(セクシャリティ)について	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
10	生殖について	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
11	障害児の出生を「防ぐ」ということ	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
12	患者の権利と公共の福祉①(患者と第三者の利害の対立)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
13	患者の権利と公共の福祉②(自己危害と他者危害)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
14	医学研究と医療資源①(生体と医療資源)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)
15	医学研究と医療資源②(医療資源の配分と医療情報)	事前:受講内容の確認(テキストを読み、サブノートに必要事項を記入する)(90分) 事後:振り返りシートの内容を理解して暗記する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

受講前にテキストを読んでその内容を確認したうえでサブノートに必要事項を記入しておくこと。講義終了時に実施するサブノートに記入して授業内容を振り返ること。疑問点については積極的に質問してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	課題(ケーススタディ) <4回>の提出と国家試験演習問題<2回>の取り組み		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
医療倫理学の方法(原則・ナラティブ・手順)第3版	宮坂道夫	医学書院

参考書又は参考資料等

授業内容に沿ったプリント(サブノート)を事前に配布します(事前に予習を行っておくこと)。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

医学倫理に関する新しい情報については、メディア(新聞、HPなど)等を通して関心を常に持つように努める事。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	基礎心理学		
担当者名	秋田 寛子、下満 由貴	実務家教員	
授業コード	1200104001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	心理学は心と行動を科学的な方法で探求する学問であり、様々な研究手法を用いて認知や行動の客観的観察、主観的体験の把握が試みられてきた。本講義では心理学の主要分野における基礎的な概念と理論を学んでいくと共に、グループワークを通して日常の現象や心の動きを心理学的視点から考察し理解を深めていく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 理学・作業療法士に必要な心理学の基礎知識を説明することができる 2) 心理学の基礎知識を基に、自分の意見を述べるることができる		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション【秋田】	事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
2	心理学とは【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
3	感覚・知覚(1)【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
4	感覚・知覚(2)【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
5	社会的認知【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
6	社会的影響【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
7	ライフイベントと心の健康【秋田】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
8	学習【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
9	感情・動機づけ【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
10	記憶と認知【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
11	発達1(乳児期～学童期)【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
12	発達2(青年期～老年期)【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
13	パーソナリティ・後半のまとめ【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
14	ストレスと心の健康(ストレスマネジメント)【下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	

15	臨床心理学【秋田・下満】	事前:事前に提示した資料を確認する(60分) 事後:配布資料を再読の上関心事項は自ら調べる(60分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
毎回の授業でミニレポートを課します。授業によっては事前に資料を提示します。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	ミニレポート		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
特になし			
参考書又は参考資料等			
講義の進度に応じて適宜参考図書を紹介します			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
非公開とする	講義後、非常勤講師室でしばらく待ちます		

授業科目名	医療人のための教育学Ⅱ		
担当者名	脇田 哲郎、四元 孝道、井元 淳、 吉田 遊子、廣滋 恵一、平澤 勉	実務家教員	○
授業コード	1200105001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	将来、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、現場で出会うことが予想される患者としての子供やその保護者、患者に提供するリハビリテーションをチームで行うために医師や看護師、同僚の療法士などと豊かな関わりを築くための具体的方途を体験的に学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.理学療法士(以下、PT)、作業療法士(以下、OT)として人とのかかわり方を理解する。 2.PT、OTに求められる人間性や社会性について考察する。 3.PT、OTとしてのキャリア発達のために必要なスキルを身に付ける。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	あいさつの意義について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
2	自己理解について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
3	他者理解について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
4	気持ちの伝え方について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
5	関係開始について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
6	問題解決について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
7	説明や指示の伝え方について	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
8	ストレスへの対処その1	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
9	ストレスへの対処その2	ポートフォリオに学習の振り返りをする。	
10	これまでの学修を振り返る最終課題	これまでの学修を課題用紙にまとめる	
11	臨床実習の概要(廣滋恵一)	事前・実習について自分の考えをまとめておく。(90分) 事後・講義ノートをまとめレポートを作成する。(90分)	
12	臨床実習 各論(教育原理・コーチング理論)(四元孝道)	事前・講義テーマについて調べておく。(90分) 事後・講義ノートをまとめレポートを作成する。(90分)	
13	臨床実習 各論(ハラスメント)(吉田遊子)	事前・講義テーマについて調べておく。(90分) 事後・講義ノートをまとめレポートを作成する。(90分)	
14	臨床実習 各論(実習プログラム立案)(井元淳)	事前・講義テーマについて調べておく。(90分) 事後・講義ノートをまとめレポートを作成する。(90分)	
15	臨床実習 各論(実習における評価)(平澤勉)	事前・講義テーマについて調べておく。(90分) 事後・講義ノートをまとめる。(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
理学療法士(以下、PT)、作業療法士(以下、OT)として人とのかかわり方を理解することができたか。	PT、OT に求められる人間性や社会性についてじぶんなりのかんがえをもつことができたか。	PT、OT としてのキャリア発達のために必要なスキルを身に付けることができたか。	
振り返りのレポート(70%)	ポートフォリオ(20%)	授業への参加状況(10%)	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
教師のための社会性と情動の学習(SEL-8C)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
	オフィスアワーとしてメールで相談して下さい。翌週の授業後に回答します。		

授業科目名	医療人のための哲学		
担当者名	吉田 正史	実務家教員	
授業コード	1200106001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士、作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本講では、生物学をはじめ、広く生命科学の与える知見を視野に入れ自らの哲学を構築したベルクソン(仏、1859～1941)を主たる拠り所として、生命をめぐる諸問題について考察を加えたい。またジェイムス(米、1842～1910)に即し、広く確認される、人間生命の持つ宗教性についても理解を深めていきたい。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	生命をめぐる諸問題に対する哲学的視点について理解を深め、自ら諸生命概念を評価していく力を養うこと。また人間生命の持つ宗教性について理解を深めること。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	はじめに 哲学とは何か	事前:哲学という学問について多少調べておくこと(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
2	ベルクソンの哲学 ベルクソンの生涯と業績	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
3	ベルクソンの哲学 意識と持続	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
4	ベルクソンの哲学 意識と生命	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
5	ベルクソンの哲学 生命と物質	事事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
6	ベルクソンの哲学 「生の躍動」と創造的進化(1) 進化と生物種	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	
7	ベルクソンの哲学 「生の躍動」と創造的進化(2) 人間種と自己創造	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐっての下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること(90分)	

8	ベルクソンの哲学 「生の躍動」と創造的進化(3) 自己創造の射程	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
9	ベルクソンの哲学 道德の源泉としての「愛の躍動」	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
10	ベルクソンの哲学 「閉じた道德」と「開いた道德」	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
11	ジェイムズの哲学 ジェイムズの生涯と業績 (前半は第10回までの講義内容をめぐっての討論)	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ、また、討論に向けての自分の考えの整理 (90分) 事後:講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考す ること(90分)
12	ジェイムズの哲学 信仰とその正当性	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
13	ジェイムズの哲学 神の摂理と自由意志	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
14	エマソンの哲学 自己信頼	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ(90分) 事後:講義を振り返り、理解の不十分な点を熟考すること (90分)
15	まとめ 授業全体の重要事項の再確認 (前半は第11回から第14回までの講義内容をめぐっ ての討論)	事前:次回用資料の通読もしくは次回予告内容をめぐって の下調べ、また、討論に向けての自分の考えの整理 (90分) 事後:講義、討論を振り返り、理解の不十分な点を熟考す ること(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

上記の事前・事後学習のほか、講義時に指示した参考図書を読むことが望ましい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験			
100%			

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
教科書は使用しないが、適宜資料等を配付する。		
参考書又は参考資料等		
澤瀉久敬『アンリ・ベルクソン』(中公文庫、昭和 62 年)。その他参考図書は講義中に適宜指示する。		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
世にアクティヴ・ラーニングが喧しいが、勉学の外面的形式ではなく、頭の中をアクティヴにすることこそ望ましい。そのためには、まずはしっかりと講義を聴くことである。また、討論中の講師の発言がフィードバックであると心得られたい。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	講義終了後、非常勤講師控室にて質問に対応可能。	

授業科目名	医療人のための法学		
担当者名	中野 次吉	実務家教員	
授業コード	1200094001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	選択
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	人生 100 年時代が現実になりつつあるいま、個人の生き方として病気や障がいの向き合い方が重要度を増している。これに伴い、職業として様々な障がいと向き合う理学療法士や作業療法士に求められる役割もますます重要かつ多様化している。今後、理学療法士や作業療法士として職責に添えていくには、資格取得に必要な専門知識だけでなく、社会情勢や法制度など多様な知識が求められるだろう。本講義では、理学療法士・作業療法士が職務を遂行する上で知っておくべき社会の仕組みやいくつかの基礎的法制度を学修する。これらの学修を通して、今後求められる理学療法士・作業療法士像について受講者とともに考えたい。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士・作業療法士について日本国憲法はじめ関連法規における位置づけを理解できる。 2. 理学療法士・作業療法士として勤務する上で必要な法規の基礎的部分を理解できる。 3. 目指したい理学療法士・作業療法士像を自分の言葉で説明できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション :何かを自分でやるとは?	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
2	日本国憲法と法律 :憲法と法律の関係	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
3	国家と健康 :福祉国家について	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
4	理学療法士と作業療法士と憲法:国家資格である意味	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
5	理学療法士・作業療法士法①:両資格の法律上の位置づけ	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
6	理学療法士・作業療法士法②:演習 法の原文を自分で調べてみる	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
7	理学療法士・作業療法士法③:演習 国家試験過去問を解く	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
8	介護保険法① :社会保障の考え方	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
9	介護保険法② :介護サービスの種類	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
10	介護保険法③ :介護サービスの手続き	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
11	介護保険法④ :演習 原文を読み国家試験過去問を解く	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	
12	身体障害者福祉法 :福祉とは (付)高齢者の医療の確保に関する法律	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)	

13	障害者基本法と障害者総合支援法:障がいに対する支援 老人福祉法、医療法、健康増進法ほか	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)
14	演習:学修内容を基に国試問題を作成してみる	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)
15	演習:これからの福祉と障がい支援を考える	事前:なし 事後:当該回の復習、指示された内容の調査(180分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
テキストを使用しないため、事前学習は求めません。評価はレポートで行う予定です。 このため、指示した内容について事後学修を十分に行ってください。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
レポート	振り返りシート	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない(適宜資料配布)。		
参考書又は参考資料等		
適宜指示します。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
本授業は「自分で資料を収集し、考え、解を導く」思考力の養成に重点を置きます。 講義形式ですが、受け身の姿勢にならないよう努めてください。 また、授業は板書を中心に行いますので、かならずノートを持参してください。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
講義開始後に連絡します。		

授業科目名	基礎生物学		
担当者名	松崎 英章	実務家教員	○
授業コード	1000006001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>理学療法士および作業療法士の国家資格を取得して臨床で従事する際には、社会レベル(人間)や個体レベル(人)に加えて生物レベル(ヒト)で対象者の状態を生物学的に理解する必要がある。さらに、近年はコロナウイルスの流行によって世界的にも感染症対策への関心が高まり、リハビリテーション専門職にもヒトを対象とする生物学と生体防御学の知識を臨床で求められる。本講義では、リハビリテーション専門職の視点に特化して構成されたテキストを活用することによって、リハビリテーション専門職が生物学(生体防御学を含む)を学ぶことの必要性和意義に対する理解を深めていく。そのために、医療機関での実務経験を有する教員が、実際の臨床場面に則した事例や知識の活用場面の紹介を交えながら進める。また、本講義では、原則、すべての回において①事前学習(テキスト内キーワードの予習)、②講義(座学とグループワークを通じた成果物としてワークシート〔国家試験過去問題の回答を含む〕を作成する)、③事後学習(テキスト内キーワードの復習)で構成される。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1)リハビリテーション専門職が生物学を学ぶことに対する必要性和意義を理解して、他者へ説明できる。 2)リハビリテーション専門職に必要な生物学のキーワードとその意味を理解して、他者へ説明できる。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション・導入	事前学習(本講義を選択した理由と目標設定):120分 事後学習(本講義15回を通じた目標設定):120分	
2	リハビリテーションに活かす生物学	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
3	細胞・染色体・遺伝子	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
4	細胞の発生と死	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
5	胚葉の発生組織と器官	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
6	神経系・消化・代謝	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
7	血液	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
8	内分泌	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
9	ウイルスと細菌	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
10	生体防御と炎症	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	

11	免疫	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
12	アレルギーと免疫異常	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
13	個体の老化	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
14	感染症	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
15	感染対策とリハビリテーション	事前学習(キーワードの整理):120分 事後学習(キーワードの復習):120分	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前学習:テキスト内で設定されている次回の単元部分のキーワードについて配布されるシートに整理する。 事後学習:事前学習で整理したキーワードについて講義で学んだ内容をシートに補足する。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
事前・事後学習の提出	講義の成果物提出	定期試験	
20%	20%	60%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
リハベーシック 生物学・生体防御学	内山靖、他	医歯薬出版株式会社	
参考書又は参考資料等			
基本的には上記のテキストを参考としますが、單元ごとに必要があれば補足資料を配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習用に配布されたシートを用いて自己学習を進め、指定された期日までに提出してください。 ・毎回の講義では、ワークシートを配布するため、受講後に提出してください。 			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
	講義時間以外であっても、担当教員指定の時間帯に質問を受け付けます。		

授業科目名	基礎物理学		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	
授業コード	1200004001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法や作業療法には科学的根拠が必要とされています。これらを学び臨床現場で業務を行っていく中で、物理学の基礎的知識は必要となります。生活の中で起こっていたり、利用されたりしている“物理的事象”に着目しながら、講義を進めていきます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	理学療法、作業療法を行うにあたって必要な物理学(力、運動、電気、磁力、熱、音、波など)の基礎的な内容について理解する。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	物理学で学習すること(序章)	テキストの「はじめに(本書の目的と特長、本書の構成、本書の使い方)」と第1章を読んでおくこと(180分)	
2	物理量とその表し方	テキストの第2章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
3	物理学で使うグラフと関数	テキストの第3章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
4	いろいろな運動	テキストの第4章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
5	さまざまな力	テキストの第5章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
6	力のつり合いと運動の法則	テキストの第6章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
7	物体の重心と回転運動	テキストの第7章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
8	運動量、仕事とエネルギー	テキストの第8章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
9	温度と熱	テキストの第9章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
10	波の運動	テキストの第10章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
11	音と光	テキストの第11章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
12	電気と力	テキストの第12章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
13	電流と抵抗	テキストの第13章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	
14	磁気と電流	テキストの第14章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180分)	

15	原子の構造と放射線	テキストの第 15 章を読んで、サブノートの空欄に適切な語句を記入しておくこと(180 分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義で使用したサブノート(プリント)のファイリングをしておくこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	演習問題への取り組み		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
PT・OT ゼロからの物理学	望月 久、棚橋信雄	羊土社	
参考書又は参考資料等			
PT・OT 臨床につながる物理学(望月 久、棚橋信雄)羊土社			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
テキストに沿って、講義を進めていきます。テキストや配布資料等を忘れた場合には、事前に担当教員に報告すること。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	基礎化学		
担当者名	坂尻 徹也	実務家教員	
授業コード	1000007001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	化学は自然現象を理解するために必須の知識である。本講義では、大学における化学を学ぶ上で土台となる、基礎的な知識を理解し身につけることを目標とする。物質の構成粒子と粒子の結合について深く学ぶため、グループワークを行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	大学での化学を学ぶために必要な、基礎的な概念を理解する。自然現象を化学として説明するための、化学式、反応式、計算を独力であらわせるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	第2章 物質の構成粒子①	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
2	第2章 物質の構成粒子②	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
3	第2章 物質の構成粒子③	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
4	第3章 粒子の結合①	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
5	第3章 粒子の結合②	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
6	第3章 粒子の結合③ *第1回~6回の内容にて小グループのグループワークを行う	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	
7	第4章 物質と化学反応式①	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)	

8	第4章 物質と化学反応式②	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
9	第4章 物質と化学反応式③	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
10	第5章 酸と塩基の反応①	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
11	第5章 酸と塩基の反応②	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
12	第5章 酸と塩基の反応③	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
13	第6章 酸化還元反応①	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
14	第6章 酸化還元反応②	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)
15	第6章 酸化還元反応③	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(90分) 事後:指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・事前に教科書の講義内容の部分を一読しておくこと。
- ・講義の度に課題として問題を出すので、自力で解けるよう復習すること。各自で問題集の自習をすること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	授業への取組み	小テスト	
50%	30%	20%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
改定版リード Light ノート化学基礎	教研出版編集部	教研出版

参考書又は参考資料等	
講義中に適宜資料を配布する。	
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕	
・特に高等学校で化学を履修していない学生は、講義の内容を習得する積極的な姿勢が望まれる。	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	医療人のための科学		
担当者名	村田 奈保子、平澤 勉、松崎 英章	実務家教員	○
授業コード	1200107001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP3-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	科学的判断をめぐる様々な事例を通じて、科学とは何かを考える。 また、科学的思考方法について講義する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	科学技術(特に社会とのかかわりの強い側面)についてきちんと考えるためのスキルや知識を身につける。科学的にものを考えることの習慣や科学的センスを、(日常に接している身近なところから)養うコツをつかむ。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション・スマホについて考える(村田)	事前 本授業を学ぶ意義について考える(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)	
2	スマホの歴史・現在・原材料について調べる(村田)	事前 日常におけるスマホの使い方や関係について考えてくる(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)	
3	スマホの生産や流通に関する問題(村田)	事前 事前に示された動画を視聴しておく(90分) 事後 講義内容を振り返り、課題に対して自分の考えをまとめる(90分)	
4	スマホの生産や流通に関する問題についてディスカッション(村田)	事前 メンバーとディスカッションを行うための準備をする(90分) 事後 メンバーとのディスカッションを振り返り、まとめる(90分)	
5	話し合った内容をプレゼンする(村田)	事前 プレゼンの準備をする(90分) 事後 質疑を含めてプレゼンを振り返り、理解を深める(90分)	
6	高齢化について考える(松崎)	事前 事前配布資料を確認して課題を整理する(120分) 事後 学習した内容を整理して理解を深める(120分)	
7	地域における介護予防の意義について考える(松崎)	事前 事前配布資料を確認して課題を整理する(120分) 事後 学習した内容を整理して理解を深める(120分)	
8	地域における介護予防の実践方法について考える(松崎)	事前 事前配布資料を確認して課題を整理する(120分) 事後 学習した内容を整理して理解を深める(120分)	
9	地域における介護予防の実践によって期待される効果について考える(松崎)	事前 事前配布資料を確認して課題を整理する(120分) 事後 学習した内容を整理して理解を深める(120分)	
10	地域における介護予防の実践計画に関するプレゼンテーションとグループディスカッション(松崎)	事前 事前配布資料を確認して課題を整理する(120分) 事後 学習した内容を整理して理解を深める(120分)	
11	医学的な証明の限界とバイアスの排除(平澤)	事前 日常における疑問を考えてくる(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)	

12	科学的・批判的に考える 食と健康(平澤)	事前 日常における疑問を考えてくる(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)
13	食と健康について プレゼンテーションとディスカッション(平澤)	事前 発表準備(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)
14	科学的・批判的に考える 予防と健康(平澤)	事前 日常における疑問を考えてくる(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)
15	予防と健康について プレゼンテーションとディスカッション(平澤)	事前 発表準備(90分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
ディスカッションやプレゼンのための事前学習は、怠ると講義の進行に影響しますので、課題遂行状況として評価します。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
プレゼンテーション	日常の受講状況	課題の遂行状況
30%	40%	30%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
特になし		
参考書又は参考資料等		
講義の進行によって、適宜紹介します。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
・提出を求められた資料は期日までに提出してください。(松崎)		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	講義時間以外であっても、担当教員指定の時間帯に質問を受け付けます (松崎)	

授業科目名	情報処理演習 I		
担当者名	趙 華安	実務家教員	
授業コード	1200007001	授業形態	演習
学年	1 年	開講期	前期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	情報処理演習 I では、コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。マイクロソフト社が提供する Office ソフト(主に Word(図表を含む文章作成)、Excel(表計算とグラフなど)、PowerPoint(プレゼンテーション))の基本操作を学習すると共に、インターネットを利用した情報収集について学び、実践的な情報処理技術を身に着ける。Office はビジネスや日常のオフィス業務に必要な不可欠なソフトである。授業は講義と演習の融合方式である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを自由自在に使えこなせる。 ・Word で文書を作成することができ、Excel でデータの計算や表とグラフを作成することができる。 ・PowerPoint でプレゼンテーションの発表資料を作成することができる。 ・インターネットを利用する際に、情報倫理・ネットの基本理念を把握できる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	ガイダンス:情報処理を学ぶ意義、パソコンの基本操作、MS Office の紹介	事前 情報処理を学ぶ意義、パソコンの構成(50 分) 事後 Office の機能、キーボードのキー配列の調査(30 分)	
2	学内メールアドレスとユニパの使用についての説明	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 パソコンを使って授業内容を復習しておく(30 分)	
3	オンラインタイピング練習	事前 キーボードの配置を予習してくる(30 分) 事後 オンラインでタイピング練習、50 字/分を目指す(60 分)	
4	Word(1) (起動、終了、保存などの基本操作)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
5	Word(2) (文書の作成と編集の方法)	事前 教科書の内容を予習してくる(30 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
6	Word(3) (文書のデザイン)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
7	Word(4) (表、画像や写真の作成・挿入、文書校正)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
8	Excel(1) (起動、終了、保存などの基本操作)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
9	Excel(2) (データの入力・編集)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
10	Excel(3) (表計算とグラフの作成)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
11	Excel(4) (データの並べ替えと抽出)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	
12	PowerPoint(1) (PowerPoint でできること・基本操作)	事前 教科書の内容を予習してくる(45 分) 事後 レポート課題に取り組む(30 分)	

13	PowerPoint (2) (文字入力・編集、図形と画像配置、効果的なプレゼン資料の作り方とスライドショー)	事前 教科書の内容を予習してくる(45分) 事後 レポート課題に取り組む(30分)
14	情報倫理とネット	事前 情報社会における危険、脅威を調査(45分) 事後 レポート課題に取り組む(30分)
15	まとめ	事前 教科書を確認し、これまで学んだことを整理する(60分) 事後 これまで学んだことをどのように大学生生活に活用するのかを考える(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

Office ソフトの内容は非常に豊富で多様化になっており、講義だけでは説明しきれないです。自分で興味をもって継続に実習と練習する必要があります。よって、授業以外でパソコンを使って、できる限り練習するようにしてください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

日常の受講状況	情報処理に関するレポートの内容		
30%	70%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
ワード・エクセル・パワーポイント超入門 Office 2021/Microsoft 365 対応	早田絵里・大石賢治	SB クリエイティブ ISBN-13 978-4815616168

参考書又は参考資料等

Word、Excel と PowerPoint の参考書が多くあり、いろいろな参考書を読んでください。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

講義内容が理解できないときに、遠慮なく、担当教員に聞いてください。無断欠席しないでください。レポートの提出は時間厳守すること。レポートは返却しません。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
	講義の方式、進め方などに関する提案がありましたら、担当教員へ。

授業科目名	情報処理演習Ⅱ		
担当者名	久保 昂大	実務家教員	
授業コード	1200008001	授業形態	
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	情報処理演習ⅠとⅡから構成されている。情報処理演習Ⅱでは、表計算ソフトの活用方法、データ分析の基礎を学ぶ。また、データサイエンスについて触れ、大学のみならずビジネス社会で必要不可欠なコンピューターテラシーをトータルで身につける。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・人を対象に、調査を実施することができる。 ・得られたデータを分析することができる。 ・分析したデータが示す発見や意味を読み取ることができる。 ・自身の調査内容・分析内容・結果の解釈を発信することができる(Web ページやプレゼン) 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション	事前 前期の授業内容を振り返ってくる(30分) 事後 講義内容を振り返り, 理解を深める(30分)	
2	アンケート調査実施方法	事前 身近なアンケート調査にはどのようなものがあるかを調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り, 理解を深める(30分)	
3	実際に調査票を作成してみよう	事前 質問項目を考えてくる(30分) 事後 ワードを使用して調査票を作成する(45分)	
4	データとは?1	事前 事前に提示する予習内容を調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り, 理解を深める(30分)	
5	データとは?2	事前 事前に提示する予習内容を調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り, 理解を深める(30分)	
6	代表値・分散・グラフ	事前 事前に提示する予習内容を調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り, 理解を深める(30分)	
7	共分散・相関係数	事前 調査のテーマ案を考えてくる(30分) 事後 グループ活動で決めた調査と分析を実施(90分)	
8	グループ活動(調査の内容・アンケートの内容・分析手法などの決定)	事前 調査テーマを考えてくる(30分) 事後 PowerPoint で発表資料を作る(45分)	
9	RとRstudioの使い方	事前 事前に提示する資料を確認してくる(30分) 事後 授業で行なった演習を実践する(45分)	
10	Rでグラフを作ってみよう1	事前 事前に提示する資料を確認してくる(30分) 事後 授業で行なった演習を実践する(45分)	
11	グループ活動(分析内容をまとめる)	事前 調査データをまとめてくる 事後 分析結果をもとに発表スライドを作成	
12	Rでグラフを作ってみよう2	事前 事前に提示する資料を確認してくる(30分) 事後 授業で行なった演習を実践する(45分)	
13	Rmarkdownを使って再現可能なレポートを書いてみよう1	事前 事前に提示する資料を確認してくる(30分) 事後 授業で行なった演習を実践する(45分)	

14	Rmarkdown を使って再現可能なレポートを書いてみよう2	事前 発表準備をしてくる(30分) 事後 授業で行なった演習を実践する(30分)
15	発表・まとめ	事前 保存データの整理(60分) 事後 保存データの整理・応用実践(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
後半の授業では、グループで調査を実施し、その結果を分析して発表してもらいます。発表準備の進捗によっては、授業外の時間に準備をしてもらう可能性があります。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
提出物など日常の受講状況	グループ活動	
50	50	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
なし		
参考書又は参考資料等		
資料を必要に応じて配布いたします。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
学習計画は予定であり、学生の皆さんの理解度に合わせて変更する可能性があります		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	学習計画は予定であり、学生の皆さんの理解度に合わせて変更する可能性があります。	

授業科目名	健康スポーツ科学		
担当者名	八板 昭仁	実務家教員	
授業コード	1200086001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	個に応じた全面的な体づくりを行うとともにそれぞれの生活の中で計画的に実践していくことができる資質や能力を育成する。そこでは疲労回復、体調維持、健康の保持増進、基礎的体力(筋力、持久力、瞬発力、柔軟性、調整力)の向上をねらい、そしてスポーツ種目における基礎的運動能力の向上という観点から、様々な運動やトレーニング、レクリエーションスポーツなどを取りあげ実践していく。本授業では、生涯にわたってスポーツに親しんで楽しく実践できるよう様々なスポーツを体験し他人との協力や思いやり、協調性をはぐくむことを目的とする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて役立つ健康・保健教育の知識を修得する。(知識・理解) ・自己の健康・体力の維持増進のために日常的に運動する習慣を身につける。(態度・志向性) ・身体活動(スポーツ)を通して運動技能および体力の向上を目指す。(技能) ・集団の中の個人としての役割や責任を全うすることの大切さを理解することや個人対個人としてのコミュニケーション技能とソーシャルスキルを高める。(態度・志向性) 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション【スタートアップ授業】	健康の概念や興味のあるスポーツ種目のルール等についてまとめる。(事前 180 分)	
2	レクリエーションゲーム	大学入学後の平均的な1週間の運動量について記録する。(事前 180 分)	
3	基礎的体力・運動能力について	これまでの体力測定やスポーツテストの結果を調べる。(事前 180 分)	
4	体力測定方法	20歳以上を対象とした文部科学省の新体力測定種目について調べて実施方法や記録方法を理解する。(事前 180 分)	
5	新体力測定の実施	本体力測定結果について過去の測定結果等を比較して考えることをノートにまとめる。(事前 180 分)	
6	基礎的な体力の向上 I	コーディネーショントレーニングについて調べてノートにまとめる。(事前 180 分)	
7	基礎的な体力の向上 II	自重を利用した体カトレーニングの方法やその効果について調べてノートのまとめる。(事前 180 分)	
8	ウォーキングおよびジョギングによる体力向上	ウォーキングおよびジョギングをする時の注意事項についてノートにまとめる。(事前 180 分)	
9	ニュースポーツによる運動能力の向上 I	フリスビーの歴史について調べる。(事前 180 分)	
10	ニュースポーツによる運動能力の向上 II	フリスビーを用いたゲームについて種類やルールを調べてまとめる。(事前 180 分)	
11	ニュースポーツによる運動能力の向上 III	Pétanque(ペタンク)について歴史、ゲームの進め方、ルールを調べる。(事前 180 分)	
12	ニュースポーツによる運動能力の向上 IV	Boccia(ボッチャ)Pétanque(ペタンク)について歴史、ゲームの進め方、ルールを調べる。(事前 180 分)	

13	ニュースポーツによる運動能力の向上Ⅴ	Mölkky(モルック)について歴史、ゲームの進め方、ルールを調べる。
14	救助法と蘇生法	AEDの使用方法や注意事項について調べてノートにまとめる。(事前180分)
15	ライフスタイルに関するまとめ	授業を振り返り、生涯にわたって健康的にスポーツを実践するために必要なことをまとめる。(事前180分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
スポーツを実践するためには健康であることが重要になります。日頃からケガをしないための適度な運動は心掛けてもらいたい。また、授業当日に睡眠不足や食事を抜いた状態での参加は慎むこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
授業態度・参加姿勢	レポート	テスト
30%	20%	50%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
教科書は使用しない		
参考書又は参考資料等		
特になし。必要に応じて資料を配布する		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	実用英語の基礎 I		
担当者名	梅崎 義雄	実務家教員	○
授業コード	1000008001	授業形態	演習
学年	1 年	開講期	前期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>グローバル化の進む日本社会は、英語の基礎的なコミュニケーション能力をもつリハビリテーションのスペシャリストを求めている。この講義では、多様化する現代の医療とリハビリテーションをテーマにして、受講者の英語脳を育てていく。英語の一区切りの文は、基本的には、わずか3つの品詞(名詞、動詞、形容詞)を使った5種類の文で構成されている。複雑に見える文も、これらに副詞や前置詞句を足す事によってできている。英語のコミュニケーションで大切なのは、動詞によって決まるこれら5つの文型を順序よく、正しい発音で発話し、文章化するスキルである。本講義では、海外での職務経験を有する教員が、日本語にはない英語独特の音を口の形と舌の位置で正しく発音することにより自然とリスニング力も高まることを体験する。また、英語の音とスペル(つづり)の関係性を学び、1つの基本単語から派生する単語を学び、語彙力もあげていく。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。 2. 英語の音とスペル(つづり)の関係性を学ぶ。 3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。 4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。 5. 5つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	Orientation and Get to Know Each Other 文法、発音、会話	<p>事前:UNIPA で配布したプリントで、文型及び音とつづりの関係を考える。(45分)</p> <p>事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)</p>	
2	Where You Have Pain 文法、発音、会話	<p>事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分)</p> <p>事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)</p>	
3	Higher Brain Dysfunction 語彙強化、読解、聴解	<p>事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分)</p> <p>事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)</p>	
4	Describe One's Pain Part1 文法、発音、会話	<p>事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分)</p> <p>事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)</p>	
5	Describe One's Pain Part2 文法、発音、会話	<p>事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分)</p> <p>事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)</p>	

6	Parkinson's Disease Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
7	Parkinson's Disease Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
8	Development of Pain 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
9	Osteoporosis Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
10	Osteoporosis Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
11	Giving Directions for Bodily Positions Part1 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
12	Cerebral Apoplexy Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
13	Cerebral Apoplexy Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
14	Giving Directions for Bodily Positions Part2 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
15	Giving Directions for Bodily Positions Part3 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明			
「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
55%	20%	25%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない(都度資料を配布)			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ(図表やイラストなど)や独創性も評価します。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	英会話 I		
担当者名	神崎 淳子	実務家教員	
授業コード	1200108001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年の国際化により、理学療法士が外国人の患者を受けもつ機会も増えてきている。そこで、理学療法士がよく使う英語表現を、普段臨床で使う場面を想定し、会話形式でシャドーイングを取り入れて練習する。テーマ毎の頻出フレーズを正しい英語の音で発音することによりリスニング力をあげる。また、基礎になる5つの文型を意識しながらよどみなく簡単な英文が発話できるように練習する。以上により、理学療法士として、現場での基礎的な英語コミュニケーション能力を養う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	① 医療関連の英単語を発音し聞き取れる。 ② 発話に必要な基礎文法をマスターする。 ③ 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが発話できるようになる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	Lesson 1 初回の挨拶をしよう	事後学習:Unit1 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
2	Lesson 2 痛む部位を聞いてみよう	事後学習:Unit2 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
3	Lesson 3 痛みの種類や程度を聞いてみよう	事後学習:Unit3 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
4	Lesson 4 痛みの経過を聞いてみよう	事後学習:Unit4 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
5	Lesson 5 基本的な肢位を指示してみよう	事後学習:Unit5 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
6	Lesson 6 応用的な肢位を指示してみよう	事後学習:Unit6 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
7	Presentation ペアで会話の発表	事前学習:プレゼンテーションの準備を行う (45分)	
8	Presentation ペアで会話の発表 Review Lesson 1-6	事前学習:プレゼンテーションの準備および Unit1-Unit6 の復習を行う (45分)	
9	Lesson 7 バイタルサインを確認しよう	事後学習:Unit7 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
10	Lesson 8 自動可動域を測定してみよう	事後学習:Unit8 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
11	Lesson 9 他動可動域を測定してみよう	事後学習:Unit9 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
12	Lesson 10 体幹の可動域を測定してみよう	事後学習:Unit10 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする(45分)	
13	Lesson 11 頸部の可動域を測定してみよう	事後学習:Unit11 の会話文をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
14	Presentation ペアで会話の発表	事前学習:プレゼンテーションの準備を行う (45分)	

15	Presentation ペアで会話の発表 Review Lesson 1-11	事前学習:プレゼンテーションの準備および Unit1-11 の振り返りを行い、試験に備える(45分)		
準備学習・事後学習等についての補足説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業 2 回目以降は、毎回英単語の小テストを行います。 ・ダウンロードした音源を使ってシャドーイング・ディクテーションの練習を行い、スピーキングおよびライティングのスキルを伸ばします。 				
成績評価の方法[評価項目と割合] ※上段:評価項目、下段:割合(%)				
定期試験	英語プレゼンテーション	小テスト	提出物	
50%	30%	10%	10%	
使用テキスト				
書籍名	著者	出版社		
PT・OT が書いたリハビリテーション英会話	三木貴弘など	メジカルビュー社		
参考書又は参考資料等				
breaking news english、cnn など				
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]				
<ul style="list-style-type: none"> ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。 				
担当教員の連絡先等				
教員 E-mail	その他			

授業科目名	実用英語の基礎Ⅱ		
担当者名	梅崎 義雄	実務家教員	○
授業コード	1000009001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	実用英語の基礎Ⅰに引き続き、海外での職務経験を有する教員が、多様化する現代のリハビリテーションについて、テーマを変えて、受講者の英語脳をさらに育てていく。この講義では、英語のコミュニケーションに幅や奥深さをつけるために必要な品詞について学ぶ。これらの品詞は、それぞれに役割があり、文型や他の品詞との関係で置く場所が決まる。これは、会話や文を書く際に、大切である。前期でマスターした5つの文型にこの知識を加えることにより、英語力の幅や奥深さが育つ。さらに、発話の際のリズムやアクセントを学ぶことにより、より自然な会話が楽しめるようになる。本講義では、実用英語の基礎Ⅰでカバーできなかった英語独特の音の数を増やして、さらに学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語独特の音を出せるようになり、その音に対するリスニング力をあげる。 2. 英語の音とスペル(つづり)の関係性を学ぶ。 3. 基本単語とその派生語の関係性を学ぶ。 4. 動詞によって決まる5つの文型を書き、発話できるようになる。 5. 5つの文型を更に、副詞や前置詞句を使って発展させる。 6. 文中の単語の位置や句の中でのその位置から単語の品詞を判定できるようになる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	文中の品詞判定の鉄則を学ぼう Cardiovascular Disease Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリントで、文中の品詞判定の鉄則を考える。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)	
2	Cardiovascular Disease Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)	
3	Cardiovascular Disease Part3 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)	
4	Health Condition Part1 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)	
5	Health Condition Part2 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)	

6	Diabetes Mellitus Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
7	Diabetes Mellitus Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
8	Diabetes Mellitus Part3 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
9	Diabetes Mellitus Part4 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
10	Flexibility Part1 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
11	Flexibility Part2 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
12	Flexibility Part3 文法、発音、会話	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
13	Respiratory Disease Part1 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
14	Respiratory Disease Part2 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)
15	Respiratory Disease Part3 語彙強化、読解、聴解	事前:UNIPA で配布したプリント内の知らない単語の意味を調べる。(45分) 事後:講義で理解した内容をアイデアノートにまとめる。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明			
「アイデアノート」用 A4 ノートを準備してください。PC で作成しても構いません。半期終了時、提出してもらいます。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業への取組み姿勢	アイデアノート	
55%	20%	25%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない(都度資料を配布)			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
アイデアノートの作成を課します。クリエイティビティ(図表やイラストなど)や独創性も評価します。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	英会話Ⅱ		
担当者名	神崎 淳子	実務家教員	○
授業コード	1200112001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	前期の授業で習熟したリスニング、スピーキングスキルをさらに高め、身近な医療関連のトピックについて読んで理解できるようにする。さらに、自分の意見を書くことができるようにする。以上により、理学療法士あるいは作業療法士として、現場での基礎的なライティングスキルを含めた英語コミュニケーション能力を養う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	① 医療関連の英単語を発音し聞き取れる。 ② 会話時に必要なフレーズや自分の意思や意見を表現する簡単なフレーズが発話できるようになる。 ③ 様々な医療に関する英文を読んだり、書いたりするための基礎文法をマスターする。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	Lesson 12 筋力を測定してみよう	事後学習:Unit12 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
2	Lesson 13 触覚検査をしてみよう	事後学習:Unit13 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
3	Lesson 14 バランスを検査してみよう	事後学習:Unit14 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
4	Lesson 15 歩行評価をしてみよう	事後学習:Unit15 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
5	Lesson 16 ホームエクササイズを指導してみよう	事後学習:Unit16 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
6	Lesson 17 RICE 処置を指導してみよう	事後学習:Unit17 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
7	Lesson12-Lesson17 のまとめ Presentaiton の準備	事前学習:プレゼンテーションの準備を行う (45分)	
8	Presentation ペアで会話の発表	事前学習:プレゼンテーションの反省および Unit12-17 の復習を行う(45分)	
9	Lesson 18 移乗動作の練習をしてみよう	事後学習:Unit18 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
10	Lesson 19 食事の評価と指導をしてみよう	事後学習:Unit19 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
11	Lesson 20 適切な歩行補助具を選択してみよう	事後学習:Unit20 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
12	Lesson 21 自宅のトイレを改修してみよう	事後学習:Unit21 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
13	Lesson 22 退院後の生活指導をしてみよう	事後学習:Unit22 の会話をダウンロードし、シャドーイング・ディクテーション練習をする (45分)	
14	Lesson18-Lesson22 のまとめ Presentaiton の準備	事前学習:プレゼンテーションの準備を行う (45分)	

15	Presentation ペアで会話の発表 Review Lesson 12-2 2	事後学習:プレゼンテーションの反省および Unit18-22 の復習を行い、試験に備える (45 分)		
準備学習・事後学習等についての補足説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業 2 回目以降は、毎回英単語の小テストを行います。 ・ダウンロードした音源を使ってシャドーイング・ディクテーションの練習を行い、スピーキングおよびライティングのスキルを伸ばします。 				
成績評価の方法[評価項目と割合] ※上段:評価項目、下段:割合(%)				
定期試験	英語プレゼンテーション	小テスト	提出物	
50%	30%	10%	10%	
使用テキスト				
書籍名	著者	出版社		
PT・OT が書いたリハビリテーション英会話	三木貴弘など	メジカルビュー社		
参考書又は参考資料等				
breaking news english、cnn など				
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]				
<ul style="list-style-type: none"> ・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参してください。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ってください。 				
担当教員の連絡先等				
教員 E-mail	その他			

授業科目名	フランス語の基礎		
担当者名	Comont Thierry	実務家教員	
授業コード	1200109001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	選択必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	対話形式で行う。ABC(ア、ベ、セーと発音する)から始めて、より複雑な構文の知識までを体系的に学習していくが、あわせて仏文和訳、和文仏訳および基本的なフランス語によるコミュニケーションの練習を行う。また、フランスという国の現状やフランス人の生活など文化的な特徴にも触れる。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	平易な文章を読みこなせるようになる。基本的な聴き取り能力や会話能力を身に付ける。生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知る。具体的には:1. フランス語の発音がきちんとできるようになる。2. 簡単なコミュニケーションができるようになる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	初対面/自己紹介(やり方)	事後:自己紹介の会話を3回書く。(45分)	
2	自己紹介(実践)/子音と母音/子音の役割/音節とは	事前:自己紹介を復習する。子音と母音の違いを調べる(定義)。(45分)	
3	フランス語の成り立ち/アルファベット/"w"と"y"	事前:フランス語の成り立ちを調べる(15分) 事後:フランス語でアルファベットの発音練習をする。(30分)	
4	アルファベットの書き方/フランス語の母音	事後:フランス語の母音の発音を練習する。(45分)	
5	挨拶/フランスという国/数字:0~20	事前:インターネットのWikipedia等で、フランスの基本情報を読んでおく。(15分) 事後:フランス語の挨拶と20までの数字を言えるまで練習する。(30分)	
6	フランス語の子音/名詞の性/文章の基本構成	事後:ノートを活用し、今まで習った事を復習する。(45分)	
7	プリント(動詞/単語)/ETRE/指示形容詞/所有形容詞[単数]	事後:1)ETREの現在形を復習する。(30分) 2)宿題:ETRE動詞を使って、文章を5個作成する。(30分)	
8	AVOIR/IL Y A~/ALLER/~から~まで	事後:1)AVOIRとALLERの現在形を復習する。(20分) 2)宿題:AVOIRとALLER動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。(40分)	
9	VENIR/ここ、そこ、あそこ/否定形	事後:1)VENIRの現在形を復習する。(30分) 2)宿題:VENIR動詞を使って、文章を3個(肯定文と否定文)作成する。(40分)	
10	中間テスト(20分)/FAIRE/天気表現	事前:今まで習った事を復習する。(15分) 事後:宿題:FAIRE動詞を使って、文章を5個作成する。(30分)	

11	形容詞:位置と変化/SAVOIR/CONNAITRE	事後:1)SAVOIRとCONNAITREの現在形を復習する。 (15分) 2)宿題:SAVOIRとCONNAITRE動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。(30分)
12	COMPRENDRE/とても/たくさん	事後:1)COMPRENDREの現在形を復習する。(20分) 2)宿題:COMPRENDRE動詞を使って、文章を5個作成する。(25分)
13	冠詞(不定/定/部分)/VOULOIR/POUVOIR	事後:1)VOULOIRとPOUVOIRの現在形を復習する。 (20分) 2)宿題:VOULOIRとPOUVOIR動詞を使って、文章を3個ずつ作成する。(25分)
14	ETREとIL Y A/数字:21以上/所有形容詞[複数]	事前:ETREとAVOIRと20までの数字を復習する。 (15分) 事後:今まで習った事を復習する。(30分)
15	現在形(-er動詞[基本的な活用])/前期のまとめ	事前:ノートやプリントを読みなおし、最後の授業で質問するため、疑問点をリストにする。(45分) 事後:ノートやプリントを活用し、講義全体を復習する。 (90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

1. 予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。
2. 文章作成の宿題を提出すること。添削後返却するので、活用すること。

成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)

宿題提出	中間テスト	定期試験	
10%	20%	70%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない(プリントを配布する)		

参考書又は参考資料等

最初の授業の時に紹介する

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

言葉は実戦で身に付けるものなので、習った事を使ったり、分からない時は質問をしたりして、授業中は積極的に取り組んでほしい。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
	講義終了後の質問等対応可

授業科目名	中国語の基礎		
担当者名	鳥丸 知子	実務家教員	
授業コード	1200110001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	選択必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	中国語の発音・文法の基礎を習得する。簡単な日常会話が身につくレベルまで到達することを目標とする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	簡単な日常会話が話せ、聴き取れるレベルまで到達する。同時に、中国の文化を知り、異文化に対する理解を深め、異文化コミュニケーション能力を身につける。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション:この講義の目的と講義内容の紹介及び学習方法についての説明。中国語概説:中国語について。	事前:「中国語」とは何か、について調べておくこと(30分) 事後:講義内容の復習(30分)	
2	発音(1)声調、単母音、複母音、無気音と有気音、そり舌音	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
3	発音(2)鼻音を伴う母音、声調の変化、軽声	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
4	第1課:初対面の挨拶を学ぶ。断定動詞「是」、「不是」、「也是」、人称代名詞等。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
5	引き続き第1課。初対面の挨拶ができるように繰り返しの朗読及び復唱する。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
6	第2課:尋ね方と答え方を学ぶ。これ、それ、あれの言い方。日常的によく使う呼称について説明する。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
7	引き続き第2課。尋ね方と答え方を復習する一方、よく使う呼称を使って挨拶の練習をする。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
8	第3課:形容詞の学習。形容詞の肯定形、否定形及び比較について説明し、基本文型を使って、形容詞の基本を覚える。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	
9	引き続き第3課。前回習った内容を復習しながら、基本文型を使って覚える。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)	

10	第 4 課:数の数え方(指で中国式)月、日、曜日、時刻の言い方を学ぶ。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)
11	引き続き第 4 課。特に曜日の言い方について、日本との比較を重点的に説明する。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)
12	第 5 課:一般動詞を学ぶ。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)
13	引き続き第 5 課。一般動詞の現在進行形の表現法。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)
14	第 6 課:有る、在るの表現法。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)
15	引き続き第 6 課。有る、在るについて復習する。	事前:テキスト指定範囲(授業時に通知)を通読すること(30分) 事後:授業内容の復習(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

単語帳を作成し、簡体字表記や発音の練習及び意味の理解に努めること。

成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)

授業への取り組み	定期試験		
60%	40%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
《新板》中国語 10 課	方如偉・王智新・鐙屋 一	白水社

参考書又は参考資料等

「どんと来い中国語」 <https://dokochina.com/ime.htm>

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

発言時間を多く設け、会話練習を中心に授業を進める。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
非公開とする。	授業終了後 10 分間は、教室にて待機。

授業科目名	韓国語の基礎		
担当者名	元 慶臣	実務家教員	
授業コード	1200111001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士、作業療法士 選択必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	未習者を対象とした基礎から始める授業である。自然な発音が身に付けられるよう繰り返し発音練習をすることが本授業の主な内容である。さらにハングルの仕組みを覚え、特に日本語にはない音節に関しては、発音方法を理解した後、集中的に何度も聞き、また発音することにより、本学期中に韓国語の発音を体系的にマスターすることを目指す。簡単な文型や、日常的に使用されるあいさつフレーズを学習した後は、ペアワークやロールプレイなどの方式を用いて、実践形式の練習を行なう。また韓国の社会事情や文化なども学習し、韓国に対する理解を深めながら、韓国語の基礎的な能力の定着を図る。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①ハングルを体系的にマスターする。(韓国語で基本的な読み書きが出来る) ②簡単なあいさつフレーズを発せられるようにする。 ③単語やフレーズについて、自然な発音ができるようにする。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	ガイダンス、1 授業の説明と朝鮮語概説、ハングル文字、子音14文字と基本母音10文字を覚える。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	
2	ハングル文字の書き順を覚え、発生の聞き取りを練習する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	
3	平音・激音・濃音などの音の違いを学び、発音を練習する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	
4	パッチム1(終音子音)がつくハングル文字の発声を練習する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	
5	パッチム2(終音子音)がつくハングル文字の発声を練習する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	
6	音の変化、日常のあいさつ、数字	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)	

7	小テスト、韓国映画、ドラマ鑑賞映画を鑑賞し、韓国語及び韓国人の生活を理解する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
8	教科書 第1課「こんにちは」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
9	教科書 第2課「この人は誰ですか」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
10	教科書 第3課「これは何ですか」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
11	小テスト、韓国映画、ドラマ鑑賞映画を鑑賞し、韓国語及び韓国人の生活を理解する。	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
12	教科書 第4課「今どこに行きますか」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
13	教科書 第5課「趣味は何ですか」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
14	教科書 第6課「運動靴を買いたいです」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)
15	教科書 第7課「韓国料理は好きですか」	事前:テキスト指定範囲(掲示又は UNIPA にて通知)を通読しておくこと(30分) 事後:指定した用語を調べ解釈を加えたノートを作成(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

語学の見、書く、聞く、話すを基本とした学習をするために沢山練習ノートに書いたり、自分の声を録音して聞き比べる。回数を重ねることに文字の奇麗さや発音の上達さを確かめる。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	レポート・発表	キーワードノートの完成度	授業への取り組み
50%	20%	20%	10%

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
いよいよ韓国語	金菊熙	朝日出版社
参考書又は参考資料等		
日韓電子辞書(スマートフォン)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
<p>沢山書いて覚える観点から講義ノート以外に専用練習ノートを作ります。毎回提出(成績評価対象)また自分が興味がある物について韓国語でPPTを作成し発表。やり方は授業中で説明します。(成績評価対象)授業についていけない学生には個別に別途の課題を出します。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	講義の前後 10 分間は非常勤講師控室で質疑等対応可。	

授業科目名	解剖学 I		
担当者名	片岡 真司	実務家教員	
授業コード	1200073001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかに巧みに統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1)細胞・組織・器官:人体を構成する細胞・組織・器官の多様性への理解を深め、客観的に説明できるようになる。 2)骨格系:身体の運動や姿勢を支持する骨・靭帯の構造と機能への理解を深め、客観的に説明できるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	解剖学総論:解剖学とは、人体の概要と解剖学用語	事前:(教科書 p3-8)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
2	人体の構成:細胞	事前:(教科書 p9-12)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
3	人体の構成:組織、器官、器官系	事前:(教科書 p13-20)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
4	人体の発生:胚子の発生、器官系の発生、胎児の発生	事前:(教科書p21-36)を通読しておくこと(90分) 事前: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
5	骨学総論:骨の形態、骨の構造、骨の血管と神経、骨の機能、骨の発生、骨のリモデリング	事前:(教科書 p37-45)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
6	骨学各論:頭蓋	事前:(教科書 p46-57)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
7	骨学各論:脊柱、胸郭とその連結	事前:(教科書 p58-67)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
8	骨学各論:上肢帯、上腕骨	事前:(教科書 p68-72)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
9	骨学各論:前腕骨、手	事前:(教科書 p72-77)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
10	骨学各論:下肢帯、骨盤	事前:(教科書 p78-82)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
11	骨学各論:自由下肢骨	事前:(教科書 p82-92)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
12	関節靭帯総論:骨の連結、関節の構造と機能	事前:(教科書 p97-104)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
13	関節靭帯各論:頭蓋の連結、脊柱、胸郭	事前:(教科書 p113-122)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	

14	関節靭帯各論: 上肢の連結	事前: (教科書 p123-137)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
15	関節靭帯各論: 下肢の連結	事前: (教科書 p137-154)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
教科書、参考書、配布資料などを用いた準備学修・事後学修			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段: 評価項目、下段: 割合(%)			
定期試験			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版	編集 野村 嗟	医学書院	
参考書又は参考資料等			
人体解剖カラーアトラス(南江堂)、分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(金原書店)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
授業ではプリントに色を塗るなどの指示をすることがあるので、色鉛筆などの準備が望ましい。 人体解剖カラーアトラス(南江堂)、分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(金原書店)の関連項目を学修する。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	解剖学Ⅱ		
担当者名	片岡 真司	実務家教員	
授業コード	1200074001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	医療職を目指す者にとって、解剖学は最も基礎的な学問で、人の体のことを学ぶ為の入り口である。人体各部の正常な構造ならびに形態を理解する。細胞、組織、器官および器官系など、人体を構成する基本的構造がいかに巧妙に統合され機能しているかを理解する。以下、系統解剖学的観点から学習する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 筋肉系: 身体の運動や姿勢を支持する筋肉の構造と機能への理解を深め、客観的に説明できるようになる。 2) 神経系: 脳・脊髄およびこれに出入りする末梢神経系の構造と機能への理解を深め、客観的に説明できるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	筋学総論: 筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用	事前: (教科書 p161-176)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
2	筋学各論 1: 上肢帯の筋、上腕の筋	事前: (教科書 p196-199)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
3	筋学各論 2: 前腕の筋、手の筋	事前: (教科書 p199-210)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
4	筋学各論 3: 下肢帯の筋、大腿の筋	事前: (教科書 p211-217)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
5	筋学各論 4: 下腿の筋、足の筋	事前: (教科書 p217-227)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
6	筋学各論 5: 頭部の筋、頸部の筋	事前: (教科書 p178-184)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
7	筋学各論 6: 胸部の筋、腹部の筋、背部の筋	事前: (教科書 p184-196)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
8	神経学総論 1: 神経系の区分、神経系の構成	事前: (教科書 p229-235)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
9	神経学総論 2: 髄膜と脳室系、神経系の発生	事前: (教科書 p235-240)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
10	中枢神経系 1: 脊髄、脳幹、小脳	事前: (教科書 p241-255)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
11	中枢神経系 2: 大脳	事前: (教科書 p256-267)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
12	中枢神経系 3: 神経路	事前: (教科書 p268-277)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	
13	末梢神経系 1: 脊髄神経	事前: (教科書 p278-300)を通読しておくこと(90分) 事後: 学習した解剖学用語の復習(90分)	

14	末梢神経系 2:脳神経	事前:(教科書 p300-311)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
15	末梢神経系 3:自律神経	事前:(教科書 p311-314)を通読しておくこと(90分) 事後:学習した解剖学用語の復習(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
教科書、参考書、配布資料などを用いた準備学修・事後学修			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
中間試験	定期試験		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版	編集 野村 嗟	医学書院	
参考書又は参考資料等			
人体解剖カラーアトラス(南江堂)、分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(金原書店)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
授業では配布資料に色を塗るなどの指示をすることがあるので、色鉛筆などの準備が望ましい。 人体解剖カラーアトラス(南江堂)、分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(金原書店)の関連項目を学修する。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	生理学 I		
担当者名	太田 一樹	実務家教員	
授業コード	1200075001	授業形態	講義
学年	1 年	開講期	前期
単位数	2 単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>私たちの身体は非常に多くの細胞からできている。それぞれの細胞が集まってある特定の機能を持った器官を形成し、それらの器官が統合されて一人の身体を構成している。生理学は、細胞の機能から個体の行動に至るまでの正常な機能を理解する学問である。生理学 I では、生命単位である細胞を構成する細胞内小器官、細胞が生きていくのに必要な栄養を摂取する消化器系、酸素や二酸化炭素の運搬、凝固・線溶系などに関与している血液系、代謝に必要な酸素を摂取する呼吸器系、栄養素・酸素・老廃物などを運搬する循環器系、不必要な物質を排泄する腎・尿路系について学ぶ。生理学 I と生理学 II を通じて、私たち一人ひとりの人間の生命がどのように維持されているかについて具体的に理解する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>学生は下記の到達目標を達成できる。</p> <p>(1) 私たちの身体を構成する各臓器の働きについて説明できる。</p> <p>(2) 細胞内小器官について、その役割を説明できる。</p> <p>(3) 生体を構成している系の中でも、消化器系、血液系、呼吸器系、循環器系、腎・尿路系について、その機能を説明できる。</p> <p>(4) 私たちの身体が如何に巧妙に協調して機能しているかを理解し、生命の貴重さを説明できる。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、細胞内小器官	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
2	消化器系①(上部消化管)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
3	消化器系②(下部消化管)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
4	消化器系③(肝臓、胆嚢、膵臓)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
5	血液系①(赤血球、白血球)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
6	血液系②(血小板、血液凝固・線溶系)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
7	循環器系①(心臓)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
8	循環器系②(刺激伝導系)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
9	循環器系③(血圧調節)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
10	呼吸器系①(外呼吸・内呼吸)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	

11	呼吸器系②(呼吸運動)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
12	腎・尿路系①(腎臓、尿管、膀胱)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
13	腎・尿路系②(尿の生成と体液調節)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
14	酸塩基平衡	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
15	生理学 I のまとめ(生理学 I で学んだ臓器間の統合)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義の前に授業のテーマについて、テキストを読み、質問事項を整理しておく。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業への取組み		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版	岡田隆夫 他2名	医学書院	
参考書又は参考資料等			
1. 標準生理学 第9版 本間研一監修 医学書院(2020年)			
2. 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 志村二三夫他編 羊土社(2020年)			
3. カラー図解 人体の正常構造と機能 改訂第4版 坂井建雄他編 日本医事新報社(2021年)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	生理学Ⅱ		
担当者名	太田 一樹	実務家教員	
授業コード	1200076001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>私たちの身体は非常に多くの細胞からできている。それぞれの細胞が集まってある特定の機能を持った器官を形成し、それらの器官が統合されて一人の身体を構成している。生理学は、細胞の機能から個体の行動に至るまでの正常な機能を理解する学問である。生理学Ⅱでは、生理学Ⅰで学んだ諸器官を統合する神経系や内分泌系、その指令で動く骨・筋肉系、種を維持するための生殖器系、感染などから私たちの身体を守る免疫系について学ぶ。生理学Ⅰと生理学Ⅱを通じて、私たち一人ひとりの人間の生命がどのように維持されているかについて具体的に理解する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>学生は下記の到達目標を達成できる。</p> <p>(1)私たちの身体を構成する各臓器の働きについて説明できる。</p> <p>(2)生体を構成している系の中でも、骨・筋肉系、内分泌系、生殖器系、免疫系、神経系について、その機能を説明できる。</p> <p>(3)各臓器がどのように統合して生体の内部環境を維持しているのかを説明できる。</p> <p>(4)私たちの身体が如何に巧妙に協調して機能しているかを理解し、生命の貴重さを説明できる。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	骨系	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
2	筋肉系	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
3	骨代謝回転とカルシウム代謝	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
4	内分泌系①(視床下部・下垂体ホルモン)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
5	内分泌系②(甲状腺、副腎)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
6	内分泌系③(その他のホルモン)、生殖器系	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
7	免疫系	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
8	神経系①(中枢神経)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
9	神経系②(神経系を構成する細胞、神経系の興奮)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
10	神経系③(神経系の伝導、シナプス伝達)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
11	神経系④(自律神経)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	

12	神経系⑤(脳神経)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
13	感覚器系	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
14	栄養、代謝、体温調節	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
15	生理学Ⅱのまとめ(生理学Ⅱで学んだ臓器間の統合)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義の前に授業のテーマについて、テキストを読み、質問事項を整理しておく。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業への取組み		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版	岡田隆夫 他2名	医学書院	
参考書又は参考資料等			
1. 標準生理学 第9版 本間研一監修 医学書院(2020年)			
2. 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 志村二三夫他編 羊土社(2020年)			
3. カラー図解 人体の正常構造と機能 改訂第4版 坂井建雄他編 日本医事新報社(2021年)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	解剖生理学総合実習		
担当者名	太田 一樹、片岡 真司	実務家教員	
授業コード	1200077001	授業形態	実習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP-2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>【太田】1年次の生理学Ⅰ・Ⅱで学修した内容をより深く理解するために、生命現象の基礎として、基本的な生理機能を観察する。教科書・参考書に記載されている内容や生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基礎にして、自分自身で実際に実験することにより、科学的なものの考え方、事象のとらえ方について理解を深める。</p> <p>【片岡】解剖学および運動解剖学特論の講義で履修した内容を、実際に自分の眼と手で確かめ、より理解を深めることを目的とする。脳脊髄標本、人体解剖体の観察ならびにスケッチを行う。同時に人の生命に対する神秘、尊厳について教授する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>【太田】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実験の目的を明確に理解し、説明できる。 2) 実習で得られたデータを科学的に把握するとともに、生体内の現象を理解できるようになる。 3) 生体からの情報を正確に測定し、そのデータの意義を説明できるようになる。 4) 実習で用いる機器の測定原理を説明でき、正しく使用できるようになる。 5) 生体の各システム(系)が統合して生体を維持・調節していることを説明できるようになる。 <p>【片岡】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 胸部・腹部内臓の有機的な位置関係を説明することができる。 2) 心臓の構造、動・静脈、神経の走行、分布を確認し、臓器との関係を説明できる。 3) 筋の起始・停止を確認し、支配神経、作用について説明できる。 4) 関節の解剖を行い、その形態との関連性を説明できる。 5) 人体解剖実習を通して生命の神秘、生命の尊厳を自ら学び、倫理観の育成に努める。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(生理学分野)(実習の進め方、課題提出、評価について)、盲点の測定【太田】	事前:シラバスで実習内容の全体を把握する(15分) 事後:配布資料で実習内容を理解する(30分)	
2	バイタルサインの測定【太田】	事前:バイタルサインとはなにかを考える。配布資料で第2-3回の内容を予習する(15分) 事後:血圧計の使用方法を復習する(30分)	
3	運動負荷によるバイタルサインの変動【太田】 ※第1回レポート提出課題	事後:グループごとに協力してレポートを作成する(45分)	
4	心電図(定規を各自持参すること)【太田】	事前:配布資料で実習内容を予習する(15分) 事後:心電図の正常波形の成り立ちを復習する(30分)	
5	感覚(二点弁別閾、棒反応時間)【太田】	事前:配布資料で実習内容を予習する(15分) 事後:課題を復習する(30分)	
6	酸素負債【太田】※第2回レポート提出課題	事後:グループごとに協力してレポートを作成する(45分)	
7	組織実習バーチャルスライドで骨格筋組織・骨組織・軟骨組織の微細構造を観察(色鉛筆を各自準備すること)【太田】	事前:各組織の微細構造を予習する(25分) 事後:各組織の微細構造とその機能を復習する(20分)	

8	重量感覚【太田】	事前:配布資料で実習内容を予習する(15分) 事後:課題を復習する(30分)
9	9~23回は集中講義骨学実習1:脊柱、胸郭、骨盤、上肢、下肢【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
10	骨学実習2:頭蓋【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認
11	解剖学実習の目的。献体とは。体の区分、胸部・腹部の筋。胸部・腹部臓器の位置関係、腹膜後器官の確認【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
12	消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系臓器ならびに相互関係の確認。心臓ならびに循環器系(大循環、小循環ならびにリンパ系)特に腹部循環器系の確認【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(120分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
13	胸神経と肋間動静脈の解剖。頸ならびに腕神経叢、腰仙骨神経叢の解剖。交感神経幹、大・小内臓神経の解剖【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
14	上肢屈筋群、下肢前面の筋の解剖。腹腔神経叢、腸間膜動脈神経叢、骨盤神経叢の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
15	体幹背部の筋の解剖。上肢帯背側、上肢の伸筋群ならびに手背の解剖。殿部の筋、大腿後面、膝窩の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
16	上肢帯の筋、上肢の伸筋群、手掌の解剖。下腿後面、足底の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
17	肩関節の解剖。膝関節の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
18	肘関節の解剖。股関節の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(60分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(60分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
19	実習 1-10 までの解剖学的構造の相互関係【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習 1-10 までの内容を復習しておくこと 事後:(120分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
20	脳解剖の予習【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(120分)脳構造の主要な構造について確認資料を作成する
21	手の関節と靭帯の解剖。足の関節と靭帯の解剖。【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(120分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する

22	脳・脊髄の解剖【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(120分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する
23	骨実習、脳実習、人体解剖実習のまとめ【九州歯科大学 片岡】	事前:(120分)実習 12-14 までの実習内容の範囲を復習しておくこと 事後:(120分)実際の観察に基づくスケッチを資料で確認する。人体の複雑な解剖学的構造、その相互関係、生命の神秘、生命の尊厳、解剖学実習についてレポートを作成する。

準備学習・事後学習等についての補足説明

片岡:毎回、リハ実習書ならびに教科書の予習をしてくること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

実習態度(太田)	レポート(太田)	その他(片岡)	
授業態度(片岡)	レポート(片岡)		
30%(太田)	70%(太田)	50%[スケッチ 30%、感想文	
20%(片岡)	30%(片岡)	20%](片岡)	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
【太田】標準理学療法・作業療法 生理学 第5版(1年生の生理学で使用した教科書と同じものです)	岡田隆夫 他2名	医学書院
【片岡】 準理学療法学・作業療法学解剖学(第5版) 分担解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ人体解剖カラーアトラス 原著第8版実習書(配布プリント)	野村 嗟小川 鼎三ら佐藤達夫	医学書院金原書店南江堂

参考書又は参考資料等

【太田】生理学実習 NAVI 第2版 医歯薬出版管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学実験ノート 帝塚山大学出版会標準生理学第9版 本間 研一(監修)医学書院

【片岡】できるわかる人体解剖実習、哲学堂出版

骨学実習アトラス:日本医事新報社、解剖実習のてびき:南山堂

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

成績評価は解剖学分野 50%と生理学分野 50%の総合でおこなう。

【太田】

①開講日が不規則であるので注意すること。詳細な日程は第1回目のオリエンテーションで通知する。

②体調不良や忌引きによる欠席の取り扱いについては、第1回目のオリエンテーションで通知する。

【片岡】

ご遺体は自分の死後、医学医療の発展のために無条件無報酬で自ら解剖されることを申し出られ献体された方々です。この篤志献体者の志を忘れてはならない。また、献体を用いた実習が成就できるのはご家族、病院、社会福祉関係者など多くの方々のご協力があって初めて可能なことであることも忘れてはならない。

心得:

①ご遺体に常に感謝の念を持つ。

②ご遺体に礼を失してはならない。

③ご遺体のご意思を考える。

④ご遺体に報いることを考える。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail

その他

--	--

授業科目名	運動学 I		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	○
授業コード	1200113001	授業形態	講義
学年	1 年	開講期	後期
単位数	2 単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	運動学(kinesiology)とは、ヒトの身体運動のしくみを追求する学問であり、解剖学、生理学及び生体力学を基盤として身体運動を分析する応用化学と言われている。講義は、労災病院での臨床経験を有する教員が、テキストに沿って項目ごとにプリントに記入してサブノートを作成して、内容を十分理解しながら進めていく。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	前半では、生体力学の基礎知識、運動器の構造と機能(特に関節の構造や筋の働き)及び「てこ」や「ベクトル」などの基本的な計算ができるようになる。 後半では、上肢帯と上肢の正常な関節運動のしくみを理解したうえで、異常な関節運動が起こる原因とそのメカニズムを自ら考察することができるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	運動学の領域について、生体力学の基礎 ① (身体運動と力学、身体運動の面と軸)	事後:学習した範囲のテキストを見直し、サブノートを見直したうえで、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(180分)	
2	生体力学の基礎 ② (運動の観測、並進・回転運動、筋力と重力、モーメント、重心と姿勢について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
3	生体力学の基礎 ③ (運動法則、身体運動とてこ、てこの種類)、 国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
4	運動器の構造と機能 ① (運動器について、骨と関節の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
5	運動器の構造と機能 ② (腱、靭帯、骨格筋の構造と機能)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	

6	上肢帯と肩関節の運動 ① (機能解剖、関節の構造と機能、関節唇、靭帯の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
7	上肢帯と肩関節の運動 ② (筋作用と運動の特徴、腱板の構造と機能、肩甲骨の位置と運動)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
8	上肢帯と肩関節の運動 ③ (肩関節の動きの特徴、上肢帯の筋)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
9	上肢帯と肩関節の運動 ④ (肩関節に関与する筋群)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
10	肘関節と前腕の運動 ① (機能解剖、肘関節の役割、肘関節の靭帯の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
11	肘関節と前腕の運動 ② (肘関節の回転軸、肘関節の運動、肘関節の運動に関与する筋①)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
12	肘関節と前腕の運動 ③ (肘関節に関与する筋②)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
13	手関節と手の運動 ① (機能解剖、手関節の構造と機能、手根中手関節について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)

14	手関節と手の運動 ② (中手指節関節、指節間関節、腱鞘、指背腱膜について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
15	手関節と手の運動 ③ (指伸筋腱、骨間筋腱、虫様筋腱、手関節と手の筋、手指の屈筋腱など)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習は、指定された範囲のテキストを必ず読んでサブノートに記入して、学習する内容をあらかじめ確認しておく。
事後学習は、学習した内容を再度見直したうえで、振り返りシートに記入して、内容を理解したうえで正確に暗記する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験結果	国家試験問題演習		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
基礎運動学(第6版 補訂)	中村隆一・他	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社)

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

講義に対して前向きに臨み、理解できない部分はそのままとせず、教員に積極的に質問してください。
また、図書館やインターネット等を積極的に活用して、運動学に関する文献や本に触れる習慣をつけてください。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	運動学Ⅱ		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	○
授業コード	1200114001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	身体各部の主要関節における身体運動の特徴を捉えるために、局所的な機能解剖に基づいた各関節の運動学的・運動力学的機能を理解する。さらに、正常な機能を把握した上で、疾病などにより異常な状態になった場合の正確な捉え方と改善方法について講義する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	人間の主要な関節の機能解剖を復習しつつ、靭帯と骨格筋等の運動器の構造と機能を確実に理解して覚えること。また、その知識を基に国家試験演習問題を独力で解くことができるようになることや専門領域の評価と治療に役立つ基本的な知識を身に付けること。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	下肢帯と股関節の構造と機能①(機能解剖、骨性の指標、靭帯の特徴など)	事後:学習した範囲のテキストを読んでサブノートをまとめ、配布された振り返りシートを記入して、理解したうえで暗記する(180分)	
2	下肢帯と股関節の構造と機能 ②(股関節運動の特徴及び運動制限の見極め方、股関節の各運動方向の特徴)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)	
3	下肢帯と股関節の構造と機能③(股関節周囲筋の特徴など)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)	
4	下肢帯と股関節に関する国家試験問題演習、膝関節の運動学①(機能解剖、膝関節の構造面の特徴、内側・外側半月、)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)	
5	膝関節の構造と機能 ②(関節運動の特徴及び膝蓋骨の役割など)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)	
6	膝関節の構造と機能 ③(膝周囲筋の特徴など)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)	

7	膝関節に関する国家試験問題演習、足関節の運動学①(機能解剖等)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
8	足関節と足部の構造と機能②(足関節運動の特徴、下腿筋と足筋の特徴、足のアーチと足部の変形)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
9	足関節に関する国家試験問題演習、体幹の運動学①(機能解剖、脊柱弯曲の発達過程と意義、椎間円板の特徴)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
10	体幹の運動学②(椎間関節面の形状と運動、各椎骨レベルにおける運動の特徴、脊柱に作用する筋の役割)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
11	体幹に関する国家試験問題演習、立位姿勢の運動学①(咀嚼筋について、安静立位姿勢と筋活動、立位姿勢の重心動揺と安定性限界など)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
12	立位姿勢の運動学②(防御反応と姿勢戦略、立位姿勢の分析、バランス安定性の検査、異常姿勢について)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
13	立位姿勢に関する国家試験問題演習、歩行の運動学①(歩行と運動学、歩行周期について)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
14	歩行の運動学②(歩行の運動学的分析と運動力学的分析について)	事前:指定された範囲のテキストを読んでサブノートに記入して学習内容を事前に把握する(90分) 事後:配布された振り返りシートに記入して、理解したうえで暗記する(90分)
15	歩行の運動学③(歩行時の筋活動、高齢者の歩行について)、歩行に関する国家試験問題演習	全ての振り返りシートの内容を復習、理解と暗記をして定期試験に備える(180分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習に使用するサブノートは単元毎に事前に配布し、講義終了時に次の講義で進む範囲を知らせるので、その範囲をテキストを見てできる範囲で実施しておく。事後学習に使用する振り返りシートは講義終了時に実施して答え合わせを行う。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	国家試験問題演習の結果		
80%	20%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
基礎運動学(第6版 補訂)	中村隆一・他	医歯薬出版株式会社
参考書又は参考資料等		
筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
講義の事前学習と事後学習は必ず実施してください。講義の中で理解できない部分はそのまにせず、積極的に質問してください。また、図書館やインターネット等を多に活用して、運動学に関する文献や本に触れる習慣をつけてください。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	サブノート、振り返りシートなどを忘れた場合には、講義開始前に担当教員に必ず報告に来ること。	

授業科目名	人間発達学		
担当者名	奥田 憲一	実務家教員	○
授業コード	1200022002	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の対象者は新生児から高齢者まで広範にわたり、また医療も、疾病中心から対象者と家族中心へ、急性期中心から慢性期中心へ、施設基盤中心から地域基盤中心へと大きく変化している。このことは理学療法士にとって、「人間発達学」を体系的かつ総合的に学習することが不可欠であることを示している。本科目では療育センター等で長年の勤務経験を有する教員が「人間の一生涯にわたる発達」と臨床の結びつきを念頭に授業を進めていく。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受精から出生後の加齢にともなった身体や精神の発達を説明できる。 2. 人間発達の諸段階(胎児期～老年期)における身体・認知・社会性などの各機能について他者に説明できる。 3. 人間発達の諸段階(胎児期～老年期)における発達課題について説明できる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	全講義の概要・ハーローの実験及び虐待	事前:テキストの通読(90分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(90分)	
2	運動発達の基盤となる反射・反応(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
3	背臥位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
4	腹臥位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
5	座位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
6	立位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
7	粗大運動技能から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
8	巧緻運動技能から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
9	空間知覚とボディーイメージの発達から観察する知性の発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	

10	言語の発達から観察する知性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
11	知能の発達から観察する知性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
12	感情の獲得プロセスから観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
13	共同注意・自己認知・心の理論の獲得プロセスから観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
14	道徳倫理的行動の発達から観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
15	ライフサイクルとアイデンティティ（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習:シラバスを確認し、講義テーマに該当する教科書部分を通読すること(60分)

事後学習:講義に用いた配布資料と課題プリントと併せて復習すること(120分)

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	講義前後の課題プリント		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
発達を学ぶ 人間発達学レクチャー	森岡 周	協同医書出版社

参考書又は参考資料等

講義計画に沿って随時資料を配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	病理学		
担当者名	引地 尚子	実務家教員	
授業コード	1200052001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	病理学は医療系の学生が疾患の概念を最初に学ぶ学問である。基礎医学の分野に属するが、臨床医学に最も密接した内容を取り扱っており、病気の原因、発生機序、経過および転帰など、病気の本体について学習する。国家試験科目であることを念頭において、医師や看護師などが話す医学的内容を理解できるようにすることを講義目標とする。講義は、教科書を基に作成したパワーポイントによるプレゼンテーションと適宜配布するプリントを主体に進める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・医学的用語を理解し、医師、看護師の指示や説明を十分に理解できる。 ・患者の疾患や訴えに対し、理学療法士あるいは作業療法士として正しい判断ができる。 ・国家試験に合格できるレベルの病理学の内容を理解できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	病理学の概要、病因論	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (15分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
2	退行性病変、進行性病変	事前:テキスト指定範囲(掲示又はUNIPAにて通知)を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
3	代謝障害① タンパク質・アミノ酸代謝異常、核酸代謝異常、脂質代謝異常	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
4	代謝障害② 糖質代謝異常、無機物質代謝異常、色素代謝異常	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
5	循環障害① 体循環の機構、局所の循環障害	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
6	循環障害② 全身循環障害	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
7	免疫	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	
8	炎症	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)	

9	感染症	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
10	腫瘍① 定義、良性腫瘍・悪性腫瘍、腫瘍の形態	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
11	腫瘍② 悪性腫瘍の進展形式・進行度、腫瘍発生の原因、発がんのメカニズム	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
12	老化	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
13	先天異常、奇形	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
14	脳神経系の病理学入門	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)
15	運動器系(骨・筋肉)系の病理学入門	事前:テキスト指定範囲を通読しておくこと (90分) 事後:配布プリントの復習問題を解く。指定した用語の意味を調べ、解釈を加えたキーワードノートを作成する (90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・シラバスを見て、次回範囲の教科書の内容を読み確認して講義に臨むこと。
- ・「キーワードノート」については、初回講義時に説明をします。
- ・「キーワードノート」は講義後に提出を求めます。(次回講義時に返却します)

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	キーワードノートの完成度		
90%	10%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
標準理学療法学・作業療法学 病理学	監修 梶原博毅 編集 横井豊治・村雲芳樹	医学書院

参考書又は参考資料等

講義の前に講義に使用するプリントを配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・国家試験合格を目標に勉強すること。
- ・講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
非公開とする。	質問は授業中または、授業終了後教室にて受け付けます。

授業科目名	臨床心理学		
担当者名	山田 幸代	実務家教員	○
授業コード	1200053001	授業形態	講義・演習
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
単位数	2 単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床心理学の本来の意味は「死の床に臨む」医療従事者の為の心理学的立場を示す。患者も医療者も常に同じ立場にあることを忘れず、患者と共に歩む医療者の姿を学ばねばならない。本講担当者は疾患や障害を持つ子どもたちのリハビリテーションスタッフとしてPT・OTと協働した。その後27年間本学でリハビリテーションの根幹の一つである臨床心理学の講義を担当している。また、臨床心理士として生後から終末期までの各時期において全人医療の立場から関わっている。本講ではフロイトに始まる臨床心理学から他者との関係性を重視する「関係性の心理学」を学び、全人医療を視点に講義及び演習で受講者の資質向上を目指す。なお演習ごとにレポートを作成する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 医療における臨床心理学の必要性を理解している 2) 患者の心理的特性を理解し、全人医療の視点を理解している 3) 臨床心理学の変遷を理解し、患者との関係形成に応用できる 4) 他者理解と共に自己理解をも深める為、各種の検査に精通している 5) リハビリテーション現場で用いられる心理学的セラピーを展開できる		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	導入 全人医療の視点「生きる」「支援を受けてより良く生きる」「支援の有無に関わらずより良く生きる」を学ぶ	事前:「全人医療」について検索する(90分) 事後:講義での事例に関して考察する(90分)	
2	患者と共にある為の傾聴・受容・共感を学ぶ。またお互いの人権尊重を考察する	事前:「共感」でなく「共間」を考える(90分) 事後:様々な人権侵害を考察する(90分)	
3	治療技法「回想法」実習。レポート作成	事前:回想法を検索し材料を準備する(90分) 事後:レポート完成(90分)	
4	治療技法「音楽療法」の実際を動画で学ぶ	事前:音楽療法を検索する(90分) 事後:プレゼンテーションの準備と練習(90分)	
5	治療技法「音楽療法」のプレゼンテーション	事前:班別でプレゼンテーション準備(90分) 事後:他班の内容も含めレポート作成(90分)	
6	臨床心理学の変遷を学ぶフロイトに始まる「個の心理学」	事前:配布資料を通読する(90分) 事後:フロイトが提唱した自我を考察する(90分)	
7	心理学の変遷を学ぶ「関係性の心理学」と成熟した自己愛	事前:配布資料を通読する(90分) 事後:関係性の心理学の必要性を考察する(90分)	
8	関係性の心理学の実際を学ぶ自己理解と他者理解 TEG 演習	事前:東大式エゴグラムを検索する(90分) 事後:新たなTEGの視点を考察する(90分)	
9	関係性の心理学の実際を学ぶ交流分析の理論と現場での応用	事前:自己理解と自己変容を考察する(90分) 事後:他者理解と対応を考察する(90分)	
10	関係性の心理学の実際を学ぶ自己理解と他者理解 PF スタディ演習	事前:PF スタディを検索する(90分) 事後:他者理解と対応を考察する(90分)	
11	関係性の心理学の視点から①発達障害の理解と対応	事前:発達障害を検索する(90分) 事後:発達障害への対応を考察する(90分)	

12	関係性の心理学の視点から②人格障害の理解と対応	事前:人格障害を検索する(90分) 事後:人格障害への対応を考察する(90分)
13	臨床心理学の検査法を学ぶ①知能検査「知能」とは何かを学ぶ	事前:知能検査を検索する(90分) 事後:他者対応での知能の視点を考察する(90分)
14	臨床心理学の検査法を学ぶ②人格検査 疾患と人格変容を考える	事前:人格検査を検索する(90分) 事後:疾患と人格変容に関して考察する(90分)
15	総括 全人医療の視点からリハビリテーションのあり方考える	事前:再度「全人医療」を検索する(90分) 事後:全人医療者としての視点を考察する(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
演習やグループ討議のレポートは翌々週までに提出。なおレポートはグループ全員で討議し、作成者は必ず交替してください。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
演習についてのレポート	定期試験	
30%	70%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
講義・演習中に適宜、資料を配布する		
参考書又は参考資料等		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
講義及び演習に真摯に臨むこと。患者の前に立つ場合を想定し、対人対応技法を習得すること。想像力・創造力が相手の立場に立つことを可能にし、全人医療につながるのである。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
非公開とする。	講義後非常勤講師室でしばらく待ちます。	

授業科目名	小児科学		
担当者名	小川 将人、多久 葵、重田 英臣、 宮本 智成	実務家教員	○
授業コード	1200054001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	子どもでよく見られる病気について、症状から診断ならびに治療、救命救急まで講義する。特にリハビリテーションの対象となる神経・筋・骨系疾患、重症心身障害児については、詳細に理解する。自分が親になったと思って、小児科対象疾患の基礎的知識を修得する。授業形態は講義である。リハビリテーションの対象となる新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、消化器疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系、生殖器疾患等の検査や治療について詳細に学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	子どもでよく見られる病気について、一般的特徴、原因、診断、治療の概要を学習し、理解する。また、リハビリテーションを必要とする児の疾患を把握し、いかにチーム共同医療者として、参画するかを考える。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	小児科学概論 -PT/OTとの関わり。病気がない子どもの成長発達を理解する。(小川)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
2	診断と治療 -一般的な病気の病院での診療について救急疾患:小児のBLSを修得する。(小川)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
3	新生児・未熟児疾患-1 -胎児期・新生児期・周産期について(重田)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
4	新生児・未熟児疾患-1 -胎児期・新生児期・周産期について(重田)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
5	先天異常と遺伝病について(宮本)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
6	神経・筋・骨-1 -特殊検査、髄膜炎、熱性けいれん、小児てんかんについて(重田)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
7	神経・筋・骨-1 -特殊検査、髄膜炎、熱性けいれん、小児てんかんについて(重田)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
8	循環器疾患について(多久)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
9	呼吸器疾患について(小川)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
10	感染症について(小川)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
11	消化器疾患について(小川)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
12	内分泌疾患:低身長症、クレチン症、糖尿病について(多久)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	

13	免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系・生殖器疾患について（宮本）	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)
14	血液・腫瘍・眼科・耳鼻科疾患:貧血症、白血病、血友病、悪性疾患について（宮本）	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)
15	心身症・神経症・重症心身障害児(重心):重心の病態、問題点について（重田）	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
使用するテキストを用いて、各疾患などを予習および復習をすること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験		
100%		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版		
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布する。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・質問は講義時間内にして下さい。 ・試験に対する質問は受け付けません。 		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
非公開とする。		

授業科目名	内科学		
担当者名	宮崎 三枝子、三角 博康	実務家教員	○
授業コード	1200027001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーション医学の対象となる代表的な内科疾患、ならびに合併症に対する治療、リスク管理を理解する。胸部 X 線や心電図、CT など画像や検査内容を理解する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	理学療法、作業療法の対象とする疾患(消化器、循環器、呼吸器、代謝内分泌、アレルギー疾患、腎泌尿器、血液、感染症)などについて詳細に理解する。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	内科総論 内科診療の実際(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
2	循環器 総論(1)(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
3	循環器 総論(2)(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
4	循環器 各論①(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
5	循環器 各論②(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
6	代謝性疾患(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
7	腎疾患(宮崎)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
8	消化器疾患(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	
9	肝、胆、膵疾患(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)	

10	内分泌疾患(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)
11	呼吸器 総論(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)
12	呼吸器 各論(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)
13	血液疾患(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)
14	膠原病、アレルギー疾患感染症(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)
15	感染症(三角)	事前:教科書(授業計画範囲)を通読しておくこと。(90分) 事後:各疾患の解剖と生理を確認する。余裕があれば主な疾患の Point 部分をチェックしておくこと。(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

事後学修として復習をしっかりとる。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験

100%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
なるほどなっとく内科学	浅野喜延	南山堂
心電図ドリル	杉浦哲郎 監修 土居忠文 著	総合医学社

参考書又は参考資料等

必要に応じて資料を配布します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

教科書中心の授業です。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
非公開とする。	

授業科目名	整形外科学		
担当者名	河野 勤	実務家教員	○
授業コード	1200028001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この講義は、整形外科医師がリハビリテーション医学の対象となる代表的な整形外科疾患ならびに合併症に対する治療やリスク管理について講義する。また、X線やCTなどの画像診断や手術療法および後療法について講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	整形外科領域における症候学に基づく、基本的知識と疾患の概要について学ぶ。四肢外傷、変性疾患、炎症疾患、化膿性疾患、代謝性疾患等の治療法、特に手術療法ならびに後療法について学習する。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	運動器の基本的評価方法と基本的検査、運動器の評価と検査(河野勤)P23-42(2. 運動器の評価および検査法 A.基本的評価法 B.基本的検査 C.運動器の評価と検査)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
2	整形外科治療法前半、熱傷(吉本昌人)P44-51(3. 整形外科治療法(皮膚移植まで)P188-191(17. 熱傷)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
3	感染症や代謝内分泌疾患等(塩本喬平)P61-63、P67-70(4. 炎症性疾患 A.感染症(軟部組織・骨・関節)、C. その他感染症疾患)P75-77(5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 A.代謝・内分泌疾患)P87-89(6. 先天性骨・関節疾患 C.その他)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
4	軟骨・関節の基礎と関節疾患(進悟史)P5-8(1. 整形外科基礎知識 B.軟骨の基本構造、C.関節の基本構造)P85-86(6. 先天性骨・関節疾患 B.先天性関節疾患)P63-67(4. 炎症性疾患 B.非感染症性関節疾患)P78-81(5. 代謝・内分泌疾患、退行性疾患 B.退行性疾患 2. 変形性関節症、3. 神経病性関節症、4. 血友病性関節症)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	
5	骨格筋・神経の基礎と同疾患(上森知彦)P8-19(1. 整形外科基礎知識 D.骨格筋の基本構造と機能、E.神経系の基本構造、F.骨・関節、筋・神経の病態生理)P104-109(9. 神経・筋疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調ベノートにまとめること。	

6	骨の基礎と骨疾患(見明豪)P2-5(1. 整形外科基礎知識 A.骨の発生と成長)P84-85(6. 先天性骨・関節疾患 A.代表的な先天性骨疾患)P77-78(5. 代謝・内分泌疾患 B.退行性疾患 1 骨粗鬆症)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
7	循環障害と壊死性疾患、骨軟部腫瘍(前川啓)P90-103(7. 循環障害と壊死性疾患、8. 骨・軟部腫瘍)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
8	脊髄損傷(今村寿宏)P149-155(12. 脊髄損傷)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
9	整形外科治療法後半、切断及び離断(高崎実)P51-56(3. 整形外科治療法(腱の手術から))P192-199(18. 切断及び離断)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
10	骨折総論、体幹並びに上肢骨折(森達哉)P127-140(11. 骨折 A.概論-骨折とは、B.体幹の骨折、C.四肢の骨折(上肢))	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
11	下肢骨折、関節における外傷性疾患(鬼塚俊宏)P140-145(11. 骨折 C.四肢の骨折(下肢))P157-160(13. 関節における外傷性疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
12	運動器の評価と検査について、ランドマークと検査手技実習(川本) P29-42(2. 運動器の評価および検査法 C.運動器の評価と検査(実習))	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
13	スポーツ障害(田代泰隆)P178-186(16. スポーツ障害)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。

14	末梢神経や腱・靭帯の外傷性疾患(花田麻須大)P162-177 (14. 末梢神経における外傷性疾患、15. 腱・靭帯における外傷性疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
15	脊椎の疾患(田中宏毅) P111-122(10. 脊椎の疾患)	事前(90分):教科書指定範囲(授業計画に記載)を通読しておくこと。 事後(90分):各章最後の復習のポイントに回答したり、疑問に感じた内容や、不明な専門用語について調べノートにまとめること。
準備学習・事後学習等についての補足説明		
各講義に関連する教科書ページを前もって読んでくること。 事後には各章最後の“復習のポイント”に記載された問いに答えたり、本末にある“セルフアセスメント”を解答したりすること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験		
100%		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第5版	染矢 富士子菊池 尚久	医学書院
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布する。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
効率よく、且つ分かりやすくする為に、できる限り基礎と臨床をつないだ講義内容としている。 よって、教科書の順番通りではないが、すべてを網羅できるように工夫してある。各講義の教科書ページに注意すること。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
非公開とする。	質問等は、講義中に受付けます。	

授業科目名	神経内科学		
担当者名	太田 一樹	実務家教員	○
授業コード	1200029001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	神経内科では神経および筋における疾患を対象としている。総合内科専門医・脳卒中専門医の医師が、神経と筋の構造と機能について、次に疾患の疫学、病因、病巣、臨床症状、検査所見、画像などの診断、治療について講義する。授業は、テキストを参考としながら、スライドを用いて神経内科疾患について解説する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	神経・筋疾患の病歴より病因を想定し、神経学的所見より可能性のある病巣を挙げ、病因と病巣の組み合わせより臨床診断が行われることを理解し、客観的に説明できるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	脳血管障害① 脳血管障害の概要(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
2	脳血管障害② 脳血管障害の診断	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
3	脳血管障害③ 脳血管障害の治療	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
4	認知症① 総論、Alzheimer型認知症	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
5	認知症② Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
6	Parkinson病、大脳皮質基底核変性症	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
7	多発性硬化症、視神経脊髄炎、Guillain-Barre症候群	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
8	脊髄小脳変性症	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
9	筋委縮性側索硬化症	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
10	筋疾患① 筋ジストロフィー	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
11	筋疾患② 重症筋無力症、多発性筋炎・皮膚筋炎	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
12	外傷性損傷(脳損傷、脊髄損傷)、末梢神経障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
13	てんかん、けいれん	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
14	腫瘍性疾患、傍腫瘍性神経症候群、感染性疾患、中毒	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	

15	神経内科における症状・診断のまとめ	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
講義の前に授業のテーマについて、テキストを読み、質問事項を整理しておく。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	授業への取組み	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所(編集)	MEDIC MEDIA
参考書又は参考資料等		
日本脳卒中学会脳卒中治療ガイドライン、日本神経学会診療ガイドライン ※その他、講義で適宜参考図書を紹介します。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
講義中の私語は厳禁とします。他の受講生への影響を鑑みて退室を申し渡す場合もあります。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	精神医学 I		
担当者名	金澤 耕介	実務家教員	○
授業コード	1200087001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この講義は、精神科医師が精神医学全般の基礎的知識を講義形式で教授する。 ①精神症状・精神機能について、その基盤である生物学的な脳機能と関連づける。 ②精神科特有の考え方、対応を講義形式で教授する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①精神医学全般に対する基礎的知識を習得する ②精神疾患・精神科患者への偏見をなくし、正しく対応できるようにする		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	総論:脳の機能と精神症状	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
2	総論:精神症候学 #1(意識、思考、睡眠)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
3	総論:精神症候学 #2(自我、情動、知覚)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
4	総論:精神症候学 #3(記憶、食欲等)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
5	総論:精神科診断学 #1(面接法、診断基準)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
6	総論:精神科診断学 #2(各種検査法)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
7	総論:精神科治療学 #1(身体的治療)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
8	総論:精神科治療学 #2(心理社会的治療)	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
9	各論:身体因性精神障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
10	各論:薬剤性精神障害、てんかん	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
11	各論:総合失調症、気分障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
12	各論:神経症とストレス性障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
13	各論:食欲、睡眠の障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
14	各論:人格障害、発達障害	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	

15	まとめ	事前:テキストを用いて授業テーマ範囲を調べる(90分) 事後:授業内容のノートを整理する(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
各講義に関連する内容について、教科書を前もって読んでくること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
標準精神医学 第8版	尾崎紀夫 他 監修	医学書院	
参考書又は参考資料等			
適宜資料を配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
質問は講義中または、講義終了後教室にて受付けます。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
非公開とする。			

授業科目名	臨床医学とリハビリテーション		
担当者名	中島 他	実務家教員	○
授業コード	1200115001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーションを進める上で、臨床医学領域に関心を持ち、幅広く理解することは、疾病の発症・再発・重症化の予防ならびに障害による活動制限・参加制約といった状態から生じる廃用症候群やフレイルなどを予防・改善する観点からも重要である。このため、臨床で経験する頻度が高い疾患の病態や障害像を診療科別に講義する。また、理学療法や作業療法を行う際の重要なリスク管理情報である、画像診断・検査や薬理、予防の基礎などについても講義を行なう。講師は、病院等で勤務されている現役の医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士がオムニバス形式で行なう。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	診療科・分野別に、 1) 基礎的知識としての機能解剖を理解し、説明することができる。 2) 疾病概念や治療方法に関する知識を修得し、説明することができる。 3) 予防医療や看護業務に関する知識を修得し、説明することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	泌尿器科疾患:排尿の異常・自己導尿(九州労災副院長 中島先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
2	口腔機能低下症・摂食機能障害の基礎とリハビリテーション(戸畑総合病院 歯科口腔外科部長 石田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
3	耳鼻科疾患:耳鼻咽喉科領域の解剖・疾患への理解(九州労災病院 耳鼻咽喉科科長 花栗先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
4	眼科疾患:目の機能と各疾患(九州労災病院 眼科部長 森田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
5	リハビリテーション看護(褥瘡予防)(九州労災病院 看護師 久保先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
6	救急医学の基礎(九州労災病院 外科 友杉先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
7	がんのリハビリテーション(リハビリテーションを実施する上での基礎知識)(北九州市立医療センター 理学療法士長 音地先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
8	がんのリハビリテーション(リハビリテーションの実践)(北九州市立医療センター 理学療法士長 音地先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
9	呼吸器疾患に対するリハビリテーション:対象となる疾患と病態生理(霧ヶ丘つだ病院 院長 津田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
10	画像評価の基礎(X線、CT、DXA、マンモグラフィ等)(九州労災病院 放射線技師 宮副先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	
11	呼吸器疾患に対するリハビリテーション:呼吸リハビリテーションの評価、プログラムと実際(霧ヶ丘つだ病院 院長 津田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)	

12	画像評価の基礎 (MRI、PET、アンギオ) (九州労災病院 放射線技師 宮副先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)
13	臨床薬学の基礎 (薬物の作用機序 薬物の体内動態 薬物相互作用) (九州栄養福祉大学 特任教授 戸田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)
14	臨床薬学の基礎 (薬効の個体差 薬物有害反応 薬と法律) (九州栄養福祉大学 特任教授 戸田先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)
15	自然災害とリハビリテーション (被災地支援活動の実際) (小倉リハビリテーション病院 医局長 赤津先生)	事前:講義テーマについて予習する(90分) 事後:講義内容をノートにまとめ復習する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

講義前に各単元についての関連事項を予習しておくこと。講義後は、その日のうちに復習を行い、不明な点については各自調べるか、質問すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験			
100%			

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
単元ごとに資料を配布するリハ実践テクニック 呼吸ケア(使用授業:津田先生)		

参考書又は参考資料等

リハベーシック 薬理学・臨床薬理学

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

単元別に講義の確認テストを行うことがあります。積極的に講義に参加すること。
質問があれば講義中もしくは、講義終了後に受け付けます。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他
非公開とする。	

授業科目名	リハビリテーション栄養学		
担当者名	近藤 順子	実務家教員	○
授業コード	1200116001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士、作業療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>リハビリテーション栄養学とは、国際生活機能分類による全人的評価と栄養障害の評価、診断、ゴール設定を行い、患者が日常生活や社会生活のなかで QOL を最大限に高めることができるように栄養管理を行っていくために必要な学問である。理学療法士、作業療法士においては、治療やリハビリテーションを円滑に進めるうえで栄養の基礎的な知識があることが欠かせない時代となってきた。医療現場での実務経験を活かし、エビデンスに基づいた内容を交えながら授業を進めていく。リハビリテーションの効果を高めるために必要な栄養学の知識を修得し、また栄養補給法および医療における尊厳を理解した上で、栄養摂取をテーマにグループディスカッションを行う。栄養摂取について様々な角度からその重要性について考え、実践の場で役立てることを目指す。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 必要栄養量と栄養評価について理解する。 2) 主な病態の栄養管理について理解する。 3) リハビリテーション栄養学の実践を理解する。</p>		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション リハビリテーション栄養学とは	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
2	栄養の基礎①:エネルギー及び栄養素の役割	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
3	栄養の基礎②:栄養摂取について	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
4	栄養の基礎③:栄養摂取とは? グループディスカッション及び発表	事前:グループディスカッションのテーマについて情報収集を行う(90分) 事後:学んだ内容について考察をまとめておく(90分)	
5	栄養の基礎④:栄養補給法	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
6	栄養の基礎⑤:必要栄養量の求め方	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
7	栄養の基礎⑥:リハを行う患者の必要栄養量	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)	
8	栄養の基礎⑦:ケーススタディ 栄養管理プロセスと計画表	事前:第6回、第7回の内容について復習しておく(90分) 事後:ケーススタディで得た知識や手順を整理しておく(90分)	

9	主な病態の栄養管理①:糖尿病	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
10	主な病態の栄養管理②:虚弱高齢者	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
11	主な病態の栄養管理③:摂食嚥下障害	事前:授業計画内容について事前に調べておく(90分) 事後:配布資料に記入した重要語句について復習しておく(90分)
12	グループワーク:治療用特殊食品について	事前:特殊食品の機能について情報収集を行う(90分) 事後:特殊食品使用の効果についてまとめておく(90分)
13	グループディスカッション:テーマ「栄養と生命の関係」	事前:グループディスカッションのテーマについて情報収集を行う(90分) 事後:学んだ内容について考察をまとめておく(90分)
14	プレゼンテーション:「栄養と生命の関係」第13回目の内容を発表	事前:プレゼンテーションの準備(90分) 事後:他グループの参考になる意見をまとめておく(90分)
15	栄養摂取の考え方や臨床現場での重要事項について振り返る	事前:これまでの授業内容について重要ポイントをまとめておく(90分) 事後:配布資料を活用し定期試験に向け復習しておく(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・栄養状態は生命予後に大きく影響する。そのため、食に興味を持ち視野を広げてほしい
- ・第4回、第13回のグループディスカッションについては、事前に情報を収集し自分の考えをまとめておく

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	授業への取組み姿勢		
90%	10%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

講義中に適宜資料を配布する

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・運動や活動に必要なエネルギーおよび栄養素を理解し、自らの食生活を見直して欲しい
- ・講義中に資料を配布するので、重要ポイントを整理しておき定期試験に向け活用してください

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	リハビリテーション概論		
担当者名	橋元 隆、浜村 明德、西野 憲史、 蜂須賀 研二、四元 孝道	実務家教員	
授業コード	1200082001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法士、作業療法士の業務、役割をリハビリテーションの理念、歴史、目的、領域、現状を通して学びます。また、リハビリテーションにおける多職種協働やチームワークの重要性、さらには地域リハビリテーションなど包括的ケアシステムの考え方を教授します。内容が広範、かつ多岐にわたるとともにその領域分野のエキスパートの外来講師も分担講義を担当します。毎回テーマに関連した資料を配布します。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	自らが目指している理学療法士・作業療法士の業務・役割を理解できる。 関連職種とのチームワーク・協働の在り方、またコミュニケーションの重要性について理解できる。 理学療法・作業療法の実践にあたり、どのような知識・技術を在学中に習得し、実践することができるかその構えをつくる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	リハビリテーションの歴史と理念・目的(橋元)	事前:リハビリテーションという言葉について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
2	高齢社会とリハビリテーション(西野憲史)	事前:高齢社会におけるPT・OTの役割について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
3	生活障害の捉え方-ICF・ICD・ICIDH(橋元)	事前:機能障害と生活障害の違いについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
4	高齢社会とリハビリテーション(西野憲史)	事前:高齢社会におけるPT・OTの役割について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
5	地域リハビリテーションの概念・実際(浜村明德)	事前:地域リハビリテーションとは何かについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
6	地域包括ケアと地域リハビリテーション(浜村明德)	事前:リハ医学の目的と評価について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
7	リハビリテーション医学・評価について(蜂須賀研二)	事前:リハ医学の目的と評価について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
8	リハビリテーション医学・治療、ロボット(蜂須賀研二)	事前:リハ医学の治療手段、ロボットについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
9	リハビリテーションの関連法規(四元)	事前:理学療法士・作業療法士法について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	
10	リハビリテーションにおける多職種連携(四元)	事前:チーム医療について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)	

11	医学的リハビリテーション(橋元)	事前:医学的リハの流れについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)
12	教育的リハビリテーション(四元)	事前:差別とは、療育とは何かについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)
13	社会的・職業的リハビリテーション(四元)	事前:平等とは、合理的配慮とは何かについて調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)
14	理学療法士・作業療法士の現状と展望(橋元)	事前:どのようなPT・OTを目指すか夢を描いてみる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成(90分)
15	食(栄養)と運動(「リハ」)の融合「健康生活の番人」とは(橋元)	事前:建学の精神、食と運動の連携について調べる(90分) 事後:講義内容の復習と講義ノートの作成・まとめ(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
リハビリテーションの最終目的は社会参加・生活の再建であり、その支援である。 日々の社会変化に疎くならないように、世の中の出来事に興味を持つこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	レポート	授業に臨む姿勢
70%	20%	10%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
適時講義資料を配布します		
参考書又は参考資料等		
蜂須賀研二 編集:「服部リハビリテーション全書 第3版」医学書院 2014 その他、図書室に多くの関連書があるので、おおいに利用してください。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
リハビリテーションの最終目的は生活の再建であり、その支援である。 日々の社会変化に疎くならないように、世の中の出来事に興味を持つこと。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	地域保健学		
担当者名	沖 勉	実務家教員	
授業コード	1200083001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士必修
ナンバリング	DP3-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	現代の医療は、疾病の治療だけでなく、健康の保持増進、疾病の早期発見・早期治療、リハビリテーションを含む包括的医療サービスが望まれている。医療ニーズの変化を知り、社会構造を理解することで、国民の健康増進から治療、リハビリテーションまで取り組む PT/OT のための地域保健学の基礎を学修する。講義終了後の Google フォームでの小テストにおいて、解説も記載しており、反復学習を期待する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 地域保健学の基礎知識として公衆衛生学の基本を学修する。 2. 保健医療福祉における PT/OT の役割機能を理解し、多職種連携ができるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	公衆衛生とは(P1～14)	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
2	健康と環境、疫学的方法(P15～28)	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
3	健康の指標(P29～50):ビックデータの利用の仕方	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
4	感染症とその予防(P51～68):病院実習に向けての諸注意	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
5	食品保健(P69～79):病院での食品衛生管理	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
6	生活環境の保全(P92～118):北九州市の取り組みを例示として	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
7	医療・介護の保障制度(P119～132):医療介護総合確保法・診療報酬・生活保護法・介護保険法	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
8	地域保健活動(P133～150):北九州市での取り組みを例示として	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	
9	母子保健(P151～165):北九州市での取り組みを例示として	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)	

10	学校保健(P167～183)	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
11	生活習慣病と国民の栄養(P185～203、P80～89): 北九州市での取り組みを例示として	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
12	健康教育とヘルスプロモーション(P217～230)	予習:教科書の該当箇所の確認 (20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
13	難病対策(P205～215)	予習:教科書の該当箇所の確認(20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
14	精神保健福祉(P231～242):北九州市での取り組みを例示として	予習:教科書の該当箇所の確認(20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
15	産業保健(P243～261):労働者としてのPT/OT	予習:教科書の該当箇所の確認(20分) 復習:小テストとその解説で理解が進んでない個所を教科書と付録の整理ノートで確認・整理する (20分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
予習はシラバスのテーマに沿って、教科書を基本とする。復習は、Google フォームでの小テストを毎回実施する。教科書付録の整理ノートも復習時に十分活用すること。小テストの提出は、成績評価に換算される。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	小テスト	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
わかりやすい公衆衛生学 第4版	清水忠彦・佐藤拓代 編集	スーヴェルヒロカワ
参考書又は参考資料等		
厚生労働統計協会編集:国民衛生の動向、2023/2024年版		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
講義中の私語は厳禁。他の受講生の迷惑になるので退室させる。質問があれば、挙手して適宜質問すること。小テストは成績評価の対象なので、毎週送信すること。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	火急な連絡等が必要な場合は、教務に相談すること。 復習時に疑問があれば、Web メールで質問すること。Google フォームに質問を記載されると、見落とす可能性があり、Web メールで質問すること。	

授業科目名	臨床統計		
担当者名	久保 昂大	実務家教員	
授業コード	1200061001	授業形態	演習
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	統計学の基礎を学び、実験データ、調査データの処理や解釈を行う。基礎的な統計学の方法の解説と演習を身近なデータで取り上げる。できるだけ数式を使わず、難解な数学的論証を省きつつも、医療現場に即した事例で幅広い内容とする。演習を通してその解析・活用方法を理解していく。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う統計学の知識や分析法について説明できるようになる ・データを分析することができる・研究内容に対して適切な分析方法を選択することができる 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	ガイダンス統計学を学ぶ意義について	事前 統計学を学ぶ意義について考える(45分) 事後 授業内容の見直し(45分)	
2	データと変数について尺度と代表値・散布度	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
3	標準化・エラーバーグラフ・箱ひげ図・クロス表	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
4	統計ソフトについて:RとRstudioの基礎	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
5	推測統計	事前 第2回から第4回までの内容を復習してくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
6	統計的仮説検定	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
7	t検定	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
8	t検定(演習)	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
9	一要因分散分析	事前 第6・7・8回の内容を復習してくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
10	一要因分散分析(演習)	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(45分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
11	パラメトリック検定	事前 第9回と第10回の内容を復習してくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
12	相関分析	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
13	回帰分析	事前 事前に提示する統計用語を調べてくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	
14	相関分析・回帰分析(演習)	事前 第12回と第13回の内容を復習してくる(30分) 事後 講義内容を振り返り、理解を深める(45分)	

15	まとめ	事前 これまでの授業ノートを整理する(90分) 事後 これまで学んだことが自身の生活や研究にどう役立つのかを考える(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
各授業後に、次回の授業の予習内容を提示します。授業が始まる前までに、予習内容をノートにまとめてきてください。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
授業への参加度	分析レポート	
40%	60%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
リハビリテーション統計学	石川朗・種村留美	中山書店
参考書又は参考資料等		
準備していただく参考書は特にありません。しかし、わかりやすく説明されている書籍を提示しますので、予習や復習に活用してみてください。山田剛史・村井潤一郎(著) よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 向後千春・富永敦子(著) 統計学がわかる:ハンバーガーショップでむりなく学ぶ、やさしく楽しい統計学 技術評論社 対馬栄輝(編) 医療統計解析使いこなし実践ガイド:臨床統計で迷わない Q & A 羊土社 資料は必要に応じて配布致します。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
学習計画は予定であり、学生の皆さんの理解度に合わせて変更する可能性があります。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	学習計画は予定であり、学生の皆さんの理解度に合わせて変更する可能性があります。	

授業科目名	理学療法学概論		
担当者名	高橋 精一郎	実務家教員	
授業コード	1210001001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法概念と歴史を説明し、医療者として規制を受ける法律についても理解を進める。また、対象となる疾患や疾病について対応方法を解説し、臨床における医療事故の実態やそれに対するリスクマネジメントについて概説する。特に個人情報の保護をはじめとして医療者の義務や資質についてディスカッションし、障がいを持ったヒトへの対応ができるための基礎作りをする。プロフェッショナルリズムを携えた理学療法士として活動するために、さまざまな場面で一歩前に踏み出す勇気を持って取り組んでほしい。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法概念と歴史を理解し、説明できる。 2. 理学療法士に関する法律を理解し、説明できる。 3. 理学療法対象、治療目的・方法、活動分野を理解し、専門科目と関連できる。 4. 理学療法士の組織と倫理を理解し、説明できる。 5. 医療事故とリスクマネジメントを理解し、個人情報の管理ができる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、理学療法の現状	事前:教科書を開き、今から学ぶ理学療法の内容を確認する(90分) 事後:日本の理学療法の現状を理解する(90分)	
2	理学療法概念と歴史	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:日本における理学療法の歴史と概念や理念を理解する(120分)	
3	理学療法士の法律(理学療法士及び作業療法士法)と関連法規	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:日本における理学療法の法律を理解する(120分)	
4	理学療法の目的と理学療法士の役割	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法の目的と理学療法士の役割の概要を理解する(120分)	
5	理学療法対象	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法対象者や対象疾患を理解する(120分)	
6	理学療法の方法(運動療法他)	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法的手段としての運動療法の概要を理解する(120分)	
7	理学療法の方法(物理療法他)	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法的手段としての物理療法の概要を理解する(120分)	
8	理学療法士の組織および職業倫理	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法士で作る国内外の組織と医療人としての倫理の必要性を理解する(120分)	

9	理学療法士を目指す学生に求められるもの	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法士を目指す学生に社会から求められている資質について考える(120分)
10	理学療法士教育(教科教育、臨床教育)	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:日本における理学療法士教育の課題と問題点を理解する(120分)
11	医療・保健分野の理学療法	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:健康維持の分野で理学療法士に求められている課題を考える(120分)
12	地域リハビリテーションと理学療法	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:社会地域における理学療法士の役割を理解する(120分)
13	医療事故とリスクマネジメント	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:院内や地域での理学療法活動における事故防止やリスクの軽減・削除について理解する(120分)
14	個人情報の管理と対象者の人権尊重を基盤とした臨床教育の実践	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:人権尊重の理念と個人情報の守秘義務や管理の重要性を理解する(120分)
15	理学療法士としての資質	事前:今回の授業内容の予習(60分) 事後:理学療法士として、必要な資質について考える(120分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

シラバスに従って授業前準備では該当の単元の内容を確認・予習すること。
事後学習では授業内容の再確認(復習)を行うこと。

成績評価の方法[評価項目と割合] ※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	授業ノート		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法概論	奈良 勲他編著	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

授業計画に沿って、随時資料を配付する。

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

- 1.理解できない箇所は放置せず、自己勉強あるいは教員への質問で早期に解決すること。
- 2.授業ノートを作成すること。最終週に提出を求め、成績評価に算入する。
- 3.主体性を持って授業に参加し、積極的に議論に加わる姿勢を養うこと。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナール I		
担当者名	中藤 佳絵、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、吉田 遊子、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210107001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	通年
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-C		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	レポート作成の基本的事項を学び、パソコンを用いて実際に作成する。多岐にわたる理学療法士の役割について広い視野をもって理解するとともに、将来、理学療法士になるにあたっての基本的な心構えを学ぶ。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 指定された形式でレポートの作成ができる。また、自分の考えを表現できるようになる。 2) 多岐にわたる理学療法士の関わりに視野を広げ、理学療法を学ぶにあたっての基本的な心構えを学び自らを見つめなおす。 3) 少人数グループでのグループワークやディスカッション・プレゼンテーションについて経験する。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(中藤)	事前:シラバスの内容を確認(15分) 事後:次回確認とレポート作成の準備(15分)	
2	レポート作成の方法①(中藤)	事前:ID・パスワードの確認、USBメモリースティックの準備(15分) 事後:レポート作成(15分)	
3	レポート作成の方法②(中藤)	事後:レポート作成と次回の確認(30分)	
4	グループ別ゼミナール:内容の決定	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
5	グループ別ゼミナール:学修課題の確認	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
6	グループ別ゼミナール:レポートのフィードバック①	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
7	グループ別ゼミナール:学修進捗報告	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
8	グループ別ゼミナール:レポートのフィードバック②	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
9	グループ別ゼミナール:学修における今後の課題の模索	事後:フィードバック内容に対する修正(30分)	
10	グループ別ゼミナール:レポートのフィードバック③	事後:フィードバック内容に対する修正および次回の課題作成(30分)	
11	グループ別ゼミナール:学修の工夫や個別の課題への向き合い方	事後:フィードバック内容に対する修正および次回の課題作成(30分)	
12	グループ別ゼミナール:レポートのフィードバック④	事後:フィードバック内容に対する修正および課題の実施(30分)	
13	グループ別ゼミナール:学修計画立案	事後:フィードバック内容に対する修正および課題の実施(30分)	
14	グループ別ゼミナール:レポートのフィードバック⑤	事後:フィードバック内容に対する修正および課題実施(30分)	

15	グループ別ゼミナール:計画の修正と進捗確認	事後:フィードバック内容に対する修正および課題の実施(30分)
16	オリエンテーション:グループ分け(中藤)	事前:シラバスの確認(15分) 事後:次回確認(15分)
17	グループ別ゼミナール:オリエンテーション	事前:次回開催日時と場所の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
18	グループ別ゼミナール:課題決定	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
19	グループ別ゼミナール:文献検索①	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
20	グループ別ゼミナール:文献検索②	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
21	グループ別ゼミナール:レポート作成①	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
22	グループ別ゼミナール:レポート作成②	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
23	グループ別ゼミナール:担当者からの指導・修正①	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
24	グループ別ゼミナール:担当者からの指導・修正②	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
25	グループ別ゼミナール:レポートの再検討①	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
26	グループ別ゼミナール:レポートの再検討②	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
27	グループ別ゼミナール:プレゼンテーション①	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
28	グループ別ゼミナール:プレゼンテーション②	事前:前回授業内容の確認(15分) 事後:授業中の課題を実施(15分)
29	まとめ①(中藤)	事前:後期ゼミナール内容の確認(15分)
30	まとめ②(中藤)	事後:授業資料等の整理(15分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

前期は、レポートの作成方法を知り、作成したレポートの書式や不足についてフィードバックを受けながら、表現の方法を学びます。また、1年次の学修が今後の科目にどのように影響するのか、様々な分野についても知る機会となります。後期のグループ別では、より専門性のある内容にグループごとに取り組みます。授業時間以外の時間も担当教員へ自主的に相談に行くことができます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

第2・3回の担当者からの課題	第4回～第15回の担当者からの課題	第17回～第28回の担当者からの課題	
10%	40%	50%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

レポートの作成方法については、資料を配布します。グループ担当教員の指導の下、適宜、図書館等の文献を活用できます。

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

第2・3回のレポート作成では、指定された内容を規定の書式に従って作成し、担当者に期限を守って提出してください。グループ別ゼミにおいては、12班のグループに分かれ、それぞれの担当教員のもとで行います。課題レポートはフィードバックし返却します。修正が必要な個所を確認して、今後の学修の参考にしてください。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail

その他

--	--

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108012	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる。2. 運動療法の基礎を学習することで理学療法士の専門性への理解を深め、疑問について質問することができる。3. 運動療法に関連する知識について現状や課題、治療法について理解を深め、ノートにまとめることができる。4. 提示されている問題についてメンバー間でディベートを行い、自分自身の考えを振り返ることができる。5. 見学実習を体験し、ポートフォリオを作成することができる。6. 見学実習を体験し、運動療法について疑問を持ち質問することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	グループ別ゼミ①:運動学の基礎知識	事前:指定テキストp2~34を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
4	グループ別ゼミ②:骨の構造と機能	事前:指定テキストp43~54を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
5	グループ別ゼミ③:関節の構造と機能	事前:指定テキストp55~68を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
6	グループ別ゼミ④:筋の構造と機能	事前:指定テキストp69~89を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
7	グループ別ゼミ⑤:神経の構造と機能	事前:指定テキストp90~104を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
8	グループ別ゼミ⑥:運動と呼吸機能	事前:指定テキストp105~112を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
9	グループ別ゼミ⑦:運動と循環機能	事前:指定テキストp113~125を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
10	グループ別ゼミ⑧:運動と代謝機能	事前:指定テキストp126~134を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
11	グループ別ゼミ⑨:運動学習	事前:指定テキストp135~147を精読し、わからないキーワードをまとめておく。(45分)	
12	グループ別ゼミ⑩:理学療法士の仕事について(ディベート)	事前:1年次の見学実習について体験シートを作成する。(45分)	
13	グループ別ゼミ⑪:見学実習への心構え	事前:目標書き出しシート、目標シートを作成する。(45分)	
14	医療現場における理学療法の実践①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	

15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>基本的には準備学習を提示通りに行っていけばレポート課題が終了するようになっています。各会しっかり予習・復習を行い、理解を深めていってください。広く文献検索を行うことも今後は必要ですが、時間内に課題を終了させ、効果的に学習するために、まずは指定教科書2冊に絞って学習を行っていくことをお勧めします。</p>			
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
運動療法学第2版～障害別アプローチの理論と実際～	市橋則明 編集	株式会社文光堂. 2023	
基礎運動学第6版補訂	中村隆一 / 斎藤宏 / 長崎浩 著	医歯薬出版株式会社. 2022	
参考書又は参考資料等			
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	高橋 精一郎、時任 真幸	実務家教員	
授業コード	1210108002	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。生体は外部からの種々の刺激によって様々な反応を示し、生体を守ったり環境に適応しようとする。本ゼミでは刺激の違いによってどのような反応を示すのか自律神経活動の変化を指標として把握することである。刺激の違いによって生体の反応に違いがあるか？あるのならどのような違いなのかを考え、臨床応用への一助とする。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 測定の意義・目的を理解し、正確な手段が取れる。 2. 測定データをグラフ化して提示できる。 3. 複数データを比較・分析し、考察を行うことができる。 4. 臨床応用について考えることができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	自律神経活動の研究テーマの検討と文献調査	事後:授業の復習(25分)、文献の検索(20分)	
4	研究テーマの決定(課題A・B)と測定実施方法の検討	事後:課題A・Bの測定実施方法の要点の整理とまとめ(45分)	
5	自律神経活動:課題Aにおけるデータ収集と解析①	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
6	課題Aのデータ収集と解析②	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
7	課題Aのデータ収集と解析③	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
8	課題Aのデータ解析と考察、文献比較	事後:課題Aのデータの分析と結果レポートの作成(45分)	
9	自律神経活動:課題Bにおけるデータの収集と解析①	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
10	課題Bにおけるデータ収集と解析②	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
11	課題Bにおけるデータ収集と解析③	事後:データ解析の整理とまとめ(45分)	
12	課題Bのデータ解析と考察、文献比較	事後:課題Bのデータ分析と結果レポートの作成(45分)	
13	課題A・Bのデータ比較と解析および結果の考察	事後:課題A・Bのデータ比較結果・考察のレポート作成(45分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療福祉分野における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
刺激に対する自律神経反応について生理学を参考に考察し、理解を深めてほしい。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
測定データ結果の作成	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			

書籍名	著者	出版社
なし		
参考書又は参考資料等		
随時資料を配布		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	橋元 隆、時任 真幸	実務家教員	
授業コード	1210108001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる 2. 理学療法士の業務を学び専門職への理解を深める 3. 専門用語(医学用語)を正しく覚え、臨床でコミュニケーションがとれるようにする 4. 到達目標をしっかりと定め、それに向かってプログラムすること 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	危機管理とリスクマネジメント	事前:日常における危機管理事例を考える(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
3	脊髄損傷の障害評価(損傷レベル・神経症状レベル)	事前:解剖学(特に神経と筋)について復習する(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
4	脊髄損傷の随伴症状	事前:随伴症状について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
5	脊髄損傷の合併症とその治療	事前:脊髄損傷特有の合併症について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
6	脊髄損傷の膀胱・直腸障害	事前:排尿・排便に関する機序について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
7	脊髄損傷の自律神経障害とその対応	事前:脊髄損傷の自律神経障害について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
8	危機管理とリスクマネジメント	事前:日常における危機管理事例を考える(30分) 事後:ゼミノートの整理(15分)	
9	脊髄損傷の障害評価(損傷レベル・神経症状レベル)	事前:解剖学(特に神経と筋)について復習する(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
10	脊髄損傷の随伴症状	事前:随伴症状について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
11	脊髄損傷の合併症とその治療	事前:脊髄損傷特有の合併症について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
12	脊髄損傷の膀胱・直腸障害	事前:排尿・排便に関する機序について調べる(30分) 事後:ゼミノートの作成(15分)	
13	脊髄損傷の自律神経障害とその対応	事前:脊髄損傷の自律神経障害について調べる(30分) 事後:ゼミノート整理(15分)	
14	医療福祉分野における理学療法の実際①	事前:講義の確認・準備 事後:講義をまとめ、レポート作成(45分)	

15	医療福祉分野における理学療法の実際②	事前:講義の確認・準備 事後:講義をまとめ、レポート作成(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
その度テーマを与えます。質疑ができるよう事前学習をしっかりとやりましょう。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
レポート課題、他	授業姿勢	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
適宜資料を配布します		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	石橋 敏郎、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108004	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる 2. 理学療法士の業務を学び専門職への理解を深める 3. 運動器疾患の特徴及びその治療法などを理学療法の視点をもって捉えて理解することができる 4. 関連する文献を検索しまとめたものをプレゼンテーションすることができる		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	オリエンテーション運動器疾患の概要と特徴について	事前:運動器疾患の中で、興味がある分野についてその概要や特徴などを調べておく(45分)	
3	テーマを決めて、レポートの内容について調べる。	事後:テーマに関連する内容を図書館やインターネットで調べてまとめる①(45分)	
4	調べた内容をレポート形式にまとめる。	事後:テーマに関連する内容を図書館やインターネットで調べてまとめる②(45分)	
5	各自で調べたレポート内容をグループ内で発表する(プレゼンテーション①)。	事前:レポート内容を発表するプレゼンテーションの準備をする①(45分)	
6	各自で調べたレポート内容をグループ内で発表する(プレゼンテーション②)。	事前:レポート内容を発表するプレゼンテーションの準備をする②(45分)	
7	実技を通してレポート内容を振り返る。	事後:実技内容を繰り返して練習して修得する(45分)。	
8	オリエンテーション運動器疾患の概要と特徴について	事前:運動器疾患の中で、興味がある分野についてその概要や特徴などを調べておく(45分)	
9	テーマを決めて、レポートの内容について調べる。	事後:テーマに関連する内容を図書館やインターネットで調べてまとめる①(45分)	
10	調べた内容をレポート形式にまとめる。	事後:テーマに関連する内容を図書館やインターネットで調べてまとめる②(45分)	
11	各自で調べたレポート内容をグループ内で発表する(プレゼンテーション①)。	事前:レポート内容を発表するプレゼンテーションの準備をする①(45分)	
12	各自で調べたレポート内容をグループ内で発表する(プレゼンテーション②)。	事前:レポート内容を発表するプレゼンテーションの準備をする②(45分)	
13	実技を通してレポート内容を振り返る。	事後:実技内容を繰り返して練習して修得する(45分)。	
14	医療福祉分野における理学療法の実際①	事後:講義をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療福祉分野における理学療法の実際②	事後:講義をまとめ、レポート作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			

準備学習:運動器疾患の中でも特に興味がある内容を見つけて、文献やジャーナルで調べてその内容をレポートにまとめる作業とプレゼンテーションの準備を中心に行ってください。事後学習:ゼミの中で出てきた内容を振り返り理解したうえで、実技内容もマスターする。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

グループ別レポート課題、他	レポート課題		
40%×2=80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

その都度、紹介します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

--

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	廣滋 恵一、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108005	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	予防理学療法領域において疾病や障害の予防、運動の効果について理解を深める。論文の検索、読み方、要約のまとめ方など演習を通じて修得していく。グループで発表・議論することで知見を共有し、様々なアイデアを創出することに繋げる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	ゼミの選択・決定	事後:説明内容を確認し、キーワードを検討する(45分)	
3	グループ別ゼミ①:予防理学療法領域について考える	事前:予防理学療法について調べてくる(45分)	
4	グループディスカッション:疾病や障害を予防する効果的な運動とは?	事前:ディスカッションテーマを調べる(45分)	
5	グループディスカッション:運動効果の判断・評価は?	事前:ディスカッションテーマを調べる(45分)	
6	グループ別ゼミ②:身体活動と運動効果の検証	事後:検証したい身体機能を検討する(45分)	
7	効果を検証するのに必要な統計手法の理解	事前:統計手法について調べてくる(45分)	
8	評価項目の検討と初期評価の実践	事前:評価項目の検討とデータシートの作成(45分)	
9	運動介入①	事後:運動プログラムの実行(45分)	
10	運動介入②	事後:運動プログラムの実行(45分)	
11	最終評価の実践	事前:データシートの作成(45分)	
12	統計学的分析結果の確認	事後:結果をまとめる(45分)	
13	発表報告	事前:運動効果に関する感想をまとめる(45分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前・事後学習、課題の実施方法については授業の中で詳細に説明する。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	奥田 憲一、時任 真幸	実務家教員	
授業コード	1210108006	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 理学療法士という専門職への理解を深める 2. 簡単な骨指標や筋の触診が可能になる 3. 姿勢や運動の分析に必要な着目点を理解する		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	オリエンテーションゼミの方針と進め方及びディスカッション	事前:ゼミの内容を確認する(45分)	
3	体表解剖①骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
4	体表解剖②骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
5	体表解剖③骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
6	体表解剖④骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
7	姿勢の分析:背臥位①	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
8	姿勢の分析:背臥位②	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
9	動作の分析:寝返り①	事前:ゼミの内容を確認する(45分)	
10	動作の分析:寝返り②	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
11	動作の分析:歩行①	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
12	動作の分析:歩行②	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
13	体表解剖・姿勢の分析・動作の分析まとめ	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
14	医療福祉現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめレポート作成(45分)	
15	医療福祉分野における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事後:レポより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			

ゼミ時に事前課題を伝えるので、解剖や運動学の教科書を用いて調べておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

グループ別レポート課題、他	レポート(14,15回の講義後 レポートを1つのレポートに まとめる)		
40%×2=80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない。		

参考書又は参考資料等

適宜資料を配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

--

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	井元 淳、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108008	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる。 2. 理学療法士の業務を学び専門職への理解を深める。 3. 呼吸器疾患や高齢者の栄養に関連する知識について現状や課題、治療法について理解を深め、説明できるようになる。 4. 高齢者を取り巻く呼吸器疾患と摂食・嚥下障害との関連を理解し、討議できるようになる。 5. 提示されている問題について分析、評価を行い、課題解決に向けた手法を説明できるようになる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (テーマの決定、文献検索の方法の理解と実践)	事前:呼吸器の解剖について予習する(15分)事後:テーマについて検討する(30分)	
4	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (文献の理解)	事前:文献検索をする(45分)	
5	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解(レポート作成)	事後:レポートの作成をする(45分)	
6	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (レポート修正①)	事後:レポートの修正をする(45分)	
7	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (レポート修正②)	事後:レポートの修正をする(45分)	
8	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (プレゼンテーションの方法の理解と準備)	事後:プレゼンテーションの準備をする(45分)	
9	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (プレゼンテーションの実践①)	事後:発表後の課題を振り返る(45分)	
10	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (プレゼンテーションの実践②)	事後:発表後の課題を振り返る(45分)	
11	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (関連した実技の経験とまとめ)	事後:実技の復習をする(45分)	
12	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解(原著論文の検索と理解)	事前:文献検索をする(45分)	
13	グループ別ゼミ:呼吸器疾患と摂食・嚥下障害の理解 (原著論文の抄読)	事前:文献を読み、プレゼンテーションの準備をする(45分)	
14	医療現場における理学療法の実践①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポートを作成する(45分)	

15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿を作成する(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
興味ある内容を広範囲に積極的に調べることで多くの知見を学んでください。またレポートもしくはパワーポイントなど修正が入っている個所は確実に修正するとともに、分からない言葉は自ら調べ、発表時に答えられるようにしてください。			
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
※必要に応じて資料を配布します。			
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	中藤 佳絵、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108009	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる 2. 日常生活活動をテーマに、理論的な視点でとらえる経験をする 3. 日常生活活動の内容やその支援・課題について考えることができる		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	グループ別ゼミ①オリエンテーション・テーマ決定	事前:日常生活活動演習の授業資料を振り返る(45分)	
4	グループ別ゼミ②:活動の捉え方	事後:テーマとなった活動を分析する(45分)	
5	グループ別ゼミ③:日常生活活動と疾病	事後:設定した疾病の病態について調べる(45分)	
6	グループ別ゼミ④:日常生活活動と障害	事後:病態から活動制限・参加制約を考える(45分)	
7	グループ別ゼミ⑤:日常生活活動と環境	事後:人的・物的環境について資料を作成する(45分)	
8	グループ別ゼミ⑥:図書館の利用	事後:関連する文献や書籍を読む(45分)	
9	グループ別ゼミ⑦:書籍抄読	事前:抄読内容をまとめる(45分)	
10	グループ別ゼミ⑧:文献検索	事後:関連する文献を検索しておく(45分)	
11	グループ別ゼミ⑨:文献抄読	事前:抄読内容をまとめる(45分)	
12	グループ別ゼミ⑩:見学に向けての準備 (事前準備として)	事前:1年次または2年オリエンテーション時の資料を確認し備える(45分)	
13	グループ別ゼミ⑪見学に向けての準備(レポートの作成に向けて)	事後:内容を確認し、練習する(45分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
見学:1年次の見学を踏まえて資料を再度確認する。 グループ別ゼミ:1年後期授業科目の日常生活活動演習を見直し、自身や身の回りの人の活動について観察しておく。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	神崎 良子、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108010	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 理学療法士の業務を学び専門職への理解を深めることができる 2. 主要な循環器疾患の病態について説明できる 3. 循環器疾患と理学療法の関連を考察できる		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	患者やスタッフとのコミュニケーションについて	事後:授業内容の復習(45分)	
4	患者やスタッフとのコミュニケーションについて(演習)	事後:授業内容の復習(45分)	
5	病院における理学療法士の役割	事前:「臨床医学とリハビリテーション」 講義資料確認(45分)	
6	循環器疾患について	事後:担当疾患について調べる(45分)	
7	担当疾患についての講義資料作成	事前:講義資料の作成(45分)	
8	理学療法評価演習	事後:授業内容の復習(45分)	
9	担当疾患について講義資料の作成と講義計画の作成	事後:講義資料作成、提出、プレゼンテーション準備(45分)	
10	模擬講義①	事前:プレゼンテーション準備、授業内容の復習(45分)	
11	模擬講義②	事後:プレゼンテーション準備、授業内容の復習(45分)	
12	模擬講義③	事後:授業内容の復習(45分)	
13	循環器疾患と理学療法の関連	事前:心大血管リハビリテーションに関わる職種について調べる(45分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
疾患に関する情報は内科学のテキストを参照すること			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
講義資料	プレゼンテーションとディスカッション	見学実習態度	実習レポート・発表内容
50%	30%	10%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			

参考書又は参考資料等	
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	吉田 遊子、時任 真幸	実務家教員	
授業コード	1210108011	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 文献検索が出来るようになる 2) 論文を要約し、他者に分かりやすく内容を説明することが出来るようになる 3) 理学療法士の仕事への理解・興味を深める		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	グループ別ゼミ:テーマの決定・論文検索	事前:ウィメンズヘルス理学療法に関連した興味あるテーマを考えておく(20分)。 事後:決定した論文を一読する(25分)	
4	グループ別ゼミ:レポート作成①	事前事後:レポート作成(45分)	
5	グループ別ゼミ:レポート作成②	事前:レポート作成、発表準備(45分)	
6	グループ別ゼミ:プレゼンテーション①	事前事後:発表準備、指摘された箇所を修正する(45分)	
7	グループ別ゼミ:プレゼンテーション②	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
8	グループ別ゼミ:プレゼンテーション③	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
9	グループ別ゼミ:実技演習の準備、または英語論文の検索	事前事後:ゼミの内容を考える(45分)	
10	グループ別ゼミ:実技演習準備、または英文抄読(要旨)レポート作成	事後:実技演習等の準備(45分)	
11	グループ別ゼミ:実技演習準備、または英文抄読(要旨)レポート作成	事前事後:実技演習等の準備(45分)	
12	グループ別ゼミ:プレゼンテーション①	事前:プレゼンテーション準備(45分)	
13	グループ別ゼミ:プレゼンテーション②	事後:プレゼンテーションで指摘された点を修正する(45分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
不明な用語は、以下の教科書等で調べ、理解を深めましょう。レポートは、誤字脱字を十分に確認したうえで、提出しましょう。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			

書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
理学療法士のためのウイメンズ・ヘルス運動療法(医歯薬出版)理学療法 MOOK20 ウイメンズヘルスと理学療法(三輪書店)ウイメンズヘルスリハビリテーション(メジカルビュー社)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	長野 友彦、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108013	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 文献検索ができる 2. 各テーマに関する内容をまとめ、他者に分かりやすく説明することができる 3. 理学療法評価や見学実習を通して、理学療法士の仕事への理解・興味を深める		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	オリエンテーション、文献・蔵書検索	事前:高齢者に関連した興味あるテーマを考えておく(15分)事後:決定したテーマに関する文献や教科書を調べる(30分)	
4	レポート作成	事前事後:レポート作成(45分)	
5	レポート作成	事前事後:レポート作成、発表準備(45分)	
6	プレゼンテーション	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
7	プレゼンテーション	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
8	プレゼンテーション	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
9	柔軟性の評価	事前:評価方法の確認、評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録や講義内容の整理(30分)	
10	関節可動域の評価	事前:評価方法の確認、評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録や講義内容の整理(30分)	
11	筋力・筋肉量の評価	事前:評価方法の確認、評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録や講義内容の整理(30分)	
12	バランスの評価	事前:評価方法の確認、評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録や講義内容の整理(30分)	
13	評価結果のまとめ	事前:評価結果の整理(15分) 事後:各評価方法を復習し、知識を整理する(30分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
準備学習:高齢者に関連するテーマについて教科書や文献を調べ、その内容をレポートにまとめる作業と発表の準備を中心に行う。事後学習:ゼミの中で出てきた内容を振り返り理解したうえで、評価の目的や方法の理解を深める。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
毎回の講義内容に合わせて、追加プリントにて補足する。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅡ		
担当者名	鈴木 雄太、時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210108014	授業形態	演習
学年	2年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の専門性を学ぶため、教員別ゼミに所属し、テーマに沿った文献抄読や演習を通して理学療法の理解と対応を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 理学療法士という専門職への理解を深める 2. 身だしなみや衛生管理など医療人として望ましい行動をとることができる 3. 筋の機能解剖を理解し、正しく触診することができる 4. 関節の運動学と筋機能の関係を理解することができる		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(時任)	事前:UNIPAにて各ゼミの特徴を確認する(45分)	
2	見学実習オリエンテーション(時任)	事前:1年次の見学実習参加要件を各自確認する(45分)	
3	体表解剖と触診:肩・肩甲帯	事前:肩・肩甲帯の骨・筋について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
4	機能解剖と運動学:肩・肩甲帯	事前:肩・肩甲帯の運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
5	体表解剖と触診:肘・前腕	事前:肘・前腕の骨・筋について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
6	機能解剖と運動学:肘・前腕	事前:肘・前腕の運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
7	解剖・触診と運動学:手・手指	事前:手・手指の解剖と運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
8	体表解剖と触診:股関節	事前:股関節の骨・筋について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
9	機能解剖と運動学:股関節	事前:股関節の運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
10	体表解剖と触診:膝関節	事前:膝関節の骨・筋について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
11	機能解剖と運動学:膝関節	事前:膝関節の運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
12	体表解剖と触診:足関節	事前:足関節の骨・筋について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
13	機能解剖と運動学:足関節	事前:足関節の運動学について復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
14	医療現場における理学療法の実際①(見学実習)	事後:見学結果をまとめ、レポート作成(45分)	
15	医療現場における理学療法の実際②(ゼミ内発表)	事前:レポートより発表原稿作成(45分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前学習:解剖学Ⅰ・Ⅱおよび運動学Ⅰの内容が復習できていることを前提に講義を進めます。			
事後学習:講義の中で疑問に感じたことは自ら調べて、さらに理解を深めること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミ別課題	見学実習態度	実習レポート・発表内容	
80%	10%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
・基礎運動学 第6版補訂、中村隆一、医歯薬出版株式会社			
・骨格筋の形と触察法 改訂第2版、河上敬介・磯貝香(編集)、大峰閣			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	吉田 遊子	実務家教員	○
授業コード	1210004011	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) ストレッチングを行うための解剖学的・生理学的知識が理解できる 2) ストレッチングの対象となる病態整理と効果検証についての理解ができる 3) 上下肢体幹筋の触診およびIDストレッチングが出来るようになる 4) 臨床実習で行う検査測定がスムーズに行えるようになる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(45分)	
2	ストレッチングについての理解を深める①:オリエンテーション、役割分担	事後:担当個所の資料を一読する(45分)	
3	ストレッチングについての理解を深める②:資料作成	事後:発表資料の作成と補足資料の収集(45分)	
4	ストレッチングについての理解を深める③:資料作成	事後:発表資料の作成と補足資料の収集(45分)	
5	ストレッチングについての理解を深める④:ストレッチングの種類、基礎知識	事前事後:発表資料の作成と他者の発表から得た情報の整理(45分)	
6	ストレッチングについての理解を深める⑤:対象となる病態生理	事前事後:発表資料の作成と他者の発表から得た情報の整理(45分)	
7	ストレッチングについての理解を深める⑥:効果の検証	事前事後:発表資料の作成と他者の発表から得た情報の整理(45分)	
8	IDストレッチングの実際①:体幹・上肢	事前:演習準備(30分) 事後:演習での気づきを整理する(15分)	
9	IDストレッチングの実際②:体幹・上肢	事前:演習準備(30分) 事後:演習での気づきを整理する(15分)	
10	IDストレッチングの実際③:下肢	事前:演習準備(30分) 事後:演習での気づきを整理する(15分)	
11	IDストレッチングの実際④:下肢	事前:演習準備(30分) 事後:演習での気づきを整理する(15分)	
12	臨床実習に向けた、検査測定等の演習①	事前事後:検査測定の確認と振り返り(45分)	
13	臨床実習に向けた、検査測定等の演習②	事前事後:検査測定の確認と振り返り(45分)	
14	臨床実習に向けた、検査測定等の演習③	事前事後:検査測定の確認と振り返り(45分)	
15	臨床実習Ⅳ後、交流会への参加	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておく(15分) 事後:後期からの実習に向けて準備すべきことをまとめ提出する(30分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
レポート課題とプレゼン内容	演習への参加態度	ポートフォリオ	
60%	20%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
ストレッチングの科学—Science of Stretching	鈴木 重行	株式会社 三輪書店	
ID ストレッチング第2版—Individual Muscle Stretching	鈴木 重行	株式会社 三輪書店	
参考書又は参考資料等			
鈴木重行編:ID 触診術—Individual Muscle Palpation、株式会社 三輪書店			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	高橋 精一郎	実務家教員	
授業コード	1210004002	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> カルテ記載の意味と記載項目について説明できる。 疾患に応じた評価項目を挙げ、実施できる。 評価内容を正確に記載し、記載の根拠を説明できる。 記載の不備な点について修正できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション:ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(30分)	
2	カルテへの記載の意味と必要性	事前:臨床での記録の意味と必要性を考える(20分) 事後:カルテのもつ臨床的・法的意味を理解する(25分)	
3	記載方法の検討:SOAP、ICFによる記載方法	事前:記録の記載方法の種類について把握する(15分) 事後:SOAP、ICFの記載方法を理解する(30分)	
4	症例検討:症例画像を参考にして	事前:SOAP、ICFでの記載ができるよう準備する(15分) 事後:提示された疾患についての記載内容を確認し、不備があれば修正する(30分)	
5	症例の問題点の分析	事前:記載内容の不備について修正する(15分) 事後:症例の問題点を理解する(30分)	
6	SOAP、ICFを用いた報告書作成の準備	事前:症例の情報を整理する(15分) 事後:SOAP、ICFの項目と記載内容の整合性の確認(30分)	
7	報告書の作成	事前:記載内容の確認(10分) 事後:報告様式と記載内容の整合性の確認(35分)	
8	報告書の記載内容の確認と修正(基礎情報)	事前:記載内容の確認(10分) 事後:報告様式と記載内容の整合性の確認(35分)	
9	報告書の記載内容の確認と修正(評価と問題点)	事前:記載内容の確認(10分) 事後:報告様式と記載内容の整合性の確認(35分)	
10	報告書の記載内容の確認と修正(統合と解釈)	事前:記載内容の確認(10分) 事後:報告様式と記載内容の整合性の確認(35分)	
11	症例報告書の意味と必要性、症例報告書の記載項目	事前:記載内容の確認(10分) 事後:症例の報告様式と記載内容の整合性の確認(35分)	
12	モデル症例に関する問題点の分析	事前:疾患による記載内容の要点の確認(10分) 事後:モデル症例の問題点抽出の整合性の確認(35分)	

13	モデル症例を用いた症例報告書の作成	事前:記載内容の確認(10分) 事後:症例報告内容の確認と修正(35分)
14	カンファレンスでの報告の要点と方法	事前:他職種に対する報告内容の整理と準備(20分) 事後:報告の効果に関する振り返り(25分)
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、4年生への質問内容を考えておくこと(20分) 事後:得られた情報を整理する(25分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
評価学関係の授業において修得した評価項目や項目間の関係性について確認しておくこと。報告書の記載項目・内容・根拠について整理すること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
報告書作成	参加態度	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
なし		
参考書又は参考資料等		
必要に応じてプリントを配布する		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	橋元 隆	実務家教員	
授業コード	1210004001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	医療諸制度について、我が国の医療保障制度、特に医療保険および介護保険について学ぶ。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション:ゼミの選択・決定(一斉授業)	各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(30分)	
2	診療録への記載の意味とその重要性	事前:診療録にある記録を確認する(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
3	記録と報告	事前:記録と報告の違いを確認する(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
4	インシデント・アクシデントへの対応	事前:医療安全管理について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
5	わが国の社会保障制度の概念について	事前:社会保障とは何かについて調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
6	社会保障制度について	事前:社会保障の4つの柱について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
7	医療保障制度について	事前:医療保険について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
8	医療提供施設の種類	事前:病院の種類について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
9	労働災害保険について	事前:労働災害の状況とその補償について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
10	国民健康保険について	事前:後期高齢者医療制度について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
11	医療法について	事前:医療圏・医療計画について調べる(15分) 事後:ゼミノートの作成(30分)	
12	介護保険の概要	事前:介護者不足への対応について考えてみる(30分) 事後:ゼミノートの作成(15分)	
13	介護保険の対象とサービスの種類	事前:地域密着型サービスについて調べる(30分) 事後:ゼミノートの作成(15分)	
14	介護保険制度利用のための手続き	事前:介護認定審査会とは何か調べる(30分) 事後:ゼミノートの作成(15分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事後:発表会のまとめとゼミノートの作成(30分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
日頃から色々なメディアに接し、他者に「伝える」とはどのようなものかを学び、身につけること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
レポート・発表、ゼミへの参加態度などで総合評価			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
必要に応じて資料等を配布する。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		
	いつでも研究室をお尋ねください。		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	○
授業コード	1210004004	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	主要な運動疾患における障害のとらえ方を理解して、臨床症状に対する適切な評価内容と解釈について理解することができる。また、評価する過程で見つかった障がい改善のための適切な理学療法アプローチについて説明できるようになること。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと	
2	ゼミの中で取り上げる運動器疾患の概要を把握する	事後:ゼミで取り上げる運動器疾患を振り返る(45分)	
3	変形性股関節症の臨床症状について学習する	事前:変形性股関節症の概要を調べておく(20分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(25分)	
4	患者を担当する前日までに必要な医学的知識を学ぶ	事前:変形性股関節症の概要を調べておく(20分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(25分)	
5	評価1日目の内容を学ぶ	事前:変形性股関節症の概要を調べておく(20分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(25分)	
6	評価2日目の内容を学ぶ	事前:変形性股関節症の概要を調べておく(20分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(25分)	
7	評価3日目の内容を学ぶ	事前:変形性股関節症の概要を調べておく(20分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(25分)	
8	臨床症状の診かたと考えかたを学ぶ①(疼痛の影響)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
9	臨床症状の診かたと考えかたを学ぶ②(可動域制限の影響)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
10	臨床症状の診かたと考えかたを学ぶ③(筋力低下の影響)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
11	臨床症状の診かたと考えかたを学ぶ④(アライメント異常の影響)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
12	運動器疾患に対するアプローチ①(関節可動域制限)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
13	運動器疾患に対するアプローチ②(アライメント異常)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	
14	運動器疾患に対するアプローチ③(筋機能低下)	事前:配布資料を読んで、不明な語句等を調べる(25分) 事後:配布資料を整理して再度読んで理解する(20分)	

15	臨床実習Ⅳ報告会への参加	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(20分) 事後:得られた情報を整理する(25分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
準備学習では、配布された資料を読んで不明な語句等を調べておく。 事後学習では、配布資料を再度読んで内容を理解する。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ゼミへの参加状況と取組み内容を総合的に評価する			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
ゼミの中で紹介する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	廣滋 恵一	実務家教員	○
授業コード	1210004005	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	理学療法士に求められる様々な評価指標を理解することができる実際に計測・測定することでその評価法の特徴を理解することができる測定データを分析し、考察する力を身につける		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(30分)	
2	測定の意義と方法、データの特徴と取扱いについて	事後:講義内容を整理する(45分)	
3	柔軟性評価について(テーマの検討)	事後:文献検索と情報整理(45分)	
4	柔軟性評価の実際	事前:評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録の整理(30分)	
5	測定データの統計学的分析	事前:統計方法について調査する(15分) 事後:分析結果を考察する(30分)	
6	考察と議論	事後:議論のポイントを整理する(45分)	
7	筋力評価について(テーマの検討)	事後:文献検索と情報整理(45分)	
8	筋力評価の実際	事前:評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録の整理(30分)	
9	測定データの統計学的分析	事前:統計方法について調査する(15分) 事後:分析結果を考察する(30分)	
10	考察と議論	事後:議論のポイントを整理する(45分)	
11	歩行・バランス評価について(テーマの検討)	事後:文献検索と情報整理(45分)	
12	歩行・バランス評価の実際	事前:評価記録用紙の作成(15分) 事後:評価記録の整理(30分)	
13	測定データの統計学的分析	事前:統計方法について調査する(15分) 事後:分析結果を考察する(30分)	
14	考察と議論	事後:議論のポイントを整理する(45分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前・事後学習をしっかりと行い、ゼミでの実践(評価)時にスムーズに取り掛かれるよう準備をしておくこと			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
情報収集	積極的参加姿勢	ポートフォリオ(授業ノート)	
30%	20%	50%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
なし		
参考書又は参考資料等		
文献や参考書を適宜提示する		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	奥田 憲一	実務家教員	○
授業コード	1210004006	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 簡単な骨指標や筋の触診が可能になり、姿勢や運動の分析の着眼点を理解する。 2. 小児領域に関する国家試験問題に触れ、問題解決に向けたディスカッションが可能になる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(30分)	
2	オリエンテーションゼミの方針と進め方及びディスカッション 体表解剖①・骨標本と触診	事前:ゼミの内容を確認する(45分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
3	体表解剖②・骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
4	体表解剖③・骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
5	体表解剖④・骨標本と触診	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
6	姿勢の分析・背臥位①	事前:事前課題について調べる(30分) 事後:ゼミ後レポートの作成(15分)	
7	姿勢の分析・背臥位②	事前:発表準備(30分) 事後:発表後のレポート修正(15分)	
8	動作の分析・寝返り①	事前:発表準備(30分) 事後:発表後のレポート修正(15分)	
9	動作の分析・寝返り②	事前:発表準備(30分) 事後:発表後のレポート修正(15分)	
10	動作の分析・歩行①	事前:発表準備(30分) 事後:発表後のレポート修正(15分)	
11	動作の分析・歩行②	事前:発表準備(30分) 事後:発表後のレポート修正(15分)	
12	体表解剖・姿勢の分析・動作の分析まとめ	事前:配布資料の通読(20分) 事後:グループディスカッションの要約(25分)	
13	国家試験問題にチャレンジ ①・ディスカッション	事前:配布資料の通読(20分) 事後:グループディスカッションの要約(25分)	
14	国家試験問題にチャレンジ ②・ディスカッション	事前:配布資料の通読(20分) 事後:グループディスカッションの要約(25分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事後:4年生の発表内容の要約(45分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
準備学習:配布資料や文献を事前に通読しておき、各回の講義テーマについて自己の考えをまとめておく。事後学習:各回のテーマやディスカッションの内容などを各自で要約していくこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
講義後レポート	参加態度		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
使用しない。			
参考書又は参考資料等			
適宜資料を配布する。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	井元 淳	実務家教員	○
授業コード	1210004008	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1. 呼吸器疾患や高齢者の栄養に関連する知識について現状や課題、治療法について理解を深め、説明できるようになる。</p> <p>2. 高齢者を取り巻く呼吸器疾患や摂食・嚥下障害に起因する問題点を理解し、その解決方法について討議できるようになる。</p> <p>3. 具体的な事例について分析を行い、問題点の解決に向けた手法を説明できるようになる。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(45分)	
2	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:テーマの決定、文献検索	事前:呼吸器の解剖について予習する(15分) 事後:文献検索をする(30分)	
3	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:文献確認、対象症例の理解	事後:症例を通して分からない言葉を調べる(45分)	
4	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:対象症例のSOAPの準備・作成	事前:SOAPを復習する(15分) 事後:SOAPを作成する(30分)	
5	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:対象症例のSOAPの修正	事後:SOAPの修正をする(45分)	
6	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:対象症例の初期評価の理解	事前:評価項目で分からない言葉を調べる(15分) 事後:初期評価を作成する(30分)	
7	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:対象症例の問題点の理解	事前:問題点で分からない言葉を調べる(15分) 事後:問題点を作成する(30分)	
8	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:治療プログラムの理解	事前:治療プログラムで分からない言葉を調べる(15分) 事後:治療プログラムを作成する(30分)	
9	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:治療経過の理解	事前:治療経過・考察で分からない言葉を調べる(15分) 事後:治療経過・考察を作成する(30分)	
10	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:プレゼンテーション準備	事前:対象症例の経過全体を復習する(15分) 事後:プレゼンテーションの準備をする(30分)	
11	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:プレゼンテーション①	事後:発表後の課題を振り返る(45分)	
12	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:プレゼンテーション②	事後:発表後の課題を振り返る(45分)	
13	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解:模擬症例での問題点の分析	事前:発表で出てきた実技を復習する(15分) 事後:模擬症例の中の分からない言葉を調べる(30分)	

14	呼吸器疾患、摂食・嚥下障害に対する介入方法の理解 解: 模擬症例での治療プログラムの理解	事前: 模擬症例の治療プログラムの中の分からない言葉を調べる(15分) 事後: 模擬症例の問題点と治療プログラムの繋がりを復習する(30分)
15	臨床実習IV後4年生との交流会	事前: 臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(20分) 事後: 得られた情報を整理する(25分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

興味ある内容を広範囲に積極的に調べることで多くの知見を学んでください。またパワーポイントの作成で修正が入っている箇所は確実に修正するとともに、分からない言葉は自ら調べ、発表時に答えられるようにし、発表する実技の練習もしっかり行ってください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段: 評価項目、下段: 割合(%)

レポート	発表内容	取り組み姿勢	
50%	42%	8%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

※必要に応じて資料を配布します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	中藤 佳絵	実務家教員	○
授業コード	1210004009	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 実際の疾患や個人因子・環境因子を踏まえて日常生活活動を捉えることができる。 2. 臨床実習の報告会に参加することで、具体的な学修目標の設定や到達目標を明確にすることができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(45分)	
2	臨床と記録について	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
3	様々な記録の方法と目的	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
4	診療記録について	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
5	経過記録について	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
6	理学療法士と診療記録	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
7	症例と記録:機能障害	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
8	症例と記録:活動制限と参加制約	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
9	症例と記録:個人因子と環境因子	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
10	症例と記録:目標と問題点	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
11	症例と記録:臨床的推論	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
12	症例と記録:ICIDHとICF	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
13	記録を読む	事後:授業で取り扱った内容を確認する(45分)	
14	まとめ	事前:提出物の準備(15分) 事後:資料の整理(30分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(20分) 事後:得られた情報を整理する(20分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
授業で扱った内容は、知っているだけでなく理解して使えるように、復習を中心に進めてください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
授業への積極的な参加	提出物等		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	

参考書又は参考資料等	
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210004010	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. 循環器疾患の理学療法評価のうち、問診とバイタルチェックを実施できる 2. 模擬症例の情報をアセスメントし、問題点を整理できる 3. 模擬症例のプログラムを考え実施することができる 4. 大学生の健康に関する諸問題を考察できる		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(45分)	
2	(症例)模擬症例の提示、情報の理解、臨床推論	事後:模擬症例の情報について復習(45分)	
3	(症例)リスク管理、評価項目の検討(ディスカッション)	事後:評価方法の確認(45分)	
4	(症例)理学療法評価の実施(問診、バイタルサイン)	事後:実施した評価のポイントの整理(45分)	
5	(症例)問題点(ICF)、理学療法目標を検討する	事後:ICFシート作成(45分)	
6	(症例)プログラム立案、妥当性、実施方法の検討	事後:プログラムレポート(45分)	
7	(症例)プログラムの実施	事後:実施したプログラムのポイントの整理(45分)	
8	(症例)理学療法評価の実施(左片麻痺)	事前:片麻痺患者の理学療法評価の復習(45分)	
9	大学生の健康に関する現状(文献検索)	事後:文献精読(45分)	
10	大学生の健康について (プレゼンテーションとディスカッション)	事後:ディスカッションのポイントを整理する(45分)	
11	健康づくり (ヘルスプロモーション)、身体活動量について	事後:身体活動量の測定、記録(45分)	
12	活動量低下の弊害(文献検索)	事後:身体活動量の測定、レポート作成(45分)	
13	身体活動量計を用いた測定結果の報告とディスカッション	事後:大学生のヘルスプロモーションに関する企画書作成(45分)	
14	大学生のヘルスプロモーション(企画書の発表)	事後:ディスカッションのポイントを整理する(45分)	
15	臨床実習Ⅳ交流会への参加	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(20分) 事後:得られた情報を整理する(25分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
模擬症例については、理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学統合演習Ⅰ、内部疾患理学療法Ⅱの指定教科書や授業プリント等を参考にすること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
実技	レポート(ICF、プログラム、企画書)	ディスカッション	
15%	25%×3=75%	10%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
内部障害理学療法テキスト(南江堂)厚生労働省 国民健康・栄養調査 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210004012	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.検査測定の意味について説明できる。 2.骨のランドマークを理解し、触診が確実に実施できる。 3.関節可動域の基本軸・移動軸を理解し、各関節の正常な end feel を説明できる。 4.骨格筋の起始・停止・神経支配・作用を理解し、触診することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(30分)	
2	基本的体表解剖:動脈・骨指標・骨格筋の触診	事前:小テスト(国試過去問20問)の実施(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
3	理学療法評価に必要な触診や運動学的知識について	事前:小テスト(国試過去問20問)の実施(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
4	健常者への四肢長・四肢周径測定	事前:形態測定の復習(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
5	疾患を想定した四肢長・四肢周径測定	事前:模擬症例についての整理(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
6	関節可動域測定:上肢測定	事前:上肢の基本軸、移動軸、参考可動域の確認(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
7	関節可動域測定:下肢測定	事前:下肢の基本軸、移動軸、参考可動域の確認(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
8	関節可動域測定:体幹測定	事前:体幹の基本軸、移動軸、参考可動域の確認(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
9	疾患を想定した関節可動域測定	事前:模擬症例についての整理(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
10	MMT:上肢測定	事前:上肢骨格筋の起始・停止・神経支配の復習(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
11	MMT:下肢測定	事前:下肢骨格筋の起始・停止・神経支配の復習(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
12	MMT:体幹・顔面測定	事前:体幹・顔面骨格筋の起始・停止・神経支配の復習(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
13	疾患を想定したMMT	事前:模擬症例についての整理(30分) 事後:演習内容の整理(15分)	
14	感覚検査について	事前:理学療法評価学における感覚検査の復習	

		事後:講義内容の整理 (15分)	
15	臨床実習Ⅳ後 4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておくこと(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
Tシャツ・ハーフパンツなどの動きやすい服装で参加すること。理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学修した内容であるのでしっかり復習しておくこと。授業においてはこれらのファイルも持参してください。小テストを適宜実施します。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
演習における実技習熟度	小テスト	演習課題・マナー	
50%	30%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏, 下田信明〔編〕	羊土社	
理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法 第3版	千住秀明 監修	神陵文庫	
参考書又は参考資料等			
新・徒手筋力検査法 原著第10版, Dale Avers, Marybeth Brown 著 津山直一, 中村耕三 訳 (MMT時には持参すること)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210004013	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.理学療法に関連する疑問をリサーチ・クエスチョンにすることができる 2.理学療法士に求められる様々な評価指標を理解することができる 3.実際の理学療法評価から、その評価法の特徴を理解することができる 4.測定結果を分析し、先行研究を踏まえて考察することができる		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておくこと(45分)	
2	疑問をリサーチ・クエスチョンにする	事後:講義内容を整理する(45分)	
3	PECOの作成	事後:文献検索と講義内容を整理する(45分)	
4	プレゼンテーション	事後:議論のポイントを整理する(45分)	
5	柔軟性の評価	事前:教科書や文献で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
6	関節可動域測定(下肢)	事前:教科書で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
7	筋力・筋肉量測定	事前:教科書や文献で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
8	徒手筋力テスト(下肢)	事前:教科書で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
9	バランスの評価	事前:教科書や文献で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
10	歩行・装具の評価	事前:教科書や文献で評価方法を確認する(15分) 事後:評価記録や講義内容を整理する(30分)	
11	Rによる統計解析、グラフ作成	事後:講義内容を整理する(45分)	
12	評価結果の分析	事前:統計方法について調査する(15分) 事後:分析結果を考察する(30分)	
13	レポート作成	事前事後:レポート作成、発表準備(45分)	
14	プレゼンテーション	事後:指摘された箇所を修正する(45分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、4年生への質問内容を考えておくこと(20分) 事後:得られた情報を整理する(25分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前・事後学習をしっかりと行い、ゼミでの実践(評価)時にスムーズに取り掛かれるよう準備をしておくこと。			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ポートフォリオ	参加姿勢・態度・マナー	発表	
50%	30%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
なし			
参考書又は参考資料等			
毎回の講義内容に合わせて、追加プリントにて補足する。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法ゼミナールⅢ		
担当者名	鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210004014	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	教員別のゼミに所属して、テーマに沿った課題学修を行い、臨床実習や理学療法研究に有益な情報を収集する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.検査・測定の方法を理解し、健常者に対して正しく実施することができる 2.検査・測定結果を解釈し、アセスメントを行うことができる		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、ゼミの選択・決定(吉田)	事前:各教員のゼミ内容(シラバス)と開講時間を確認し、希望ゼミを選択しておく(45分)	
2	関節可動域測定:上肢①	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
3	関節可動域測定:上肢②	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
4	関節可動域測定:下肢①	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
5	関節可動域測定:下肢②	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
6	徒手筋力検査:上肢①	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
7	徒手筋力検査:上肢②	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
8	徒手筋力検査:下肢①	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
9	徒手筋力検査:下肢②	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
10	徒手筋力検査:体幹	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
11	脳卒中機能評価(BRS・FMA・SIAS)	事前:中枢神経疾患理学療法Ⅰでの学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
12	形態測定	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
13	バランス検査	事前:評価学での学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	

14	歩行分析	事前:動作分析演習Ⅱでの学修内容を復習しておく(25分) 事後:受講内容を整理する(20分)	
15	臨床実習Ⅳ後4年生との交流会	事前:臨床実習録で各期の実習目標を確認し、先輩への質問内容を考えておく(20分) 事後:得られた情報を整理する(25分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
評価学Ⅰ～Ⅲおよび関連する解剖学、運動学の復習をしておくこと。受講内容について整理することを心がけ、わからない点は積極的に調べて理解を深めること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
演習への参加姿勢・態度・マナー	ポートフォリオ		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
・リハビリテーション基礎評価学 第2版・新・徒手筋力検査法 第10版			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法基礎演習		
担当者名	石橋 敏郎、高橋 精一郎	実務家教員	○
授業コード	1210109001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	これまで学んできた理学療法基礎分野について、演習を通して理解を深め理学療法士として必要不可欠な知識、技能、資質の向上を目指す。学生の理解度と到達度を分析しつつ、生涯にわたって自らの職業能力を高められるよう主体的に学修を継続できる力を養う。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療人として必要不可欠である基礎科目(解剖学、生理学、運動学)を振り返りつつ、理解を深めること。 2. 臨床実習および国家試験に臨むために必要な基礎知識をマスターすること。 3. 各分野で実施される小テストや課題に前向きに取り組むこと。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	初回オリエンテーション(石橋) (演習内容及び進め方等の具体的説明)	事後:概要の情報整理(45分)	
2	解剖学①/5:骨格系(高橋)	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
3	解剖学②/5:筋系(高橋)	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
4	解剖学③/5:神経系(高橋)	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
5	解剖学④/5:呼吸系(高橋)	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
6	解剖学⑤/5:循環器系(高橋)	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
7	生理学①/5(石橋)生命現象と人体(浸透圧、水分、体温)、細胞の構造と機能、神経の興奮伝導と末梢神経	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
8	生理学② /5(石橋)中枢神経系、筋と骨、感覚	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
9	生理学③ /5(石橋)血液、心臓と循環、呼吸とガスの運搬	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
10	生理学④ /5(石橋)尿の生成と排泄、消化と吸収、栄養と代謝	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
11	生理学⑤ /5(石橋)内分泌、生殖と発生・成長と老化、運動生理	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
12	運動学① /4(石橋)上肢の運動に関与する骨格筋の作用について	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	
13	運動学② /4(石橋)下肢の運動に関与する骨格筋の作用について	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)	

14	運動学③ /4(石橋)頸部・体幹・呼吸に関与する骨格筋の作用について	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)
15	運動学④ /4(石橋)歩行と生体力学に関する運動学について	事前:資料の準備と予習(15分) 事後:小テストの振り返りと暗記(30分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
事前に授業内容に関する資料等を準備して予習しておくこと事後には小テストの内容を確実に理解して暗記すること		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	小テスト	
50%	50%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
授業で使用したテキストとサブノートを準備すること		
参考書又は参考資料等		
随時紹介します		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
主体的に取り組む姿勢を大事にしつつ、日々の学習の積み重ねを着実に実行してください。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	不明な点は担当教員に積極的に質問してください	

授業科目名	理学療法総合研究		
担当者名	廣滋 恵一、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、奥田 憲一、井元 淳、 吉田 遊子、中藤 佳絵、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	
授業コード	1210110001	授業形態	演習
学年	4年	開講期	通年
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP4-4-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	これまでに学修した理学療法の理論と実際を科学的に分析して発表する。この科目は、臨床・研究分野での経験豊富な教員の指導の下、独創性や計画性、思考力や考察力を養うのみでなく、将来理学療法士として研究を実施する一大礎石としても重要となる。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	○1つのテーマについて関連する文献の検索や研究デザインを作成することができる。 ○研究デザインに基づくデータ収集・分析を行い、その結果から考察することができる。 ○研究成果をまとめ、発表(プレゼンテーション)し、論文にまとめることができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、グループディスカッション	事前:教員別の研究テーマを調査する(30分) 事後:研究グループを構成し、研究テーマについて検討を深める(60分)	
2	研究デザインの検討① 研究の目的、仮説の立案、介入効果の検討	事前:情報収集(文献検索)(60分) 事後:情報の整理(30分)	
3	研究デザインの検討② 対象の選定、測定項目・測定機器の決定	事前:情報収集(文献検索)(60分) 事後:情報の整理(30分)	
4	研究計画書と実験スケジュール案の作成	事前:研究計画書(案)の作成(45分) 事後:研究計画書(案)の修正(45分)	
5	研究計画書と実験スケジュールの提出及び修正	事前:研究計画書(案)の作成(45分) 事後:研究計画書(案)の修正(45分)	
6	データ収集準備(対象者のスケジュールリング、測定機器の確認、資料準備)	事前:データ収集準備・確認(60分) 事後:データ収集準備の追加(30分)	
7	データ収集① 初期データ収集、初期アンケート調査等	事前:データ収集の準備(30分) 事後:データの管理および整理(60分)	
8	データ収集② 追加データ収集、追加アンケート調査等	事前:データ収集の準備(30分) 事後:データの管理および整理(60分)	
9	データ収集③ 介入後データ収集、最終アンケート調査等	事前:データ収集の準備(30分) 事後:データの管理および整理(60分)	
10	データ収集④ 追加データ収集、追加アンケート調査等	事前:データ収集の準備(30分) 事後:データの管理および整理(60分)	
11	データ分析① 収集データの整理と分析方法の検討	事前:統計学的解析方法について(60分) 事後:統計学的解析方法について(30分)	
12	データ分析② 統計学的分析の実施	事前:統計学的解析方法について(60分) 事後:統計学的解析方法について(30分)	

13	データ分析③ 統計学的分析結果の整理と解釈	事後:解析結果の視覚化(90分)	
14	分析結果による効果判定と考察①	事前:文献情報の整理(90分)	
15	分析結果による効果判定と考察②	事前:文献情報の整理(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
審査教員による発表会評価	指導教員による研究過程・論文評価		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
これまでに学修してきた研究方法や統計学的解析方法の復習、臨床実習で生じた興味や疑問などをグループで共有しながら課題を進めること。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法研究法演習		
担当者名	井元 淳、高橋 精一郎、廣滋 恵一、 奥田 憲一、神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210111001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP5-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床では科学的根拠に基づいた理学療法の提供が求められている。そこで研究活動に必要な用語・考え方、研究プランの立て方、研究の進め方、正しいデータ収集法、倫理規定、適切な統計法の採用などの理解が必要となる。この科目では臨床での研究経験を有する教員が、将来、研究を円滑に進めて行く上で必要な基本的内容を講義により解説するとともに、研究グループに分かれての研究計画書の立案、また実際の機器を使用したデータの収集や統計学的結果を検討して報告書を作成する演習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.研究プランの立て方、データ収集の方法、論文検索、倫理規定等について説明できるようになる 2.研究計画書を作成するための資料を集め、計画書の立案を討議できるようになる 3.データ処理のための統計法を修得する 4.統計学的結果について分析、評価し、効果的な研究結果を提示する方法を修得する		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	研究方法論①:研究とは何か、研究の進め方と文献検索の方法(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
2	研究方法論②:研究課題の見つけ方(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
3	研究方法論③:研究計画書の作成方法、倫理規定(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:配布資料を復習する(30分)	
4	研究方法論④:統計手法、研究結果の公表方法(井元)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:グループで研究テーマを抽出する(30分)	
5	グループ別 研究計画書作成①(教員別)	事前:興味あることについてまとめる(15分) 事後:グループで研究テーマを抽出する(30分)	
6	グループ別 研究計画書作成②(教員別)	事後:研究計画書を修正する(45分)	
7	グループ別 研究計画書作成③(教員別)	事後:研究計画書を修正する(45分)	
8	グループ別 データ収集①(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
9	グループ別 データ収集②(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
10	グループ別 データ収集③(教員別)	事前:研究方法を確認する(15分) 事後:収集したデータをまとめる(30分)	
11	グループ別 統計学的分析①(教員別)	事前:統計手法を確認する(15分) 事後:統計結果を分析する(30分)	
12	グループ別 統計学的分析②(教員別)	事前:統計手法を確認する(15分) 事後:統計結果を分析する(30分)	
13	研究データのまとめ方:図表の作成方法(井元)	事前:図表の作成方法を復習する(15分) 事後:図表を作成する(30分)	

14	グループ別 図表の作成・提出①(教員別)	事前:図表の提出資料の体裁を確認する(15分) 事後:結果報告書を作成する(30分)	
15	グループ別 図表の作成・提出②(教員別)	事後:結果報告書を修正する(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
研究計画書と結果報告書は配布資料や提示する記載例をもとにグループで作成すること。どちらも提出を求めます。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
研究計画書	結果報告書	授業への取り組み	
60%	30%	10%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
はじめての研究法(千住秀明ら、神陵文庫) ここからはじめる研究入門(武田裕子訳、医学書院) 医学的研究のデザイン 第4版(木原雅子ら訳、メディカルサイエンス・インターナショナル)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
興味あるテーマを見つけ、研究プランに結びつける方法について演習を通して積極的に学んで下さい。将来、臨床における様々な疑問点を科学的に解決する姿勢を養って行きます。研究計画書、結果報告書成は成績評価に関わりますので、積極的にグループワークに参加してください。授業の最終日にグループ内でアンケートを実施し、その結果を授業態度として評価します。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法管理学		
担当者名	橋元 隆	実務家教員	
授業コード	1210112001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法士として仕事をする場合、対象者の持っているリスクを把握することは当然のこと、危機を防ぐマネジメント能力が不可欠である。本科目では臨床に限らず、教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般について取り上げ、ディスカッションしながら学修する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>○病院・施設・在宅(地域)などにおいて対象者の課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。</p> <p>○個々の対象者における必要なマネジメントを構築し、短・中期プランを構築できる。</p> <p>○教育・研究・地域領域においてリスク管理ができる。</p> <p>○自分自身の自己管理(セルフコントロール)を学修する。</p>		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	管理・マネジメントの概念① (理学療法士周辺の法律と環境)	事前:理学療法士を取り巻く制度について考える(15分) 事後:教科ノートへの作成(30分)	
2	管理・マネジメントの概念② (理学療法士に必要な管理・マネジメント)	事前:理学療法士に必要な管理について考える(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
3	理学療法管理学とは	事前:医療安全管理について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
4	理学療法士の職業倫理	事前:社会人・医療人・学生としての社会性について考える(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
5	組織運営とマネジメント	事前:組織とは何か調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
6	理学療法部門の職場管理	事前:職場管理(人・もの・時間)について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
7	理学療法業務のマネジメント	事前:リハの採算性(診療報酬・介護報酬)について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
8	教育・研究のマネジメント	事前:研究における倫理要綱について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
9	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	事前:リハに関連する諸制度を調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
10	高齢者の身体特性、および家族のマネジメント	事前:介護保険制度において要介護・要支援の引き金となる疾病・症状について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	
11	病態と治療薬に関するマネジメント	事前:薬物療法について知識を持つ(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)	

12	代表的な疾患と治療薬、理学療法におけるマネジメント	事前:薬物と理学療法実施における関連性について調べる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)
13	地域を支援する理学療法マネジメント	事前:地域で何をすべきか、何ができるか考える(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)
14	多職種連携におけるマネジメント	事前:どのような職種との連携が必要か考える(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)
15	自己に対するマネジメント	事前:日常のストレスへの対応方法を考えてみる(15分) 事後:教科ノートへ授業内容の整理(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

是非、日々の社会現象や出来事について情報収集を行って欲しい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

試験・レポート	受講姿勢(出席・演習参加等・報連相)		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法管理学	奈良 勲、橋元 隆・他	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

テキストを利用しながら講義を進めるが、原則的には適時資料を配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

日常、何気なく過ごしている自らの学生・社会生活について考えよう。また、今世界で起こっている様々出来事(自然災害・人災)に関心を持ち、その要因や予防対策などについて考えてみよう。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法評価学 I		
担当者名	廣滋 恵一	実務家教員	○
授業コード	1210113001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法を安全かつ効果的に実施するためには、対象者の疾病や障害の程度を把握する評価が必要不可欠であり、さらには医学的な評価(検査・測定)に加えて、対象者の日常生活活動や職場復帰といった社会参加を考慮した生活機能の評価も重要である。このため、理学療法士には十分な情報収集力と正確な評価技術力を修得することが求められる。授業では、臨床経験を有する実務家教員が、評価の位置づけや目的について解説し、評価結果のとらえ方、基本となる検査・測定の方法等について講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の位置づけ、目的等について理解し説明できる。 2. 各種検査・測定の目的および方法について理解し、説明できる。 3. 各種検査・測定結果を統合・解釈し、障害等との関係を理解できる。 4. 症例報告の意義を理解することができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(授業計画の説明)リハビリテーションの理解(動画視聴)障害とは? 障害の概念とその構造	事前:教科書①:p1~3、②:p18~22(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
2	理学療法における評価の基礎	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
3	理学療法評価の進め方	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
4	評価に必要な画像情報の種類と見方	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
5	医療面接(問診)と情報収集(疼痛検査など)	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
6	意識障害、全身状態、高次脳機能等の評価	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
7	形態測定、関節可動域測定の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
8	徒手筋力検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
9	感覚検査、反射検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
10	筋緊張検査、協調性検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
11	片麻痺機能検査、整形外科的検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
12	姿勢バランス評価、動作分析の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	

13	歩行分析・日常生活活動評価の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
14	検査測定結果の統合と解釈	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
15	理学療法評価に基づく症例報告	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
教科書の指定範囲を読み、要点をノートにまとめること。事前に授業の資料を配布するので、教科書と合わせて講義内容の予習を行うこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
①理学療法評価法(第3版)	千住秀明 監修潮見泰藏、下田信	神陵文庫羊土社協同医書出版社	
②リハビリテーション基礎評価学 第2版	明 編集 Helen J. Hislop 他		
③新・徒手筋力検査法 第9版			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
授業のはじめに前回の確認を実施するので復習を行っておくこと。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当者名	吉田 遊子	実務家教員	○
授業コード	1210114001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の基本的な検査・測定方法について、臨床経験のある教員が演習形式で授業を実施します。具体的には、疼痛検査、形態測定、関節可動域測定、感覚検査、反射検査について、その目的や測定上の留意点等を確認したうえで、演習を通して検査・測定技術を教授します。さらに、測定結果の解釈については、診療録の記録形式(SOAP)で演習を行います。なお、授業進行に合わせて、プリントを配布しますので、演習活動や復習に活用してください。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 各種検査・測定の意義と目的を理解することができる。 2) 各種検査・測定に必要な器具を適切に取扱い、正確に測定・記録することができる。 3) 実際の臨床を想定し、対象者へ十分なオリエンテーションをしたうえで、適切な声掛けや指示を与えながら測定を実施することができる。 4) 各種検査・測定の結果を解釈することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	疼痛検査:痛みの分類、検査手順、記録方法 (書籍②p291-297)	予習:シラバス及び、授業に該当する箇所を一読のこと。 (25分) 復習:授業で演習した「問診」を再度、実施のこと。(20分)	
2	形態測定(1):目的、測定上の留意点、記録方法、ランドマークの確認、上肢長測定(書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
3	形態測定(2):下肢長測定、周径測定 (書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
4	形態測定(3):周径測定、体格指数、形態測定まとめ (書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、保健室で体組成を測定のこと。授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
5	関節可動域測定(1):目的、測定上の留意点、記録方法、肘関節、前腕の測定 (書籍②p56-58、書籍①p229-230)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
6	関節可動域測定(2):肩関節・手関節の測定 (書籍①p227-231)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	

7	関節可動域測定(3) : 股関節の測定 (書籍①p233-234)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
8	関節可動域測定(4) : 股関節・膝関節の測定 (書籍①p234-234)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
9	関節可動域測定(5) : 頸部、胸腰部の測定 (書籍①p223-225)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
10	関節可動域測定(6) : 肩甲帯、手指の測定、その他の検査法の測定(書籍①p226、231-232)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターとテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
11	関節可動域測定(7) : 関節可動域測定のまとめ(国家試験問題と症例問題)、実技テストについて	予習:診療録の記載方法(SOAP)について、授業の該当箇所を一読のこと。(15分) 復習:授業内容の振り返り(30分)。
12	感覚検査(1) : 目的、測定上の留意点、記録方法、表在感覚検査(書籍②p91-98)	予習:感覚の伝導路について、確認しておくこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
13	感覚検査(2) : 深部感覚検査、複合感覚検査、まとめ(書籍②p98-101)	予習:感覚障害はどのような疾患に生じ、感覚障害が生じると日常生活上、どのような問題が起こるか考えておくこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
14	反射検査 : 目的、測定上の留意点、記録方法、深部反射、病的反射(書籍①p203-217)	予習:反射の生理学的機序について、授業の該当箇所や生理学の教科書を一読のこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
15	まとめ(実技試験の確認、その他)	復習:実技試験要領は熟読のうえ、十分な準備をすること。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学修 : 該当箇所を確認のうえ、必要な測定器具を持参の上、参加してください。

事後学修 : 実技練習は繰り返し行い、解剖学的知識と関連付けて学習してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	実技試験	課題、授業ファイルの内容、 授業への参加姿勢	
75%	15%	10%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
①PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明・編	羊土社
②理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法 第3版	千住秀明 監修	神陵文庫
参考書又は参考資料等		
PT・OT のための測定評価2 形態測定・感覚検査・反射検査 第2版(三輪書店)		
PT・OT のための測定評価1 ROM測定 第2版(三輪書店)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
<p>授業は、教科書内容の説明および教員による実演を行った後に、学生同士で実技を行います。授業には身だしなみを整え、実習着着用、検査器具携帯の上、出席してください。臨床での検査測定は、適切な態度と丁寧なオリエンテーションが求められます。繰り返し練習し、実技習得に努めてください。測定結果についての解釈についての課題提出を求めます。授業で使用するプリント類は配布順に、ファイルに整理しておくこと。適宜、提出してもらいます。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法評価学Ⅲ		
担当者名	吉田 遊子	実務家教員	○
授業コード	1210115001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	対象者の機能形態障害等を把握するために必要な基本的検査・測定方法について、臨床経験のある教員が演習形式で授業を実施します。具体的には、各評価の意義や目的、注意点などを説明したうえで、徒手筋力検査法および測定機器を用いた筋力検査、運動機能評価、姿勢分析を行います。徒手筋力検査法においては、自己学習プリントを事前に配布するので、予習をして授業に臨むこと。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1)筋力検査・姿勢分析を行うことの意義と目的を理解することができる。 2)安全性に配慮して正確に測定することができる。 3)実際の臨床を想定し、対象者に十分なオリエンテーションを行ったうえで、適切な声掛けや指示を与えながら検査結果を記録することができる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	徒手筋力検査法(1):目的、測定上の留意点 (書籍①p75-80)、肩関節(書籍②122-125)	予習:授業に該当する箇所を一読のこと。(15分) 復習:授業内容の振り返り。(30分)	
2	徒手筋力検査法(2):肩関節(書籍②126-141)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
3	徒手筋力検査法(3)肩関節、肘関節、前腕 (書籍②p143-172)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
4	徒手筋力検査法(4):手関節、手指 (書籍②p173-202)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
5	徒手筋力検査法(5):母指、肩甲帯 (書籍②p203-221、94-104)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
6	徒手筋力検査法(6):肩甲帯(書籍②p105-119)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
7	徒手筋力検査法(7):頸部・体幹(書籍②p24-56)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
8	徒手筋力検査法(8):体幹・股関節 (書籍②p57-67、228-235)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	
9	徒手筋力検査法(9):股関節、膝関節 (書籍②p226-271)	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)	

10	徒手筋力検査法(10):足関節、足趾(書籍②p272-305)、実技テストについて	予習:授業に該当する箇所を一読し、予習プリントを実施のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)
11	徒手筋力検査法(11):(1)～(10)までのまとめ	予習:事前配布の課題を実施しておくこと。(30分) 復習:授業内容を確認すること。(15分)
12	徒手筋力検査法(12):脳神経支配筋(書籍②p307-360)	予習:授業に該当する箇所を一読のこと。(15分) 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)
13	測定機器を用いた筋力測定(書籍①p74、75、83-85)、運動機能評価(立ち上がりテスト等)	予習:授業に該当する箇所を一読のこと。(15分) テープメジャー、ストップウォッチを持参のこと。 復習:授業で行った演習を、再度、実施のこと。(30分)
14	姿勢分析(1):姿勢分析の目的と実際(参考書 p313-316)	予習:SOAPについて復習しておくこと。(15分) 復習:授業の振り返り。(30分)
15	姿勢分析(2):姿勢分析の実際	予習:14回目の授業プリントを一読のこと。(15分) 復習:授業の振り返り。(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習:2～10回目の授業内容については、予習プリントを配布します。該当ページを一読し、プリントを実施したうえで授業に参加のこと。事後学習:実技練習は繰り返し行い、解剖学的知識と関連付けて学習してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	実技試験	課題、授業ファイルの内容、授業への参加姿勢	
80%	15%	5%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
①理学療法学テキストⅡ 理学療法評価学 第3版	千住秀明監修	九州神陵文庫
②新・徒手筋力検査法 原著第10版	Dale Avers、Marybeth Brown 著津山直一、中村耕三 訳	協同医書出版社

参考書又は参考資料等

PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 潮見泰蔵、下田信明・編、羊土社

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

授業は、教科書内容の説明および教員による実演を行った後に、学生同士で実技を行います。授業には身だしなみを整え、実習着着用、検査器具携帯の上、出席してください。臨床での検査測定は、適切な態度と丁寧なオリエンテーションが求められます。繰り返し練習し、その習得に努めてください。授業で使用するプリント類は、配布順にファイルに整理しておくこと。適宜、提出してもらいます。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法評価学統合演習 I		
担当者名	廣滋 恵一、井元 淳、神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210116001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	急性期病院での職務経験を有する教員が教授する。中枢神経疾患に対する評価では脳血管障害を中心に、また、運動器疾患では整形外科的検査手技について演習を通して指導する。呼吸器疾患に対する理学療法評価では、それぞれの疾患における評価の概念、評価項目の内容、問題点やゴール設定の立案など演習を通して解説する。循環器疾患に対する理学療法評価では、バイタルサインに対する評価や運動負荷試験を中心に演習を行い、障害像への理解を深める。授業形態は演習である。実技やグループワークなどの演習を実施し、疾患別での理学療法評価について理解を深める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経疾患、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患に対する理学療法評価の意義を理解し、説明できるようになる。 2. 各評価手技を通して臨床における対象者の理解につなげることができる。 3. 各疾患における評価手技を実践することができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価① 問診、バイタルサイン	事前:虚血性心疾患、心不全の病態を確認する(45分)	
2	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価② 問診、バイタルサイン演習	事前:心音、血圧、脈拍測定の手順を確認する(15分) 事後:各手技を再度復習する(30分)	
3	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価③ 心電図(不整脈)	事前:心電図の波形の成り立ち、不整脈の種類を確認する(45分)	
4	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価④ 運動負荷試験	事後:運動負荷試験の目的、12誘導心電図の電極位置を確認する(45分)	
5	(神崎・井元)循環・呼吸器疾患に対する理学療法評価⑤ ⑤運動負荷試験演習	事後:運動負荷試験レポート作成(45分)	
6	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際① (胸郭の体表解剖)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基に体表解剖を確認する(15分) 事後:胸郭の体表解剖の実技を復習する(30分)	
7	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際② (視診・触診)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基にフィジカルアセスメントを確認する(15分) 事後:フィジカルアセスメントの手順を復習する(30分)	
8	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際③ (聴診・打診)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基にフィジカルアセスメントを確認する(15分) 事後:フィジカルアセスメントの手順を復習する(30分)	
9	(井元)呼吸分野における疾患別理学療法評価 (誤嚥性肺炎)	事前:誤嚥性肺炎に関する理学療法評価をまとめる(30分) 事後:誤嚥性肺炎に関する理学療法評価をグループで復習する(15分)	

10	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価① 意識障害、筋緊張検査	事前:急性期の理学療法評価について予習する(15分) 事後:意識障害、筋緊張検査について復習する(30分)
11	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価② 片麻痺機能検査(Br.stage)(12grade)	事前:CVAの理学療法評価について予習する(15分) 事後:CVAの運動機能検査について復習する(30分)
12	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価④ 平衡機能・移動能力検査	事前:CVAの姿勢バランス・移動能力評価を予習する(15分) 事後:CVAの姿勢バランス・移動能力評価を復習する(30分)
13	(廣滋)運動器疾患に対する理学療法評価① 整形外科的検査(上肢・体幹)	事前:整形外科的検査(上肢・体幹)について予習する(15分) 事後:整形外科的検査(上肢・体幹)実技を復習する(30分)
14	(廣滋)運動器疾患に対する理学療法評価② 整形外科的検査(下肢)	事前:整形外科的検査(下肢)について予習する(15分) 事後:整形外科的検査(下肢)実技を復習する(30分)
15	(廣滋)疼痛性疾患に対する理学療法評価	事前:疼痛性疾患について予習する(15分) 事後:疼痛性疾患の評価について復習する(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習:整形外科学や神経内科学、内科学の講義内容を参考に、中枢疾患や運動器疾患、内科系疾患の病態について学修してください。第9回は事前に各自で紙ベースでまとめ、講義開始時に提出を求めます。課題内容は授業内でお伝えします。

事後学習:評価の意義や方法を復習した上で、可能な項目は実技練習を行ってください。第9回はグループワークの内容を成果物としてまとめ、講義後に提出を求めます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

実技試験	循環器疾患:レポート課題	呼吸器疾患:レポート課題	中枢神経・運動器疾患:小テスト
70%	10%	10%	10%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
(第1~5回)内部障害理学療法学テキスト	細田多穂監修	南江堂
(第6~9回)動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版	高橋仁美、他	中山書店

参考書又は参考資料等

講義の進度に合わせて、適宜紹介します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

第1~8、10~15回は演習を中心に行います。第9回はグループディスカッションを中心に行います。第1~5回ではレポート課題は運動負荷試験演習の結果を基にした運動処方を作成します。レポートへのコメントと返却をもってフィードバックとします。第6~9回では内部障害系理学療法Ⅰの配布資料も持参してください。演習の際は実習着、名札を着用し、頭髪や爪など演習が可能な状態に整えた上で授業に臨んでください。各自が作成したレポートとともに成果物の提出を課します。成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。またレポート点は希望する学生には通知します。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法評価学統合演習Ⅱ		
担当者名	吉田 遊子、廣滋 恵一、神崎 良子、 鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210117001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必須
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床では「疾患や障害」を有する「人」について多面的評価を行わなければ真に必要な理学療法は行えない。つまり、疾患の特性や障害の重症度に加え、社会的背景や個人的課題を抱えた人を理解しようとする視点が必要である。授業では、理学療法に必要な評価項目を挙げ、患者個々の状況に合わせた理学療法プログラムを考える。具体的には、モデル症例の評価結果を統合・解釈し、理学療法プログラム立案・修正へと繋がる関連を理解するための演習を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の病態や障害像が理解できる。 2. 評価結果や情報から症例の全体像や問題点を考察できる。 3. 目標設定や理学療法プログラムの立案を考察できる。 4. 適切に記録ができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(ポートフォリオの形式、ルーブリック提示含む)、評価の意義と目的、評価の流れ(廣滋・他担当教員)	事後:授業の復習(45分)	
2	記録、SOAPについて(神崎・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)	
3	模擬症例の提示、スクリーニング、評価項目の列挙、レジメフォームの提示(鈴木・他担当教員)	事後:課題①(模擬症例に関する病態の理解)の実施・提出(45分)	
4	理学療法初期評価(環境因子・個人因子・心身機能・身体構造)の確認(吉田・他担当教員)	事前:BRS、筋緊張検査、ROM-Tの検査の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題②(アセスメント)の実施・提出(25分)	
5	理学療法初期評価(心身機能・身体構造)の演習(吉田・他担当教員)	事前:BRS、筋緊張検査、ROM-Tの検査方法を確認する(20分) 事後:検査方法の練習(25分)	
6	理学療法初期評価(心身機能・身体構造・活動)の確認(吉田・他担当教員)	事前:反射検査、感覚検査、バランス検査の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題③(アセスメント)の実施・提出(25分)	
7	理学療法初期評価(心身機能・身体構造・活動)の演習(吉田・他担当教員)	事前:反射検査、感覚検査、バランス検査の検査方法を確認する(20分) 事後:検査方法の練習(25分)	
8	理学療法初期評価(活動)の確認(吉田・他担当教員)	事前:ADL評価、歩行分析の意義と方法を確認する(20分) 事後:課題④(アセスメント)の実施・提出(25分)	
9	理学療法初期評価(活動)の実技演習(吉田・他担当教員)	事前:ADL評価、歩行分析の方法を確認する(20分) 事後:課題の実施(25分)	
10	結果のまとめ、統合と解釈、問題点抽出(廣滋・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)	

11	レジュメ作成、目標設定、理学療法プログラム立案 (神崎・他担当教員)	事後:課題の実施(45分)
12	症例報告①(前半グループ)(担当教員)	事前:症例報告の準備(45分)
13	症例報告②(後半グループ)(担当教員)	事後:他者の報告から得られた情報を整理する(45分)
14	理学療法の効果判定(鈴木・他担当教員)	事前:症例報告を振り返り情報を整理する(20分) 事後:自身で立案したプログラムの効果判定を行う(25分)
15	理学療法の考察(鈴木・他担当教員)	事前:考察のための文献検索を行う(25分) 事後:講義内容を振り返り、情報を整理する(20分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習は配布資料の確認をして、授業のテーマを予め理解しておいてください。
事後学習は、ポートフォリオを作成して授業の振り返りと情報の整理を行ってください。
ポートフォリオは3・4・6・8・9・15回目の授業後に提出してもらいます。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

課題①～④の内容ポートフォリオ	レジュメ	プレゼンテーション	演習態度
20%(5%×4)	30%	20%	10%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版	(監修)千住秀明	神陵文庫
リハビリテーション基礎評価学 第2版	(編集)潮見泰藏	羊土社

参考書又は参考資料等

生活機能障害別・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 (文光堂)

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

成績は授業で示すルーブリックを用いて評価します。欠席者への対応

- ① 実技演習の場合:事前連絡があり、欠課届を提出した学生のうち2日以内に申し出があれば別途演習の時間を設けます。
- ② ①以外の場合:その回の課題を実施し、資料をポートフォリオに綴じること。報告会については要相談。
レジュメはコメントを添えてフィードバックします。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	動作分析演習 I		
担当者名	中藤 佳絵、橋元 隆	実務家教員	○
授業コード	1210118001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	障害をもって生活を送ることになった場合、実施の困難を感じる生活活動に対して、機能や能力の向上、環境整備などを駆使して身体状態と生活に即した理学療法を提供する。このためには、現在の動作を把握し、困難となる原因を追究することが必要となる。この科目では、疾患や障害に即した活動障害について、どの様に分析し治療に結びつけるのかを実務家教員から演習を通して学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. どのような動作にも共通する動きがあることを理解できる 2. 動作を分析するための視点がわかる 3. 動作分析を実施・記録するための方法がわかる 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	動作分析とは(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
2	肢位・姿勢の捉え方(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
3	臥位:背臥位・側臥位・腹臥位の分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
4	寝返りの分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
5	臥位から座位の分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
6	座位から立位の分析:様々な方法(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
7	座位から立位の分析:動作の経過と注意点(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
8	床上坐位から立位の分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
9	端坐位から立位の分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
10	移乗動作の基礎(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
11	移乗動作の分析(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
12	立位型移乗動作の分析:片麻痺を中心に(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
13	座位型移乗動作の分析:対麻痺・四肢麻痺例(橋元)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	
14	動作分析演習:観察と分析(中藤)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと(45分)	

15	動作分析演習:分析からの推論(中藤)	事後:授業内容を確認してノートを作成し、覚えておくこと (45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
1年後期開講の日常生活活動演習の授業資料や参考文献を使って準備学修をしてください。 動作分析は特別なことではありません。日常的に動作を分析し用語を使うことを行ってみましょう。			
成績評価の方法[評価項目と割合]※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	レポート・ノート提出		
80%	20%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適宜配布します			
参考書又は参考資料等			
日常生活活動 第2版 千住秀明 監修 神陵文庫新版			
日常生活活動(ADL)ー評価と支援の実際 伊藤利之・江藤文夫 編 医歯薬出版			
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]			
ノートは、定期試験後に提出する予定です。授業開始時に説明することをよく聞いて、各回の内容や自己学習などきちんと整理してまとめておきましょう。定期試験のフィードバックは、試験の結果が出てから当該学期が終わるまでの期間で、希望者には可否に関わらず個別に行います。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	動作分析演習Ⅱ		
担当者名	鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210119001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	基本的なバイオメカニクスを理解したうえで、正常歩行と異常歩行を対比しながら歩行に関する基本的事項と歩行分析に必要な内容を学修する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	理学療法で必要なバイオメカニクスの観点を修得する。人間の姿勢や歩行の特徴を理解し、臨床の中で疾病などによって障害された歩行能力に対して、効率よく維持・改善する理学療法アプローチ方法を考案するために必要な基礎知識を修得する。これまでに学んだ内容を基にして、身体全体の総合的な動きである歩行に関する運動学的・運動力学的な捉え方の基本をマスターする。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	バイオメカニクス	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
2	正常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
3	歩行における下肢と体幹の意義	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
4	歩行における下肢機能-足と膝-	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
5	歩行における下肢機能-股関節・骨盤と上肢-	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
6	異常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
7	足に関連する異常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
8	膝に関する異常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	
9	股関節に関する異常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく(25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)	

10	体幹と骨盤における異常歩行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく (25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)
11	異常歩行と運動療法	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく (25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)
12	立ち上がり	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく (25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)
13	階段昇降と走行	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく (25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)
14	主な歩行テスト	事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておく (25分) 事後:授業を振り返り、学修内容を整理する(20分)
15	講義のまとめ	事後:これまでの学修内容をまとめる(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
事前:教科書の該当範囲を通読し、穴埋めを行なっておくこと。 事後:授業の振り返りを行い、課題や小テストに取り組むこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	小テスト・課題	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
基礎運動学	中村隆一・他	医歯薬出版株式会社
歩行分析ワークブック 改訂第2版	広瀬浩昭・他	MEDICAL VIEW
参考書又は参考資料等		
観察による歩行分析(医学書院)		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
講義についての疑問点はそのままにせず遠慮せずに質問してください。歩行分析は臨床でも大事ですので、図書室やインターネットで関連する書物に自ら触れる機会をもちましょう。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	運動療法学概論		
担当者名	高橋 精一郎	実務家教員	
授業コード	1210009001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	本科目は理学療法分野で基盤をなす「運動療法」の基礎を学ぶものである。ヒトの体の構造や動きのメカニズムを修得し、障害を受けた場合に構造や動きにどのような変化が生じるか？どのような問題が起こるか？をディスカッションを通して考え、治療目的で行う運動療法と障害との関連を教科書やプリントを用いて学修する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1. ヒトの体の構造や運動を形成する要素について理解し、説明することができる。 2. 日常生活における動作や運動の形態を理解し、説明することができる。 3. 運動の障害の問題点と運動療法との関連が理解できる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	運動療法の歴史と定義	事前:教科書を開き、運動の要素を確認する(90分) 事後:理学療法における運動療法の歴史と内容を理解する(90分)	
2	運動療法の対象、目的、方法	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:運動療法を必要とする対象者、目的、方法を理解する(120分)	
3	関節の機能(1):形態と動き	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:運動の要素となる上肢の関節の名称、形態分類と働きを理解する(120分)	
4	関節の機能(2):形態と動き	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:下肢の関節の名称、形態分類と働きを理解する(120分)	
5	骨格系の障害の種類と問題点	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:障害の実態と問題点を理解する(120分)	
6	骨格系の障害と運動療法	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:障害に対する運動療法を理解する(120分)	
7	筋の機能(1):骨格筋の形態と働き	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:運動の要素である筋の名称、形態と働きを理解する(120分)	
8	筋の機能(2):骨格筋の収縮と運動形態	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:筋活動と運動形態の関係を働きを理解する(120分)	
9	筋の障害形態と運動障害の関係	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:筋の障害と運動障害との関係を理解する(120分)	
10	筋活動と運動療法	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:筋活動の改善と運動療法の関連を理解する(120分)	
11	神経の機能(1):神経の構造と働き	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:運動をコントロールする神経系の形態や働きを理解する(120分)	

12	神経の機能(2):筋への支配と運動のコントロール	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:筋と神経の関係について理解する(120分)
13	神経の障害と各種運動障害の関係性	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:神経障害と運動障害との関連について理解する(120分)
14	神経機能障害と運動療法	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:神経障害と運動療法との関連について理解する(120分)
15	呼吸・循環・代謝と運動療法	事前:前回の授業内容の確認と理解(60分) 事後:運動と呼吸・循環・代謝の関係を理解する(120分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>毎回身体の構造、運動機能を理解するための小テストを行うので、カラスケッチ解剖学を用いて準備すること。 また、授業内容をノートにとり、自分が理解できる形式で補足やまとめを行い、復習を兼ねた事後学修を進めること。</p>		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
期末テスト	小テスト	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
運動療法学 第2版	市橋則明編集	文光堂
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・目で見るとからだのメカニズム 堺 章著 医学書院 ・カラスケッチ解剖学 第3版 W.Kapit、L.M.Elson 著 廣川書店 		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、次回の授業内容を伝えるので教科書の関係箇所を予習のこと。また、授業内容は復習し、疑問点については自習あるいは質問をすることで解消に努めること。質問については研究室を訪ねること。 2. 体の構造や動きについては解剖学や運動学の授業とも関連づけて理解すること。 3. 小テストの結果は次週に返却するので、間違っている箇所については必ず再学修すること。 		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	運動療法学演習		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210080001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	身体機能の障害を軽減・改善する目的で行われる基本的な運動療法について、その具体的な内容を学ぶ。学修内容について、運動療法の実際では、障害はどう分類されるか？どのように評価を進めていくか？運動療法の理論にはどのようなものがあるか？運動療法をどう進めていくか？の4点を取り上げる。筋力維持・増強運動、持久力改善運動、協調性改善運動など、運動療法の中でも基本的な手法を中心に演習を行う。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	運動療法学総論の内容を踏まえ、対象者の状態に応じた基本的な運動療法手技の理解と適切な選択が可能となる。さらに、基本的な運動療法の内容を理解して、臨床における理学療法アプローチ方法を考案するために必要な基礎的知識を習得する。単元ごとに実施する実技を通して、実際方法の具体的なポイントについて身体を使ってマスターする。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	関節可動域制限に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p186-201の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
2	関節可動域制限に対する運動療法② 関節可動域制限に対する運動療法演習	事前:指定教科書p202-220の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
3	筋力低下に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p221-227の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
4	筋力低下に対する運動療法② 筋力低下に対する運動療法演習	事前:指定教科書p228-252の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
5	持久力低下に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p253-264の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
6	持久力低下に対する運動療法② 持久力低下に対する運動療法演習	事前:指定教科書p265-268の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
7	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p269-277の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
8	中枢神経性運動麻痺に対する運動療法② 痙縮と固縮に対する運動療法演習	事前:指定教科書p278-283の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
9	感覚障害に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p292-302の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
10	感覚障害に対する運動療法② 感覚障害に対する運動療法演習	事前:指定教科書p303-307の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
11	協調性運動障害に対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p325-331の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	
12	協調性運動障害に対する運動療法② 協調性運動障害に対する運動療法演習	事前:指定教科書p332-336の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
13	痛みに対する運動療法① 分類・評価のポイント・運動療法理論	事前:指定教科書p386-394の熟読予習(30分) 事後:小テストの復習(15分)	

14	痛みに対する運動療法② 痛みに対する運動療法演習	事前:指定教科書p395－398 の熟読予習(30分) 事後:実技の復習(15分)	
15	国家試験問題演習	事前:過去1週間に配信される宅ドリル便演習(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>準備学習は、指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を事前に確認しておく。 事後学習は、サブノートをもう一度見直して内容を確認・理解して振り返りシートに記入して暗記する。 実技内容については、繰り返し練習を重ねて完全にマスターする努力をする。</p>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	小テスト	国家試験演習問題	実技演習への取り組み
50%	30%	10%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
運動療法学 第2版	編集:市橋則明	株式会社文光堂, 2018	
目でみるからだのメカニズム 第2版	堺 章	医学書院	
参考書又は参考資料等			
カラスケッチ 解剖学 第4版(廣川書店)			
理学療法ハンドブック 第4版 第1巻 第2巻(協同医書出版社)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
<p>演習や実技に対して前向きに臨み、理解できない部分はそのままにせず積極的に質問してください。 また、図書館等を積極的に活用して、運動療法やトレーニング・コーチングに関する文献や本に触れる習慣をつけてください。 実技内容については講義以外の時間でも指導します。</p>			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	物理療法 I		
担当者名	中藤 佳絵	実務家教員	○
授業コード	1210120001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	物理療法は、運動療法と並んで理学療法の両輪をなす治療手技であり、「電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを計ること」と定義される。この授業は、国立・民間の総合病院での実務経験を有する教員が担当し、それぞれの物理的エネルギーが生体に与える影響を学ぶとともに、臨床で用いる頻度が高い極超短波療法や超音波療法などの温熱療法、牽引療法について演習を通して体験する。その仕組みや化学的根拠を知識として得るとともに、リスクを管理し安全な物理療法の施行を実現する方法を学ぶ。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1.各種物理療法が生体に及ぼす生理学的反応について演習を通して理解する。 2.各種物理療法の適応と禁忌を理解する。 3.各物理療法の手技を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	物理療法とは(位置づけ・歴史・種類)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
2	適応と禁忌・リスク管理	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
3	物理療法の対象となる病態の理解	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
4	温熱療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
5	温熱療法各論:ホットパック・パラフィン浴	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
6	電磁波と音波	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
7	温熱療法各論:赤外線・極超短波	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
8	温熱療法各論:超音波療法	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
9	寒冷療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
10	寒冷療法各論	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
11	水治療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
12	水治療法各論:過流浴・気泡浴	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
13	水治療法各論:プール浴・ハバードタンク等	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
14	光線療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
15	光線療法各論:紫外線療法・レーザー光線	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
初回の説明をよく聞いて、ノートを必ず準備してください。 学期末に提出をしてもらう予定です。板書を中心に授業を展開します。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業態度・ノート提出		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	

PT・OT ビジュアルテキストエビデンスから身につける物理療法(第2版)	庄本康治	羊土社
参考書又は参考資料等		
物理療法学テキストIX 物理療法 千住秀明 監修(神陵文庫)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
積極的に授業・演習に参加し、疑問点はすぐに質問して解決するようにして下さい。定期試験のフィードバックは、試験の結果が出てから当該学期が終わるまでの期間で、希望者には可否に関わらず個別に行います。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	物理療法Ⅱ		
担当者名	中藤 佳絵	実務家教員	○
授業コード	1210121001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	物理療法は、運動療法と並んで理学療法の両輪をなす治療手技であり、「電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを計ること」と定義される。この授業では、それぞれの物理的エネルギーが生体を与える影響を学ぶとともに、物理療法Ⅰに引き続き、臨床で用いる頻度が高い電気刺激療法や牽引療法などを物理療法演習を通して体験する。その仕組みや化学的根拠を知識として得るとともに、リスクを管理し安全な物理療法の施行を実現する方法を学ぶ理解を深める。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.各種物理療法が生体に及ぼす生理学的反応について演習を通して理解する。 2.各種物理療法の適応と禁忌を理解する。 3.各物理療法の手技を修得する。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	電磁波と電気	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
2	電気刺激の生体への影響	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
3	電気療法の分類	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
4	電気療法各論:低周波と高周波	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
5	:FESとTES	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
6	:NMESとTENS・IFCS	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
7	フィードバック療法とは	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
8	牽引療法とは(種類・生体を与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
9	牽引療法各論	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
10	まとめ・演習準備	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
11	物理療法の実際①	事後:演習内容をノートにまとめる(45分)	
12	物理療法の実際②	事後:演習内容をノートにまとめる(45分)	
13	物理療法の実際③	事後:演習内容をノートにまとめる(45分)	
14	物理療法の実際④	事後:演習内容をノートにまとめる(45分)	
15	物理療法の実際⑤	事後:演習内容をノートにまとめる(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
初回の説明をよく聞いて、ノートを必ず準備してください。学期末に提出をしてもらう予定です。板書を中心に授業を展開します。各種物理療法の演習には火傷などのリスクが伴うので、演習前日は特に予習をしてください。演習が安全かつスムーズに行えるように積極的に参加してください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業態度・ノート提出		
70%	30%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法(第2版)	庄本康治	羊土社
参考書又は参考資料等		
物理療法学テキストIX 物理療法 千住秀明 監修(神陵文庫)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
積極的に授業・演習に参加し、疑問点はすぐに質問して解決するようにして下さい。グループ演習になるので、互いに協力して安全に行って下さい。定期試験のフィードバックは、試験の結果が出てから当該学期が終わるまでの期間で、希望者には可否に関わらず個別に行います。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	義肢装具学		
担当者名	大峯 三郎	実務家教員	
授業コード	1210082001	授業形態	講義
学年	2年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>義肢、装具に関する知識と技術を学ぶことは、機能障害や能力障害に対する理学療法介入時に有益な示唆となる。さらにこれらの知見を積極的に活用し、対象者の満足度を高めることが臨床では強く求められる。そのためには義肢装具の基本となる種類、構造やその機能について十分に理解することが求められる。本科目では代表的な義肢・装具の名称、構造や機能の確認など、基礎を中心とした学習を行い、義肢装具に関心や興味が持てる講義を目指す。本科目は3年前期に履修予定の義肢装具学演習の理解を深めるための科目として位置づけている。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>①義肢・装具の目的、機能や構造などの基礎的知識を理解することができる。</p> <p>②義肢・装具の適応、位置づけや役割を理解することができる。</p> <p>③義肢・装具の適合評価の際に必要な知識を理解することができる。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	障害と義肢・装具 (バイオメカニクス、義肢装具クリニック、支給体系)	<p>事前:配布された資料の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
2	装具の目的・分類・機能(各種継手)	<p>事前:配布された資料の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
3	短下肢装具の基本的構造と種類	<p>事前:配布された資料(装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
4	短下肢装具の適応と機能	<p>事前:配布された資料(装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
5	長下肢装具の基本的構造と種類	<p>事前:配布された資料(装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
6	長下肢装具の適応と機能	<p>事前:配布された資料(装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
7	体幹装具の構造と機能	<p>事前:配布された資料(体幹装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
8	靴型装具の目的と適応	<p>事前:配布された資料(靴型装具)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
9	義肢の分類と機能(上肢義手・疫学を含む)	<p>事前:配布された資料(義肢)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
10	大腿義足の基本的構造と機能①ソケットの種類	<p>事前:配布された資料(大腿義足)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	
11	大腿義足の基本的構造と機能②ソケットの形状	<p>事前:配布された資料(大腿義足)の内容を確認する(60分)</p> <p>事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)</p>	

12	下腿義足の特徴	事前:配布された資料(下腿義足)の内容を確認する(60分) 事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)
13	下腿義足の構造と機能(PTB)	事前:配布された資料(下腿義足)の内容を確認する(60分) 事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)
14	下腿義足の構造と機能(PTS KBM TSB)	事前:配布された資料(下腿義足)の内容を確認する(60分) 事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)
15	その他の義肢(股義足 サイム義足 足部義足)	事前:配布された資料(その他の義足)の内容を確認する(60分) 事後:復習確認学習(小テスト)の内容を理解する(120分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
授業の各章で復習確認学習(小テスト)を実施する。試験範囲に含める。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験		
100%		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
理学療法学テキストVI義肢装具学第2版	千住秀明	神陵文庫
配布資料を予習資料として事前配布の予定 復習確認学習(小テスト)を復讐資料として配布する		
参考書又は参考資料等		
義肢装具学第4版(医学書院)義肢装具のチェックポイント(医学書院) 本学図書室に蔵書あり		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
各章終了時には確認小テストを実施します。定期試験はこの小テストの中から問題を作成します。したがって小テストの振り返りをしっかりと行ってください。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	質問等はメールで可	

授業科目名	高次脳機能理学療法		
担当者名	長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210122001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>大脳機能との関連から高次脳機能障害の基本的知識について講義を中心に理解し、また、実務家教員が授業で提示する臨床場面の映像からグループ演習で更に理解を深める。高次脳機能障害の神経心理学的評価に加え、理学療法における観察評価を学び、演習を通して実施方法を確認する。授業形態は演習である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1. 高次脳機能の背景となる脳の機能を理解できる。 2. 高次脳機能障害の定義、分類、症状を説明することができる。 3. 高次脳機能障害に対する理学療法介入について説明することができる。</p>		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション高次脳機能障害総論(p1-10)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
2	脳の解剖生理(画像診断、神経ネットワーク)(p11-20)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
3	意識とコミュニケーション(p21-30)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
4	注意の機能のとらえ方(p31-40)注意障害に対する臨床的評価と介入方法(p41-52)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
5	空間性注意のとらえ方(p53-62)半側空間無視に対する臨床的評価と介入方法(p63-74)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
6	グループワーク1:半側空間無視に対する理学療法①	<p>事前:半側空間無視について調べ、理学療法ができることは何かを思考する(30分) 事後:授業・演習内容を復習し整理する(30分)</p>	
7	グループワーク1:半側空間無視に対する理学療法②	<p>事前:半側空間無視について調べ、理学療法ができることは何かを思考する(30分) 事後:授業・演習内容を復習し整理する(30分)</p>	
8	言語機能のとらえ方(p75-86)記憶のとらえ方(記憶障害)(p87-96)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
9	行為のとらえ方(失行症、遂行機能障害)(p97-116)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
10	認知機能のとらえ方(失認症、認知症)(p117-138)	<p>事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)</p>	
11	グループワーク2:認知症ならびに軽度認知障害に対する理学療法①	<p>事前:認知症ならびに軽度認知障害について調べ、理学療法ができることは何かを思考する(30分) 事後:授業・演習内容を復習し整理する(30分)</p>	
12	グループワーク2:認知症ならびに軽度認知障害に対する理学療法②	<p>事前:認知症ならびに軽度認知障害について調べ、理学療法ができることは何かを思考する(30分) 事後:授業・演習内容を復習し整理する(30分)</p>	

13	社会的行動障害 (p139-150)	事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)
14	ワーキングメモリ(p151-160)	事前:教科書の該当ページを通読し理解する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)
15	まとめ:高次脳機能障害に対して理学療法は何ができるか	事前:高次脳機能障害に対する理学療法について復習する(30分) 事後:授業内容を復習し知識を整理する(30分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
基本は教科書を通読し、事前に理解を深めておく。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	課題	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
リハビリテーションテキスト 高次脳機能障害	石川 朗・杉本 諭	中山書店
参考書又は参考資料等		
病気がみえる Vol7 脳・神経 第2版 メディックメディア 高次脳機能障害に対する理学療法 阿部浩明編集 文光堂 他は必要に応じて、適宜配布する。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
課題レポートを提示する。期限厳守で提出すること。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	中枢神経疾患理学療法 I		
担当者名	鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210123001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	脳血管障害は、現在国内において死因の第3位、寝たきりの原因の第1位の疾患であり、理学療法を実施することの非常に多い疾患である。この科目では、代表的な脳血管障害である脳梗塞や脳出血などの病態とその評価や治療を中心に学んでいく。また、運動麻痺などの症状ごとに項目を分け、その評価や治療を学び、脳血管障害患者の障害像を理解していく。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳の機能局在について理解できる。 2. 脳血管障害の病態と障害特性を捉え、適切な評価が選択できるようになる。 3. 病期ごとの脳血管障害に対する基本的な理学療法プログラムを理解する。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	中枢神経系の構造と機能(脳神経を含む)	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
2	脳画像のみかた・脳循環・神経伝導路	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
3	脳卒中の病態・治療とリスク管理	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
4	脳卒中の回復メカニズム	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
5	運動学習理論と課題指向型トレーニング	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
6	脳卒中の障害構造と評価	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
7	脳卒中の障害と理学療法(1)運動麻痺	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
8	脳卒中の障害と理学療法(2) 感覚障害・脳卒中後疼痛	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
9	脳卒中の障害と理学療法(3)異常筋緊張	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
10	脳卒中の障害と理学療法(4)姿勢定位障害	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
11	脳卒中の障害と理学療法(5)起居移乗動作障害	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
12	脳卒中の障害と理学療法(6)歩行障害	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
13	脳卒中の障害と理学療法(7) 二次性機能障害	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
14	脳卒中の予後予測	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	

15	頭部外傷・脳腫瘍	事前:講義内容をあらかじめ確認し、関連内容の復習を行う(20分) 事後:講義内容を振り返り、整理する(25分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前準備として、解剖学や神経内科学で学んだことを復習しておくこと。 授業後は講義内容の振り返りを行い、課題に取り組むこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	課題		
60%	40%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版	田崎義昭、斎藤佳雄 著	南山堂	
参考書又は参考資料等			
配布資料(ワークシート)を中心に講義をすすめます。その他、病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版(MEDIC MEDIA)、リハビリテーション基礎評価学 第2版(羊土社)を必要に応じて使用します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
実技を行う際には動きやすい服装で授業に臨んでください。理解できないことは後回しにせずその都度質問してください。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	骨・関節疾患理学療法 I		
担当者名	鈴木 雄太	実務家教員	○
授業コード	1210124001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	骨・関節疾患に対する基礎的な考え方を学習する。基礎的な考えの中には、機能解剖学的観点からは疾患の特徴や病態を把握、機能解剖学的観点からは必要な検査測定を選択できることを含む。また、疾患を機能解剖学的観点からだけでなく、病期や環境因子も統合した評価や解釈ができることを最終的な目標とする。この最終目標を到達させるために、授業内ではグループディスカッションとディベートを積極的に行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨・関節疾患の病態を機能解剖学的側面から説明できる。 2. 骨・関節疾患の検査測定を病期や環境因子を考慮し選択・説明できる。 3. 骨・関節疾患の基本的な治療法を説明できる。 4. 骨・関節疾患における検査測定方法と結果判定の根拠を説明できる。 5. 骨・関節疾患における基礎的な画像読影を理解できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	骨関節疾患総論	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
2	骨関節疾患総論(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
3	下肢骨折 講義(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
4	下肢骨折 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
5	下肢骨折 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
6	上肢骨折 講義(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
7	上肢骨折 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
8	上肢骨折 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
9	関節リウマチ 講義(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
10	関節リウマチ グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
11	慢性疼痛疾患 講義(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	
12	慢性疼痛疾患 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)	

13	絞扼性末梢神経障害 講義(画像読影を含む)	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)
14	絞扼性末梢神経障害 グループワーク・実技	事前:教科書の該当範囲を通読しておくこと(15分) 事後:授業を振り返り、学習内容を整理する(30分)
15	骨関節疾患のまとめ	事後:これまでの授業を振り返り、学習内容を整理する(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>本講義では、基礎的な解剖学や運動学を予習している前提で講義を進めていく。</p> <p>事前学習としては、シラバスの該当箇所を学習しておくこと。</p> <p>事後学習では授業内容の再確認を行うこと。</p>		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
課題・まとめノート	定期試験	
40%	60%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト骨関節障害理学療法学	対馬栄輝、有馬慶美編	文光堂
標準整形外科学	井樋栄二 [ほか] 編集	医学書院
参考書又は参考資料等		
<p>基礎運動学 中村隆一、齋藤宏、長崎浩著、医歯薬出版</p> <p>必要に合わせて、追加プリントにて補足する。</p>		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<p>骨関節疾患の特徴を理解することで様々な疾患に対応できるように、考えながら授業や事前・事後学習をしてください。</p> <p>グループワークでは協調性をもち、自らの意見を積極的に発言してください。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	オフィスアワー以外でも研究室に在室の際は対応可。	

授業科目名	神経・筋疾患理学療法		
担当者名	長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210125001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	主たる神経筋疾患の病因、症状、評価、リハビリテーションについて説明し、演習を通じて学修する。パーキンソン病や脊髄小脳変性症に関しては特に詳しく実施し、各疾患の評価や治療を学ぶ。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 主たる神経筋疾患の病態と症状について理解できる。 主たる神経筋疾患の評価について選択的に行うことができるようになる。 主たる神経筋疾患のアプローチを臨床推論に基づいて行えるようになる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーションパーキンソン病(1) 病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
2	パーキンソン病(2) 評価とリハビリテーション	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
3	症例検討:パーキンソン病に対する理学療法(1)	事前:パーキンソン病に対する理学療法について調べる(30分) 事後:発表やディスカッションから得られた気づきをまとめる(30分)	
4	症例検討:パーキンソン病に対する理学療法(2)	事前:パーキンソン病に対する理学療法について調べる(30分) 事後:発表やディスカッションから得られた気づきをまとめる(30分)	
5	脊髄小脳変性症(1) 病態と症状	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
6	脊髄小脳変性症(2) 評価とリハビリテーション	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
7	症例検討:脊髄小脳変性症に対する理学療法(1)	事前:脊髄小脳変性症に対する理学療法について調べる(30分) 事後:発表やディスカッションから得られた気づきをまとめる(30分)	
8	症例検討:脊髄小脳変性症に対する理学療法(2)	事前:脊髄小脳変性症に対する理学療法について調べる(30分) 事後:発表やディスカッションから得られた気づきをまとめる(30分)	
9	筋萎縮性側索硬化症	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
10	多発性硬化症	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	

11	ギラン・バレー症候群	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
12	進行性筋ジストロフィー	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
13	多発性筋炎・皮膚筋炎・ポストポリオ症候群	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
14	重症筋無力症・Lambert-Eaton 症候群・ シャルコー・マリー・トゥース病	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
15	神経・筋疾患に対する理学療法のみとめ	事前:受講内容をあらかじめ確認し理解を深める(30分) 事後:受講内容を整理する(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
事前準備として、神経内科学で学んだ神経筋疾患について復習しておくこと(30分程度)。 授業後は疾患ごとにまとめたノートを作成していくこと(30分程度)。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	課題		
80%	20%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
標準理学療法学 神経理学療法学 第3版(医学書院) 病気がみえる vol.7 脳・神経(MEDIC MEDIA) 他は必要に応じて、適宜配布する。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
課題レポートを提示する。提出期限を厳守すること。理解できないことはその都度質問すること。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	内部疾患理学療法 I		
担当者名	井元 淳	実務家教員	○
授業コード	1210126001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、大気汚染や高齢化に伴い、呼吸器疾患患者が増加している。この科目では急性期病院で呼吸リハビリテーションの経験を有する教員が内部障害系理学療法のうち呼吸器分野について解剖学、生理学、運動学など基本的な概念から呼吸器疾患や合併症の特徴、呼吸リハビリテーションの意義とその内容などの基礎知識について講義するとともに評価方法や治療手技など実際に健常者を対象とした演習を通して理解を深める。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胸郭の解剖、生理、運動学について理解を深め、説明できるようになる。 2. 呼吸器疾患の特徴とそれに対する評価法、治療法について理解を深め、説明できるようになる。 3. 呼吸器疾患患者に必要な治療法を実践できるようになる。 4. 具体的な症例について分析し、理学療法プログラムを立案する手法を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	呼吸器系の解剖学、生理学	事前:呼吸器系の解剖・生理について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
2	呼吸器系の運動学、呼吸不全の病態と呼吸器疾患① <閉塞性肺疾患(COPDなど)>	事前:呼吸器系の運動学、内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
3	呼吸器疾患②<閉塞性肺疾患(COPDなど)、拘束性肺疾患(間質性肺炎など)>	事前:内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
4	呼吸器疾患③(肺炎、呼吸器合併症、外科術後、熱傷など)	事前:内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
5	呼吸理学療法のための評価①(情報収集、問診、バイタルサイン、フィジカルアセスメント)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
6	呼吸理学療法のための評価②(臨床検査所見)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
7	呼吸理学療法のための評価③(胸部画像所見)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
8	呼吸理学療法のための評価④(摂食・嚥下障害、栄養管理、筋力・運動耐容能、ADL、QOL)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:第1～7回の講義をレポートにまとめる(30分)	
9	呼吸理学療法①(コンディショニング)	事前:呼吸理学療法の実践について予習する(15分) 事後:第1～7回の講義をレポートにまとめる(30分)	
10	呼吸理学療法②(運動療法、ADL練習)	事前:呼吸理学療法の実践について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
11	呼吸理学療法の実践① (ポジショニング、マッサージ、呼吸補助筋ストレッチ)	事前:コンディショニングについて復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
12	呼吸理学療法の実践② (呼吸介助法、呼吸練習、胸郭可動域練習)	事前:コンディショニングについて復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	

13	酸素療法、人工呼吸管理、ICU 管理と理学療法	事前:酸素療法、人工呼吸療法について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
14	標準予防策と気管吸引、理学療法プログラム立案	事前:気管吸引について予習、呼吸理学療法について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
15	呼吸理学療法の実践③(気管吸引)、まとめ	事前:気管吸引について復習する(15分) 事後:講義全体を復習する(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義・演習は配布資料を中心に行います。 第1～10回、13～15回はその内容に沿った予習、復習を行ってください。 第11、12回は使用テキストの該当箇所について予習、復習を行ってください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
小テスト	レポート	定期試験	
10%	10%	80%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版	高橋仁美、他	中山書店	
参考書又は参考資料等			
新呼吸療法テキスト(3学会合同呼吸療法認定委員会) 血液ガス・酸塩基平衡教室(メディカ出版) 病気がみえる 呼吸器 Vol.4(MEDIC MEDIA) ※適宜、資料を配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
内科学の呼吸分野について復習してください。呼吸理学療法では患者様の表情や顔色の変化など観察力が求められます。積極的に講義・演習に参加し、健常者での反応を理解してください。小テストは呼吸リハビリテーションに関連する用語のテストです。範囲は講義時に伝達します。レポートは前半7回分の内容をまとめることが課題になります。課題レポートはこちらから配布し、手書きでの提出になります。どちらも成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	小児理学療法 I		
担当者名	奥田 憲一	実務家教員	○
授業コード	1210127001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>1. 定型運動発達については動画を用い、各月齢における姿勢や運動の特徴、さらに反射活動や反応について視覚的にとらえやすい講義を行っていく。</p> <p>2. 小児期の疾患と障害については可能な限り動画を用い、各疾患の臨床像をふまえた後、原因、分類、評価と具体的理学療法の展開について示していく。授業形態は演習である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1. 新生児期から歩行獲得までの定型運動発達の過程を理解し、説明することが出来る。</p> <p>2. 新生児期に認められる原始反射について視覚的に理解する。</p> <p>3. 脳性まひ児が示す、タイプに応じた特徴的な運動発達の要因について理解する。</p> <p>4. 二分脊椎、進行性筋ジストロフィー、ダウン症候群、主要小児整形外科疾患、重症心身障害の原因、臨床像、評価と理学療法について理解する。</p>		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	定型発達(1)ー運動発達・演習(グループディスカッション)・原始反射と粗大運動、微細運動の発達	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
2	定型発達(2)ー運動発達・演習(グループディスカッション)・原始反射と粗大運動、微細運動の発達	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
3	定型発達(3)ー精神発達・演習(グループディスカッション)・知能の発達、言語の発達、摂食・嚥下機能の発達	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
4	発達障害概論・広義の発達障害と狭義の発達障害、小児期に生じる疾患と発達への影響	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
5	痙直型脳性麻痺(1)ー総論・病態と運動障害のタイプ、運動や認知の発達、理学療法評価とプログラム	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
6	痙直型脳性麻痺(2)ー乳児期～幼児期・演習(グループディスカッション) ・乳幼児期における理学療法評価と介入	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
7	痙直型脳性麻痺(3)ー学童期～成人期・演習(グループディスカッション) ・学童期以降における理学療法評価と介入	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
8	アトローゼ型脳性麻痺・演習(グループディスカッション)・アトローゼ型における理学療法評価と介入	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	
9	重症心身障害・演習(グループディスカッション) ・定義と臨床像、評価及びICFの「環境因子」	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)	

10	二分脊椎、ペルテス・演習(グループディスカッション) ・病態、合併症、分類及び評価と介入	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)
11	小児整形外科疾患・骨形成不全、先天性多発性関節拘縮症、発育性股関節形成不全の概要	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)
12	デュシェンヌ型筋ジストロフィー—その他の筋ジストロフィー、SMA など・演習(グループディスカッション)	事前:テキストの通読(25分) 事後:グループディスカッションの要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)
13	ダウン症候群・演習(グループディスカッション)・病態、合併症、運動・認知の発達	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)
14	低出生体重児、ハイリスク児・神経学的予後と発達遅延のリスク	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)
15	発達障害・各疾患の病態と合併症、運動・認知の発達	事前:テキストの通読(25分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(20分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習:シラバスを確認し、講義テーマに該当する教科書部分を通読すること(25分)

事後学習:演習を通してディスカッションした点について要約するとともに、講義資料を完成させ復習すること(20分)

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	講義前後の課題プリントの提出と評価		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト小児理学療法学	石川 朗 総編集	中山書店

参考書又は参考資料等

授業計画に沿って随時資料を配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

講義資料を十分に復習し定期試験に備えて欲しい。また、質問は授業時間内、時間外、随時受付ける。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	義肢装具学演習		
担当者名	大峯 三郎	実務家教員	
授業コード	1210088001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	義肢装具学に引き続き、より臨床に即した義肢装具の知識と技術を習得する。切断者の理学療法や装具の装着練習(装具継手の分解)、適合判定(継手調整が歩行に与える影響の確認)、装具療法と運動療法との理解などグループによる演習(模擬義足による義足体験、弾力包帯による断端管理、装具装着時の適合評価の実習)を通して臨床での実践力を身につける。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 切断者の断端管理や下肢切断の理学療法で必要となる知識と技術の習得を目指す。 2. 下肢装具の代表的疾患・障害に対する装具の特徴と理学療法士が果たす役割を理解する 3. 装具や義足の装着や適合判定ができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	切断者の評価(①評価の実践)	事前:事前配布された資料の内容を確認する(20分) 事後:復習確認学習(小テスト)の実施と内容の理解(25分)	
2	切断者の評価(②評価の実践)	事前:配布された資料の内容を確認する(20分) 事後:評価の実践について理解する、復習確認学習(小テスト)の実施と内容の理解(25分)	
3	切断者の断端管理(弾力包帯の巻き方)	事前:断端管理について教科書を確認する(20分) 事後:弾力包帯の巻き方を理解する(25分)	
4	大腿義足膝継手・足継手の特性の理解	事前:膝継手・足継手について教科書を確認する(20分) 事後:膝・足継手の特性を理解、復習確認学習(小テスト)の実施(25分)	
5	大腿義足の適合とアライメント(ベンチ、静的)	事前:アライメントについて教科書を確認する(20分) 事後:アライメントを理解する(25分)	
6	大腿義足の適合とアライメント(動的)	事前:アライメントについて教科書を確認する(20分) 事後:アライメントを理解する(25分)	
7	下腿義足の適合とアライメント(ベンチ、静的、動的)	事前:アライメントについて教科書を確認する(20分) 事後:アライメントを理解する(25分)	
8	模擬下腿および大腿義足による義足歩行の体験演習	事前:義足歩行について教科書を確認する(20分) 事後:義足歩行を理解する(25分)	
9	切断者の理学療法(大腿義足歩行練習)	事前:義足歩行について教科書を確認する(20分) 事後:義足歩行のメカニズムを理解する(25分)	
10	下肢装具の装着と適合評価の実践①短下肢装具	事前:短下肢装具について教科書を確認する(20分) 事後:短下肢装具の装着、適合評価について理解する(25分)	
11	下肢装具の装着と適合評価の実践②短下肢装具	事前:短下肢装具について教科書を確認する(20分) 事後:短下肢装具の装着、適合評価について理解する(25分)	

12	下肢装具の装着と適合評価の実践①長下肢装具	事前:長下肢装具の装着、適合について教科書を確認 (20分) 事後:長下肢装具の装着、適合について理解する(25分)
13	下肢装具の装着と適合評価の実践②長下肢装具)	事前:長下肢装具の装着、適合について教科書で確認 (20分) 事後:長下肢装具の装着、適合について理解する(25分)
14	下肢装具の適応(神経系・運動器)	事前:下肢装具の適応について教科書を確認する(20分) 事後:下肢装具の適応について理解する(25分)
15	装具療法と運動療法との融合	事前:装具療法と運動療法について教科書を確認する (20分) 事後:装具療法と運動療法について理解を深める(25分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
事前に資料を配布するので教科書を参考に授業内容を確認しておく。 事後学習では復習確認学習(小テスト)の実施と授業内容を整理し理解を深める。		
成績評価の方法[評価項目と割合] ※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験		
100%		
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
理学療法学テキストVI 義肢装具学第2版	千住秀明	神陵文庫
義肢装具のチェックポイント	監修 日本リハビリテーション 医学会 日本整形外科学会	医学書院
参考書又は参考資料等		
授業内容に沿った資料を配布、各章毎の復習確認学習(小テスト)資料の配布		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
臨床でも義肢装具は機能障害や能力障害に対する重要な治療手段の一つとして位置付けられている。臨床実習等においても義肢装具に接する機会が多く、しっかりと理解できるように復習を行っておくことが重要である。復習確認学習(小テスト)の実施と定期試験は小テストより出題予定、しっかりと内容を理解すること		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
	質問についてはメールで可	

授業科目名	中枢神経疾患理学療法Ⅱ		
担当者名	橋元 隆、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210128001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	中枢神経疾患理学療法Ⅰを基に脳卒中の評価や理学療法中の注意事項、具体的なアプローチ方法などを演習形式で教授する。脊髄損傷の病態・症候、評価・理学療法について演習を通じて教授する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.各疾患の特性(原因・随伴症状・合併症)を理解し、説明できる 2.基本的評価項目を選択し、実施できる 3.到達目標をしっかりと定め、それに向かって理学療法プログラムが構築でき、PDCA サイクルを実施できる 4.チーム医療のメンバーとして、専門用語(医学用語)を正しく覚え、他職種とコミュニケーションがとれる		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	脊髄損傷の障害評価(損傷・神経症状レベル)(橋元)	事前:損傷評価 ASIA/Zancolli について確認する(30分) 事後:教科ノートを作成する(30分)	
2	脊髄損傷の随伴症状と合併症(橋元)	事前:随伴症状・合併症について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
3	脊髄損傷の膀胱・直腸障害(橋元)	事前:排尿・排便に関する機序について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
4	脊髄損傷の自律神経障害(橋元)	事前:脊髄損傷の自律神経障害について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
5	脊髄損傷に対する理学療法(病期別)(橋元)	事前:各病期における理学療法の目的を調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
6	脊髄損傷レベルと到達 ADL(特に頸髄損傷)(橋元)	事前:残存レベルと到達 ADL について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理:到達可能動作や補装具の確認(30分)	
7	パラスポーツについて(橋元)	事前:パラスポーツについて調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
8	脳卒中の理学療法(1)急性期の理学療法(長野)	事前:急性期での脳卒中理学療法について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
9	脳卒中の理学療法(2)回復期の理学療法(長野)	事前:回復期での脳卒中理学療法について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
10	脳卒中の理学療法(3)生活期の理学療法(長野)	事前:生活期での脳卒中理学療法について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	
11	脳卒中の理学療法(4)予後予測・目標設定(長野)	事前:脳卒中の予後予測や目標設定について調べる(30分) 事後:教科ノートの整理(30分)	

12	脳卒中の理学療法(5) 重度片麻痺例の理学療法 (長野)	事前: 重度片麻痺例に活用される機器や補装具について調べる(30分) 事後: 教科ノートの整理(30分)
13	頭部外傷の障害と理学療法(長野)	事前: 頭部外傷の障害および理学療法について調べる(30分) 事後: 教科ノートの整理(30分)
14	パーキンソン病の理学療法(長野)	事前: パーキンソン病の評価および理学療法について調べる(30分) 事後: 教科ノートの整理(30分)
15	脊髄小脳変性症の理学療法(長野)	事前: 脊髄小脳変性症の評価および理学療法について調べる(30分) 事後: 教科ノートの整理(30分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
その都度テーマを与えます。質疑ができるように事前学習をしっかりとやりましょう。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段: 評価項目、下段: 割合(%)		
定期試験	課題	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
最新理学療法学講座 中枢神経系理学療法 山口智史・山田 実 編集 (医歯薬出版株式会社) 中枢神経障害理学療法学テキスト 植松光俊・江西一成・中江 誠 編集 (南江堂) 他は必要に応じて、適宜配布します。		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
臨床では最近接することの少なくなった脊髄損傷について概説します。特に、評価、随伴症状・合併症等について教授します。国家試験に出題されている関連問題にも取り組んでみましょう。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	骨・関節疾患理学療法Ⅱ		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210129001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	骨・関節疾患は介護が必要になる大きな要因としてあげられ、理学療法士としての重要性が高い。本講義では、代表的な骨・関節疾患に対しての評価と運動療法を中心に学習する。授業の進め方としては、講義に加えてグループディスカッションと発表を実施する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.骨・関節疾患に対する基本的なエビデンスを理解できる。 2.骨・関節疾患に対して理学療法評価を選択し説明できる。 3.骨・関節疾患に対して理学療法評価から得られた情報を統合と解釈できる。 4.骨・関節疾患に対して理学療法評価から得られた情報を統合と解釈し、運動療法が立案できる。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション 骨関節疾患総論	事前:シラバス通読および指定教科書1の第1章を復習しておくこと。(30分) 事後:授業を振り返り、レポートを作成する。(15分)	
2	骨・関節疾患の触診評価	事前:指定教科書2の第27章肩関節、第30章頸椎、第32章胸椎・腰椎、第33章股関節、第34章膝関節の図を確認する。(30分) 事後:授業を振り返り、実技練習を行う。(15分)	
3	脊椎疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書1、p158 予習課題を実施する。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング2を作成する。(30分)	
4	演習(脊椎疾患に対する評価)	事前:指定教科書1、p159～172、178～179を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング3を作成する。(30分)	
5	演習(脊椎疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書1、p172～176を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング4を作成する。(30分)	
6	肩関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書1、p133 予習課題を実施する。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング2を作成する。(30分)	
7	演習(肩関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書1、p134～145、149～150を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング3を作成する。(30分)	
8	演習(肩関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書1、p146～147を通読しておくこと。(15分) 事後:授業を振り返り、指定教科書1、アクティブラーニング4を作成する。(30分)	

9	股関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書 1、p81 予習課題を実施する。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 2 を作成する。(30 分)
10	演習(股関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書 1、p82～93、101～103 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 3 を作成する。(30 分)
11	演習(股関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書 1、p94～99 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 4 を作成する。(30 分)
12	膝関節疾患に対する評価・運動療法	事前:指定教科書 1、p109 予習課題を実施する。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 2 を作成する。(30 分)
13	演習(膝関節疾患に対する評価)	事前:指定教科書 1、p110～119、124～125 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 3 を作成する。(30 分)
14	演習(膝関節疾患に対する運動療法)	事前:指定教科書 1、p119～122 を通読しておくこと。(15 分) 事後:授業を振り返り、指定教科書 1、アクティブラーニング 4 を作成する。(30 分)
15	骨関節疾患に対すると統合と解釈	事前:対象4疾患における総復習を実施する。(30 分) 事後:授業を振り返り、まとめレジュメを作成する。(15 分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

本講義では、2 年生で学習した骨・関節疾患理学療法 I・解剖学・運動学を予習してくることを前提に講義を進めていく。事前学習としては、シラバスの該当箇所に必要な解剖学や運動学や整形外科の知識を確認しておくこと。事後学習では授業内容の再確認し気付きリスト(授業内容をまとめる書式、まとめ方は授業内に詳細に指示する)の作成を行うこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

小テスト	レポート	定期テスト	
20%	20%	60%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト骨関節障害理学療法学	対馬栄輝、有馬慶美編	文光堂
標準整形外科学	井樋栄二 [ほか] 編集	医学書院

参考書又は参考資料等

基礎運動学、中村隆一、齋藤宏、長崎浩著、医歯薬出版
運動療法学障害別アプローチの理論と実際、市橋則明編集、文光堂
必要に合わせて、追加プリントにて補足する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

グループディスカッションでは積極的な発言と協調的な学習に努めること。
発表の内容に関しては、その場でフィードバックを行います。

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他
	オフィスアワー以外でも研究室に在室の際は対応可。

授業科目名	内部疾患理学療法Ⅱ		
担当者名	神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210130001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業では、心臓リハビリテーションの実務経験を有する教員が、本邦における死因の第2位である循環器疾患を中心に、疾患の特性や治療法、理学療法評価、プログラムなどを疾患別に解説する。疾患の理解を深めるため模擬症例を提示し、問題点やプログラム立案をグループワーク形式で行う。また循環器疾患と関連の深い糖尿病の理学療法や慢性腎臓病についても解説する。近年各種ガイドラインで理学療法の効果が明らかとなってきたがん患者への理学療法やフレイルについても説明する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の対象となる代表的な循環器疾患の病態を説明できる。 2. 循環器疾患の基本的な理学療法とリスク管理について説明できる。 3. 代謝性疾患の理学療法の目的と効果、禁忌事項について説明できる。 4. がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	循環器の構造と機能(p11-20) 虚血性心疾患の病態(p21-37)	事前:教科書 p457 症例2の情報について予習(45分)	
2	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)に対する理学療法(p65-92)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
3	心不全の病態と理学療法評価(p25-37)	事前:教科書 p457 症例1の情報について予習(45分)	
4	心不全に対する理学療法(p93-106)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
5	末梢血管疾患、大血管疾患の病態と理学療法(p119-147、149-152)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
6	循環器疾患に対する理学療法	事前:バイタルサインの測定(実技練習)(30分) 事後:ワークシート(15分)	
7	腎臓の構造と機能、慢性腎臓病の病態と理学療法(p165-178)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
8	心臓・腎臓リハビリテーション(p39-63)	事前:授業の予習(45分)	
9	代謝性疾患(糖尿病)の病態と評価(p335-374)	事前:教科書 p467 症例7の情報について予習(45分)	
10	糖尿病に対する理学療法(p375-406、439-454)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
11	がんの病態と評価(p407-437)	事前:教科書 p470 症例8の情報について予習(45分)	
12	がんリハビリテーション(p153-163、407-437)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
13	加齢に伴う諸問題(重複障害、重症化予防)	事後:配布資料の事前学習(45分)	
14	ウィメンズヘルス・メンズヘルスとリハビリテーション	事前:配布資料の事前学習(45分)	

15	妊産婦、排尿障害に対する理学療法	事前:骨盤と骨盤内臓器の解剖学的構造の確認(30分) 事後:ワークシート(15分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
生理学、内科学および理学療法評価学統合演習Ⅰは関連する科目である。 これらの授業資料を積極的に活用し復習することが望ましい。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
筆記試験	ワークシート	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
内部障害理学療法学テキスト	細田多穂監修	南江堂
参考書又は参考資料等		
「病気がみえる Vol.2 循環器疾患、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(メディックメディア社)		
「腎臓リハビリテーション」(医歯薬出版株式会社)		
「がん患者のリハビリテーション」(メジカルビュー社)		
「ウィメンズヘルスリハビリテーション」(メジカルビュー社)		
「15 レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 循環・代謝」(中山書店)		
「循環器病ガイドラインシリーズ」 https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/ (日本循環器学会)		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
ワークシートについては、授業の中で行うワークの他に事後学習課題を提示する。 提出期限を厳守すること。フィードバックは授業時間内に行う。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	小児理学療法Ⅱ		
担当者名	近藤 直樹、岩下 文治、阿部 光司、 松坂 洋一、東 周平	実務家教員	
授業コード	1210131001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	小児リハビリテーションの経験を有する理学療法士が、小児期の運動障害に対する理学療法の臨床応用について講義をおこなう。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 小児療育の概要や脳性麻痺の疾患特性について知識を深める。 2) 脳性麻痺の病型別の理学療法評価・治療について学習する。 3) 小児神経筋疾患の理学療法評価・治療について学習する。 4) 小児整形外科疾患の理学療法評価・治療について学習する。 5) 脳性麻痺の整形外科治療における理学療法評価・治療について学習する。 6) 重症心身障害の理学療法評価・治療について学習する。 7) 発達障害系理学療法における装具および補装具の実際について学習する。 8) 症例検討をつうじて、事象の統合と解釈を学習する。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	発達障害系理学療法Ⅱ 概論 【近藤】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
2	脳性麻痺 総論 / 定義・疫学・原因・分類・症状・二次障害等 【近藤】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
3	脳性麻痺の理学療法評価・治療(痙直型)① / 評価 【岩下】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
4	脳性麻痺の理学療法評価・治療(痙直型)② / 治療 【岩下】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
5	脳性麻痺の理学療法評価・治療(アテトーゼ型・失調型)① / 評価 【阿部】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
6	脳性麻痺の理学療法評価・治療(アテトーゼ型・失調型)② / 治療 【阿部】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
7	小児神経筋疾患の理学療法評価・治療(筋ジストロフィー) 【松坂】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
8	小児神経筋疾患の理学療法評価・治療(脊髄性筋萎縮症) 【松坂】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
9	小児整形外科疾患の理学療法評価・治療(二分脊椎) 【東】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
10	小児整形外科治療における理学療法評価・治療 【東】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
11	重症心身障害の理学療法評価・治療 【松坂】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	
12	発達障害系理学療法における装具・補装具 【阿部】	テキスト指定範囲を通読する (45分)	

13	演習／症例検討 ①VTRを通じての症例検討をグループワーク形式で行う【阿部・松坂・東】	脳性麻痺の評価・治療を復習しておく(45分)
14	演習／症例検討 ②VTRを通じての症例検討をグループワーク形式で行う【阿部・松坂・東】	脳性麻痺の評価・治療を復習しておく(45分)
15	演習／症例検討 ③VTRを通じての症例検討をグループワーク形式で行う【阿部・松坂・東】	脳性麻痺の評価・治療を復習しておく(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
予習・復習を毎回必ず行うこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	授業態度	
90%	10%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 小児理学療法学	石川 朗 総編集	中山書店
参考書又は参考資料等		
小児理学療法学テキスト 第3版 細田 多穂 監修 南江堂こどもの理学療法 第2版 千住 秀明 監修 神陵文庫小児理学療法学 藪中 良彦 編集 メジカルビュー		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
講義へは積極的に参加すること		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
非公開とする。		

授業科目名	日常生活活動演習		
担当者名	中藤 佳絵、橋元 隆	実務家教員	
授業コード	1210132001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーションの目的は、患者あるいは利用者の生活の再建である。私たちの生活様式を軸に、生活活動を構成している要因について理解を深める。日常生活活動の概念と誰もが毎日繰り返すこれらの活動について紐解く。また、日常生活遂行の基盤となる移動動作のための補助具(杖、松葉杖、車椅子など)について教授する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	日常生活活動の定義や範囲(ADL、IADL)、関与する因子、生活の質(QOL)について理解できる。移動補助具(杖、松葉杖、車椅子など)について種類や適応を理解し、指導できる。日常生活における基本的活動となる身の回り動作(SelfCare:食事・排泄・入浴・更衣・整容)に関する目的・機能について明確にすることが出来る。		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(中藤) 日常生活活動の定義と範囲(橋元)	準備:教科書の第1章を確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
2	ADL・IADL・QOLに関連する項目や要因(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
3	移動補助具:車椅子の種類と操作(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
4	移動補助具:車椅子の各部の名称と種類(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
5	移動補助具:障害別の車椅子の特徴(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
6	歩行補助具:杖の特徴と操作(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
7	歩行補助具:松葉杖の特徴と操作(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
8	歩行補助具:歩行器の特徴と操作(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
9	歩行補助具:その他の歩行補助具(中藤)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
10	Self Care:食事(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
11	Self Care:排泄(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
12	Self Care:入浴(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	
13	Self Care:更衣(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)	

14	Self Care:整容(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)
15	ADLに関する評価(橋元)	準備:前回のノートを確認する(15分) 事後:ノートを作成して覚える(30分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>授業内容は、必ずノートにまとめるなどして理解を深め、今後の学修に活用できるように覚えてください。</p> <p>授業開始時に説明することをよく聞いて、各回の内容や自己学習などきちんと整理してまとめておきましょう。</p> <p>定期試験時にノートを回収して採点します。</p>		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
定期試験	授業態度とノートの記載	
80%	20%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
日常生活活動 第2版	千住秀明 監修	神陵文庫
新版 日常生活活動(ADL)ー評価と支援の実際	伊藤利之・江藤文夫 編	医歯薬出版
参考書又は参考資料等		
蜂須賀研二 編集:「服部リハビリテーション全書 第3版」医学書院 2014		
その他、図書室に多くの関連書があるので、おおいに利用してください		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<p>普段意識していない自分の生活が、どのような活動で成り立っているのかに目を向けてみましょう。また、家の中やよく利用する施設にある日常の生活に使っているいろいろな設備や道具・機器がどのような目的で使用されているかを考えることも重要です。グループワークやプレゼンテーションなど演習が中心となるので傍観者とならないように、自ら行動すること。定期試験のフィードバックは、試験の結果が出てから当該学期が終わるまでの期間で、希望者には可否に関わらず個別に行います。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法総合演習 I		
担当者名	石橋 敏郎、高橋 精一郎、橋元 隆、 廣滋 恵一、奥田 憲一、太田 一樹、 井元 淳、吉田 遊子、中藤 佳絵、 神崎 良子、時任 真幸、鈴木 雄太、 長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210133001	授業形態	演習
学年	4年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業、理学療法士必修
ナンバリング	DP3-4-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本学の教育理念及び学部・学科の教育目標に基づき、これまで学んできた理学療法基礎分野について、臨床経験を有する理学療法学科の専任教員がオムニバス形式で分野ごとに演習と解説、補講を行い、分野ごとに演習問題・模擬試験及び中間・定期試験などを実施し、グループワークを通して学生の理学療法士としての総合的な資質向上を目指す。学生の理解度と到達度を分析しつつ、適切な課題を与える。人体の構造と機能および心身の発達、各疾患の特性、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念などについて学修する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長講話、特別講演、正規授業及び補講・補習授業(成績不良者)のすべてに参加することで、理学療法に関する基本知識を説明できるようになる。 2. 具体的な事例について検討し、その解決に向けた討議ができるようになる。 3. 課題解決に向けた手法を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション	レポート作成(45分)	
2	解剖学①	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
3	解剖学②	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
4	解剖学③	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
5	生理学①	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
6	生理学②	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
7	運動学①	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
8	運動学②	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
9	病理学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
10	リハ医学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
11	心理学・精神医学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	

12	整形外科学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
13	神経内科学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
14	人間発達学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
15	内科学	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習では使用テキストを使用した予習を行い、事後学習では講義内容の復習、到達度確認試験の振り返り、プリント類の整理、知識の暗記などを行ってください。またレポートは講義内容を各自でまとめ提出してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

レポート	到達度確認試験	定期試験	
10%	10%	80%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 共通問題	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA

参考書又は参考資料等

PT/OT 国家試験必修ポイント、他※適宜、資料を配布します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

理学療法士として臨床活動するための基礎づくりと国家試験合格のために積極的に受講してください。就職活動等で欠席する場合には、必ず「就職活動による提出届」を事前に提出してください。なお、レポートは成績評価に関わりますので、真剣に取り組んでください。レポート点数については希望があればお伝えします。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法総合演習Ⅱ		
担当者名	石橋 敏郎、高橋 精一郎、橋元 隆、 廣滋 恵一、奥田 憲一、太田 一樹、 井元 淳、吉田 遊子、中藤 佳絵、 神崎 良子、時任 真幸、鈴木 雄太、 長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210134001	授業形態	演習
学年	4年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業、理学療法士必修
ナンバリング	DP3-4-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>本学の教育理念及び学部・学科の教育目標に基づき、これまで学んできた理学療法専門分野について、臨床経験を有する理学療法学科の専任教員がオムニバス形式で分野ごとに演習と解説、補講を行い、分野ごとに演習問題・模擬試験及び中間・定期試験などを実施し、グループワークを通して学生の理学療法士としての総合的な資質向上を目指す。特に、理学療法に関わる基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、地域理学療法学、臨床実習などについて、学生の理解度と到達度を分析しつつ、適切な課題を与える。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学長講話、特別講演、正規授業及び補講・補習授業(成績不良者)のすべてに参加することで、理学療法に関する基本知識を説明できるようになる。 2. 具体的な事例について検討し、その解決に向けた討議ができるようになる。 3. 課題解決に向けた手法を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション	レポート作成(45分)	
2	検査測定①	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
3	検査測定②	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
4	運動療法・基礎理論	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
5	物理療法	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
6	義肢装具	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
7	概論	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
8	ADL	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
9	整形外科	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
10	神経内科	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	
11	CVA	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)	

12	脊損	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
13	小児	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
14	呼吸循環代謝①	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)
15	呼吸循環代謝②	事前:指定された範囲について予習する(15分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(30分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習では使用テキストを使用した予習を行い、事後学習では講義内容の復習、到達度確認試験の振り返り、プリント類の整理、知識の暗記などを行ってください。またレポートは講義内容を各自でまとめ提出してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

レポート	到達度確認試験	定期試験	
10%	10%	80%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
クエスチョン・バンク 理学療法士国家試験問題解説 専門問題	医療情報科学研究所	MEDIC MEDIA

参考書又は参考資料等

PT/OT 国家試験必修ポイント、他※適宜、資料を配布します。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

理学療法士として臨床活動するための基礎づくりと国家試験合格のために積極的に受講してください。就職活動等で欠席する場合には、必ず「就職活動による提出届」を事前に提出してください。なお、レポートは成績評価に関わりますので、真剣に取り組んでください。レポート点数については希望があればお伝えします。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	高齢期理学療法学		
担当者名	長野 友彦	実務家教員	
授業コード	1210135001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	2024年度前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必須
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	複数の多様な問題を抱える高齢者の理学療法においては、高齢者の諸問題を包括的な視点から捉え、機能向上だけでなく、予防の視点も含めた多角的なアプローチが重要である。本授業では、高齢者に対する理学療法を実践するにあたり、特に十分な理解が必要と考えられる内容に重きを置いて学修する。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の医療・保健福祉に対するニーズを理解し、説明することができる。 2. 栄養障害、フレイル、サルコペニアなどの評価が選択的に行うことができる。 3. 健康寿命の延伸や QOL 向上のための多角的なアプローチを理解することができる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、日本の超高齢社会の特徴	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
2	フレイル	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
3	サルコペニア	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
4	栄養障害、摂食・嚥下障害	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
5	尿失禁、うつ病	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
6	加齢に伴う心身機能の変化	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分)事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	
7	高齢者の身体機能評価	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)	

8	高齢者の生活活動能力評価	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
9	高齢者の認知機能、精神・心理機能評価	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
10	QOL、社会活動の評価	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
11	高齢者の筋力・バランストレーニング	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
12	高齢者の身体活動促進に対するアプローチ	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分)事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
13	高齢者の骨折・転倒予防	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
14	高齢者の認知症予防	事前:授業予定の内容をあらかじめ確認し、理解を深める(60分) 事後:配布された資料を基に、関連する文献・資料を調べる(120分)
15	まとめ:高齢者に対して理学療法は何ができるか	事前:高齢者に対する理学療法について復習する(60分) 事後:授業内容を復習し、知識を整理する(120分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習に際しては、日本の人口動態や高齢者にかかわる社会的情報に関心を持つことを勧める。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	課題		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学 池添冬芽(編集) メジカルビュー社
 リハビリテーション基礎講座 老年学 荒井秀典、山田 実(編著) 医歯薬出版株式会社
 テーマに沿った資料を適宜配布する。

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
課題レポートを提示する。期限厳守で提出すること。	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	スポーツ系理学療法		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210097001	授業形態	演習
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-4-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	スポーツ選手の理学療法においては、スポーツ外傷・障害の特徴を理解し、患部の状態・症状・機能に合わせた支援が必要である。この授業では、整形外科での臨床経験を有し、アスレティックトレーナーなどの資格を有する教員が、スポーツの活動支援における理学療法士の役割、各疾患に対する理学療法、救急対応などグループディスカッションを取り入れながら学習します。また、実践を通してスポーツ外傷・障害に対するアプローチを学んで頂きます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) スポーツ理学療法の意義・概要について説明できる。 2) スポーツ活動支援における理学療法士の役割について説明できる。 3) スポーツ活動における理学療法について説明できる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	スポーツ理学療法の意義・概要について①	事前:指定教科書1の「第1章予習課題」(45分)	
2	スポーツ理学療法の意義・概要について②	事前:指定教科書1の「第1章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
3	前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第1章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
4	実践:前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	
5	実践:前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)	
6	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法①	事前:指定教科書1の「第8章予習課題」(45分)	
7	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法②	事前:指定教科書1の「第8章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
8	前十字靭帯断裂術後に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第8章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
9	実践:前十字靭帯断裂術後に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	
10	実践:前十字靭帯断裂術後に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)	
11	上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法①	事前:指定教科書1の「第9章予習課題」(45分)	
12	上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法②	事前:指定教科書1の「第9章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
13	肩関節不安定症に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第9章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
14	肩関節不安定症に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	

15	肩関節不安定症に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
講義に関しては小テストを実施しますのでしっかり学習されてください。基本的にはアクティブ・ラーニングとなります。グループで学習を行うので各自責任感を持って行動しましょう。事前学習では講義のキーワードをもとに各自で予習を行い、事後学習では講義内容を復習して下さい。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
小テスト	演習課題・マナー(授業姿勢含む)	レポート課題
40%	30%	30%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 骨関節障害理学療法学	学術編集:対馬 栄輝教育編集:有馬 慶 美研修協力:加藤 研太郎	株式会社文光堂. 2020
標準整形外科学 第15版	監修:井樋 栄二 / 津村 弘編集:田中 栄 / 高木 理彰 / 松田 秀一	医学書院. 2023
参考書又は参考資料等		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
実技を行いますので、動きやすい服装で受講して下さい。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	パラスポーツ		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1200117001	授業形態	演習
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	2024 年度後期
単位数	1 単位	履修	卒業・作業療法士選択必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	スポーツ活動は障がいのある人個人にとって様々な意義があり、治療的要素とともに健康維持・向上、対人交流、社会参加などの役割を担っている。この授業では、障がい者福祉政策、各障がいの理解、パラスポーツのルール・指導方法を学習し、グループディスカッションやディベートを取り入れながら考察する。また、スポーツの見学・実践を、パラスポーツ支援の意義や理学療法士の役割について学んで頂きます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) パラスポーツ支援の意義・概要について説明できる。 2) 三障がいの概要および障がい者の高齢化や障がいの重度化について説明できる。 3) パラスポーツ支援における理学療法士の役割について説明できる。 4) 障がいに応じた工夫・支援方法について説明できる。 5) 安全管理に留意して障がいに応じたパラスポーツ指導案の作成、実践ができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	事前:「スポーツ・インテグリティ」「スポーツ指導者に求められる資質」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
2	障がい者スポーツの意義と理念	事前:「障がい者スポーツの影響」「医師グッドマン博士の考え方」を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
3	コミュニケーションスキルの基礎 ※講義およびロールプレイによる演習	事後:インタビュートレーニング後のコメントシートを完成させる(45分)	
4	障がい者福祉政策とパラスポーツパラリンピックについて	事前:「パラスポーツ」「パラリンピック」「障がい者福祉政策」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
5	安全管理について ※ディベートおよびグループ別発表を行う	事前:ディベートに向け、スポーツにおける安全管理について情報を収集する(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
6	障がいの理解とスポーツ:身体障がい (肢体不自由・内部障がい)	事前:「肢体不自由・内部障がい」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
7	障がいに応じたスポーツの工夫:ボッチャ	事前:「ボッチャ」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
8	障がいの理解とスポーツ:知的障がい	事前:「知的障がい」の概要を調べる(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)	
9	障がいの理解とスポーツ:精神障がい	事前:「精神障がい」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	
10	障がいの理解とスポーツ:視覚障がい・聴覚／音声障がい	事前:「視覚障がい・聴覚／音声障がい」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)	

11	障がいに応じたスポーツの工夫:フライングディスク	事前:「フライングディスク」の概要を調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)
12	障がいに応じたスポーツの工夫:バレーボール	事前:「バレーボール」を知的障がい・精神障がい・聴覚障がいにおいてどう指導するか考える(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)
13	障がいのある人との交流:車いすバスケットボール北九州チャンピオンズカップの試合観戦(後日観戦)	事後:大会観戦後、レポート作成(45分)
14	パラスポーツ推進の取り組み フクオカ・パラスター・プロジェクトについて	事前:フクオカ・パラスター・プロジェクトの概要と実施プログラムを調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)
15	全国障害者スポーツ大会・障がい者スポーツ指導者制度※ディベートおよびグループ別発表を行う	事前:ディベートに向け、「全国障害者スポーツ大会・障がい者スポーツ指導者制度」について調べる(25分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(20分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<p>事前学習では講義のキーワードをもとに各自で予習を行い、事後学習では講義内容を復習して下さい。講義時には講義開始時および講義終了時に小テストを実施します。ディベートにおいては発表資料を作成していただきます。また、レポートは見学内容・感想を各自でまとめ提出して頂きます。授業では代表的なパラスポーツを紹介・実施します。事前に大まかなルール等を確認し、授業後には対象者に指導できるレベルまで到達できるようになりましょう。</p>		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
授業・実習姿勢(小テスト含む)	発表内容	レポート課題
50%	20%	30%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
改正版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応	(公財)日本パラスポーツ協会[編]	株式会社ぎょうせい
全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)―令和6年度版―(令和6年4月1日発行)	(公財)日本パラスポーツ協会[編]	(公財)日本パラスポーツ協会
参考書又は参考資料等		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
<p>実技を行いますので、動きやすい服装で受講して下さい。また、機器や道具を使用する機会が多々あります。取扱に注意し、ゲームのルールやリスクを理解しましょう。授業の一環として、北九州チャンピオンズカップ 国際車いすバスケットボール大会(北九州市総合体育館)の試合を観戦して頂きます。なお日本パラスポーツ協会公認の初級パラスポーツ指導員が取得できますが、申請には9,300円(変更あり)が必要となります。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	先端医療と理学療法		
担当者名	廣滋 恵一、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、奥田 憲一、井元 淳、 吉田 遊子、中藤 佳絵、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210136001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	テクノロジーの発展は医療技術の進歩にも大きく貢献し、今後もさらなる進展が期待される。理学療法士の専門性は人と人との関わりの中で発揮されることに変わりないが、再生医療やリハビリテーション支援ロボットの開発等にもみられるように、先進医療が理学療法対象者の状態に影響を与えることが予想される。理学療法の価値や効果を高める可能性を秘めた最先端技術と先進医療について演習を通じて学び新時代の理学療法について検討する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先進医療の概要について理解を深める 2. 様々な領域で試みられる先進医療・技術について理解を深める 3. 先進医療と理学療法との関係性について理解を深める 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	初回オリエンテーション、先進医療の概要(廣滋)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:概要の情報整理(30分)	
2	Whole Body Vibration と理学療法(廣滋)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
3	自律神経活動分析と理学療法(高橋)	事前:自律神経活動の仕組みを確認する(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
4	脊髄損傷と再生医療(橋元)	事前:脊髄損傷治療の動向について調べる(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
5	フレイルとサルコペニアに対する理学療法(石橋)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
6	障害を持つ子ども達に対する幹細胞治療と遺伝子治療(奥田)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
7	呼吸機能低下の予防に向けての考察(井元)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
8	介護現場におけるロボット活用と理学療法士の役割 (吉田) (5/2)(木)1限目介護ロボット等導入支援・普及促進センター見学	事後:見学後のレポート作成(45分)	
9	物理療法における先進技術とその理解(中藤)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	
10	循環器領域におけるウェアラブル機器の活用(神崎)	事前:ウェアラブル機器に関する情報収集(15分) 事後:課題学習(30分)	
11	スポーツ現場におけるコンディション管理とデータ活用 法(時任)	事前:「ONE TAP SPORTS」のHPより情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)	

12	AI・ロボティクス・データサイエンスを活用した歩行障害の評価と介入(鈴木)	事前:キーワードを用いた情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)
13	リハビリテーション支援ロボット ウェルウォークを用いた理学療法(長野)	事前:ウェルウォークに関する情報収集(15分) 事後:演習で学んだ事項のまとめ(30分)
14	関心ある先進医療について調査結果の整理(グループワーク)	事前:関心ある先進医療について情報収集(45分)
15	グループワークの内容について発表する	事前:発表資料の作成(45分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
事前に授業テーマに関する事前学習、情報収集しておくこと事後には演習で学んだ内容を整理してまとめること		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
教員別課題	グループワーク参加姿勢	グループワークの発表
教員 12名×10点を80点満点換算	10%	10%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
特になし		
参考書又は参考資料等		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	性差医療と理学療法		
担当者名	吉田 遊子、中藤 佳絵、神崎 良子	実務家教員	
授業コード	1210137001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	性差医療とは、男女比に一方的な差のある病態、臨床的に男女間に差があるものに対する医療のことをいう。本科目では、男女における生殖器系の違いによる疾患を対象とした理学療法について、実務経験のある教員が教授する。具体的には、月経障害、妊娠・出産に関わるもの、婦人科系がん、リンパ浮腫、前立腺がん、更年期障害、骨盤底障害、排泄障害などについて、ライフステージ（思春期、性成熟期、更年期、老年期）に応じた心身の変化を確認したうえで、各理学療法について演習を交えて教授する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1)性差医療における理学療法について理解できる 2)各ライフステージにおける課題について説明できる 3)骨盤底障害に対する生活支援を理解できる		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	総論:性差医療について ウィメンズヘルスとメンズヘルス(神崎) p2-23	復習:講義内容の復習(45分)	
2	解剖生理:生殖に関わる器官(中藤)p25-30	復習:講義内容をノートにまとめて覚える(45分)	
3	解剖生理:排泄に関わる器官(中藤)p25-30	復習:講義内容をノートにまとめて覚える(45分)	
4	ライフステージにおける変化(中藤)p73-156	復習:自分や家族などのライフステージについて考える(45分)	
5	がんと性差、がんに対するリハビリテーション(神崎)p100-117	復習:講義内容の復習(45分)	
6	がんのリハビリテーションの実際(神崎) p220-234	復習:講義で学んだ実技の復習(45分)	
7	思春期:月経異常に対する理学療法士の関わり p158-167(吉田)	復習:講義内容の復習(45分)	
8	骨盤底機能障害等に対する評価(排尿量測定・他)p283-288(吉田)	予習:骨盤底に関わる機能解剖の復習(15分) 復習:排尿日誌を取り、レポート作成(30分)	
9	成熟期:妊娠～出産の理学療法(神崎)p47-63、168-195	復習:妊婦体験についてまとめる(45分)	
10	成熟期:出産～産後の理学療法(神崎)p64-72、197-219	復習:講義で学んだ実技の復習(45分)	
11	更年期・老年期:尿失禁(中藤)p288-294	予習:第3回の排泄に関わる解剖生理学を見直す(45分)	
12	更年期・老年期:便失禁および骨盤底筋体操(中藤)p294-295	予習:市販されている排泄に関わる製品や情報を探してみる(45分)	
13	骨盤底障害に対する生活支援 p151-155、293-297(吉田)	復習:おむつ内失禁を体験し、レポート作成(45分)	
14	更年期障害・骨粗鬆症に対する理学療法 p252-282(吉田)	予習:ご家族から、更年期障害の状況を聴取(15分) 復習:体組成分析の結果から考えられることをまとめる(30分)	

15	性に関連する社会的状況、関連制度 p299-324(吉田)	予習:ジェンダーに関する気になる情報を探す(15分) 復習:授業内容の復習(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
ノートの提出を必要とします。各回でまとめておいてください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
授業参加態度	授業ノートの内容	レポート×2	
10%	30%	各 30%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
ウィメンズヘルスリハビリテーション	ウィメンズヘルス理学療法研究会・編集	MEDICAL VIEW	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
レポート等の提出期限は厳守してください。レポートはフィードバックします。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	予防理学療法		
担当者名	廣滋 恵一	実務家教員	○
授業コード	1210138001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>予防理学療法はさまざまな疾患や社会システムと関わりがある。具体的には、介護予防・地域包括ケアシステム、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、廃用症候群の予防、認知症の予防、労働災害の予防、再発予防(脳卒中、心疾患、呼吸器疾患、整形疾患など)、スポーツ障害の予防、スポーツを利用した予防、メンタルヘルス、ウイメンズヘルス・メンズヘルス、ヘルスコミュニケーション、コミュニティ・プロモーションのマネジメントなど多岐にわたる。労災病院での長年にわたる臨床経験を有する実務家教員の指導の下、演習を通じて様々なトピックスに触れていく。授業形態は演習である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>超高齢社会の本邦において、健康寿命の延伸が求められることを理解し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防理学療法の定義について説明できる ・予防理学療法の領域について理解することができる ・予防理学療法の実践に向けて計画を立てることができる 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション: 予防理学療法とは	事後: 授業内容を整理する(45分)	
2	予防理学療法に関連する制度の理解	事前: 医療保険・介護保険制度について調べる(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
3	サルコペニア、フレイル、老年症候群の理解	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
4	メタボリックシンドロームの予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
5	ロコモティブシンドロームの予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
6	廃用症候群、疾病の再発予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
7	労働災害の予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
8	健康行動理論(SE、TTM など)	事前: 健康行動理論について調べる(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
9	予防理学療法領域の研究手法	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
10	疫学研究の紹介(実践報告)	事後: 授業内容の整理(課題1)を実施する(45分)	
11	予防理学療法領域の疫学研究	事後: 授業内容を整理する(45分)	
12	予防理学療法の実践準備(計画編)	事後: 情報収集、計画書、評価用紙作成(課題2)(45分)	
13	予防理学療法の実践準備(評価説明1)	事後: 評価種目の実践的練習(45分)	
14	予防理学療法の実践準備(評価技術2)	事後: 評価種目の実践的練習(45分)	

15	予防理学療法の実践(シニアカレッジ参加)	事前:事前準備資料の内容を把握する(30分) 事後:使用物品の整理・記録の整理(15分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
授業テーマごとに事前学習や事後学習の内容は異なるが、基本はテキストに目を通し、重要箇所をノートに書きだすなど独自のノートづくりを行うこと。事前学習の確認として対話を通じて授業テーマに関するディスカッションを行う。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ポートフォリオ評価	レポート課題1~2	実践への積極的姿勢	
30%	40%(20%×2)	30%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
予防理学療法学要論	大淵修一 浦辺幸夫 監修	医歯薬出版株式会社	
参考書又は参考資料等			
別途、資料を配布する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
課題レポートは指定した書式で提出すること			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	生活環境論		
担当者名	吉田 遊子、長野 友彦	実務家教員	
授業コード	1210139001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP4-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	高齢者や障害者もそうでない人と同様に様々な生活環境(人的・物的・社会的)のもとでその人らしく生活を営む権利を持っている。そのような社会がごく普通の社会であり、このような考え方がノーマライゼーションとしての理念であり、リハビリテーション医療の原点となっている。本授業では、実務経験のある教員が、高齢者や障害者へ様々な生活環境としての支援の在り方、理学療法士としての係わり方、そのために必要となる基本的な知識と技術を教授する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1.生活環境支援の対象者となる高齢者、障害者の社会状況や住環境、生活機能障害を理解できる。 2.社会的な生活環境支援としての法制度、介護保険制度・障害者総合支援法・他について理解できる。 3.福祉住環境整備を進める上で必要となる基本的技術や実践に伴う基礎知識を理解できる。 4.在宅生活における福祉用具の意義と活用について実践できる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、生活環境学の考え方、日本における生活環境の特徴と課題(p1-20)(吉田)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
2	生活環境整備に関する法的制度(p21-38)(吉田)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
3	生活環境整備の進め方(p39-52)(長野)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
4	居宅支援の実際(長野)	事前:授業の該当箇所を一読のこと(90分) 事後:「講義を受講しての感想」を400字程度にまとめ、提出のこと(90分)	
5	生活環境整備の基本:段差・スペース・床材・手すり、建具(p53-75)(吉田)	事前:自宅内の段差の高さ、手すりの有無、建具の種類を調べる(90分) 事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
6	玄関・アプローチ・廊下・階段の環境整備(p77-94)	事前:自宅玄関から道路までの状況、玄関上がり框の高さを調べる(90分) 事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
7	トイレ・浴室・脱衣所・台所・食堂の環境整備(p96-125)(吉田)	事前:自宅トイレ・風呂の状況(広さ・高さ・深さ・手すりの有無)、脱衣所から浴室の段差を調べる(90分) 事後:授業を振り返り、国家試験過去問題を行うこと(90分)	
8	居間・寝室の環境整備(p127-135)(長野)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	
9	疾患別環境整備①:脳血管障害・パーキンソン病(p137-150)(長野)	事前:授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後:授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)	

10	疾患別環境整備②: 脊髄損傷 (p150-153)(長野)	事前: 授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後: 授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)
11	疾患別環境整備③: ALS・認知症・視覚障害・聴覚障害・他 (p154-162) (吉田)	事前: 授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後: 授業を振り返り、関連する文献・資料を調べる(90分)
12	福祉用具プラザ北九州の見学(吉田・長野)	事前: これまでの授業で紹介した福祉用具等を実際に確認してもらいます。該当する授業内容を再確認しておくこと(90分) 事後: 見学内容・感想を400字程度にまとめ、提出のこと(90分)
13	事例検討: グループワークオリエンテーション、基本的な建築図面の読み方・書き方 (p163-174) (吉田・長野)	事前: 授業予定の箇所を一読のこと(90分) 事後: 事例の内容を確認し、問題点を検討する(90分)
14	事例検討: グループワーク(吉田・長野)	事前: 事例の内容を確認し、問題点を検討する(90分) 事後: グループでの検討内容を資料にまとめる(90分)
15	事例検討: 発表および意見交換(吉田・長野)	事前: 発表準備(90分) 事後: 他のグループの意見もあわせ、振り返りをする(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
準備学習として授業テーマに該当する教科書部分を一読しておくこと。自宅内外の生活環境について、観察してみよう。事後学習については配布された資料等を再確認すること。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段: 評価項目、下段: 割合(%)		
レポート課題(2回)	事例検討の内容とグループ活動への参加態度	定期試験
15%	10%	75%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
シンプル理学療法学作業療学生活環境学テキスト 改訂第2版	細田多穂 監修	南江堂
参考書又は参考資料等		
福祉住環境コーディネーター検定試験改訂6版、東京商工会議所編 標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版、著者: 橋元 隆、吉田遊子 出版社: 医学書院		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
福祉用具プラザ北九州の見学(5月30日の午前または午後予定)は費用(550円)がかかります。欠席した場合、返金ができませんのご了承ください。また、見学にあたってはマナーを守って、理学療法と関連付けて見学してください。詳細は、別途、お知らせします。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	地域理学療法学		
担当者名	廣滋 恵一、奥田 憲一、井元 淳、 吉田 遊子、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210140001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	地域理学療法は、医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が対象者の実生活の場で支援を行うことである。地域包括ケアシステムが展開されている中、入所・通所施設、訪問リハビリテーション、介護予防などの領域で、また、災害時支援、国際支援といった医療機関以外でも理学療法士の活躍が広がっている。本科目では地域での実務経験を有する教員が講義を行い、地域の様々な領域における理学療法士の役割および多職種連携について学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 地域における理学療法士の役割、および関連職種との連携を説明できる。 2) 地域におけるリハビリテーション活動の制度・あり方を説明できる。 3) 地域における対象者への目標設定、理学療法士の介入意義について考えることができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション、地域理学療法の特徴(廣滋)	事前:地域理学療法の概要について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
2	多職種連携の理解(廣滋)	事前:地域理学療法での多職種連携について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
3	制度の理解(吉田)	事前:地域理学療法の制度について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
4	入所施設での理学療法(吉田)	事前:地域における入所施設について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
5	入所施設の実際(吉田)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
6	通所施設での理学療法(井元)	事前:地域における通所施設について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
7	通所施設の実際(井元)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
8	訪問リハビリテーションでの理学療法(長野)	事前:訪問リハビリテーションについて予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
9	訪問リハビリテーションの実際(長野)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
10	災害時支援(廣滋)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
11	小児分野での地域理学療法(奥田)	事前:小児領域の地域理学療法について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
12	小児分野での地域理学療法の実際(奥田)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
13	介護予防事業(井元)	事前:介護予防事業について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
14	介護予防事業の実際(井元)	事後:授業内容で学んだことを復習する(180分)	
15	国際支援(井元)	事後:15回の授業で学んだことを復習する(180分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
第1～4、6、8、11、13回はその内容に沿った予習、復習を行ってください。			
第5、7、9、10、12回はレポート課題を出しますので、講義後に提出してください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段：評価項目、下段：割合(%)			
レポート(5回)	定期試験		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理学療法学テキスト 地域理学療法学	浅川 康吉、他	MEDICAL VIEW	
参考書又は参考資料等			
地域リハビリテーション学テキスト改訂第3版(細田多穂、他、南江堂)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
地域理学療法学に関係する疾患について復習しておいてください。レポートはルーブリックに沿って採点します。レポート作成時にはルーブリックも参考にしてください。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	臨床実習 I		
担当者名	神崎 良子、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、吉田 遊子、中藤 佳絵、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210141001	授業形態	実習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1~3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床実習 I は見学実習である。臨床で理学療法経験を十分に有する実務家教員指導の下、学内実習において、臨床実習の意義と目的ならびにリスク管理について教授する。また、臨床実習においては、患者様を対象に医療人としての基本的態度ならびに基本的な理学療法評価技術、リスク管理能力等の向上を図る。授業形態は実習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1 医療人としての望ましい態度や行動を理解することができる 2 医療における理学療法士の役割を理解し、その一員として自覚ある行動をとることができる 3 学習・見学した内容等を記録・報告することができる 4 感染防止策を実施できる		
授業計画(学外実習の内容含む)			
学内実習：令和6年4月～7月の期間で13時間実習前オリエンテーション、標準予防策、問診などの演習を行う。 施設実習：令和6年6月～7月の期間で32時間(1日7時間実習で4日※) ※ただし、1日あたり1時間以内の課題学習を含む、計32時間の見学実習とする。			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
実習施設に関する情報(施設の特徴、アクセスなど)は事前に確認しておくこと。 ポートフォリオは適宜整理し、新たな気づきや疑問、反省点を次の実習に活かすこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
見学レポート	ポートフォリオの内容・口頭 試問	標準予防策レポート	自己点検シート
40%(20%×2施設)	40%	10%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科 編集発行		
参考書又は参考資料等			
適宜紹介する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	臨床実習Ⅱ		
担当者名	吉田 遊子、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、中藤 佳絵、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210142001	授業形態	実習
学年	3年	開講期	後期
単位数	4単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1～4-3-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床実習Ⅱ（評価実習）では、対象者や臨床実習指導者等との適切な関係性の構築が求められる。その上で、学内講義・演習や臨床実習Ⅰで得た知識・技術・技能等をもとに基本的な臨床理学療法を経験する。臨床実習においては、学生が一定水準の知識と技能を有している必要があるため、「実習前評価」として、基礎的知識の確認テストおよび各専門領域での臨床経験を有する教員による客観的臨床能力試験（OSCE）を行う。各施設における臨床実習は、臨床経験を有する臨床実習指導者が中心に実習指導を行う。実習後は、「実習後評価」として、ポートフォリオなどを用いて実習経験を振り返り、理学療法の理解を深めることを目的に口頭試問および体験報告会を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 ②対象者の状態に応じて評価項目を選択・実施し、得られた情報を整理して的確な問題点を挙げるることができる。 ③実施した評価内容等を記録・報告することができる。		
授業計画(学外実習の内容含む)			
施設実習期間：令和6年10月21日(月)～11月21日(木)の期間で160時間(1日8時間実習で20日間) ※ただし、1日あたり1時間以内の課題学習および実習前後の評価を含む、計180時間の実習とする。 実習前評価(1.5時間)・解剖学・生理学・運動学・理学療法評価学を中心とした基礎的知識の確認テスト。 ・模擬症例に対する客観的臨床能力試験(OSCE)。実習後評価(0.5時間)・ポートフォリオの口頭試問と体験報告会。			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・学生は配置された実習施設の情報収集をし、実際の患者様を想定したうえで、評価項目の選択・実施、評価結果の記録(SOAP)とICFを用いた問題点抽出についての演習をくり返し行うこと。 ・理学療法評価の結果の解釈ができるよう、疾患の基礎および解剖学・生理学・運動学等の知識を関連付け、復習したうえで実習に臨むこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
施設実習の状況	実習前評価確認テスト・OSCEの成績・実習前セミナーへの取り組み	実習後評価①ポートフォリオの内容・口頭試問	実習後評価②体験報告会
40%	10%	25%	25%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 編集発行		
参考書又は参考資料等			
学内講義・演習で使用した教科書、配布資料、インターネットで検索した医学文献など			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	臨床実習Ⅲ		
担当者名	吉田 遊子、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、中藤 佳絵、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210143001	授業形態	実習
学年	3年	開講期	後期
単位数	7単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1～4-3-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床実習Ⅲ(総合臨床実習第Ⅰ期)では、対象者や臨床実習指導者等との適切な関係性の構築が求められる。その上で、学内講義・演習や臨床実習で得た知識・技術・技能等の実践的な経験を重ねていく。臨床実習においては、学生が一定水準の知識と技能を有している必要があるため、「実習前評価」として、基礎的知識の確認テストおよび各専門領域での臨床経験を有する教員による客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。各施設における臨床実習は、臨床経験を有する臨床実習指導者が中心に実習指導を行う。実習後は、「実習後評価」として、ポートフォリオなどを用いて実習経験を振り返り、理学療法の理解を深めることを目的に口頭試問および体験報告会を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 ②対象者に応じて適切な評価を実施・記録し、その問題点を整理して、理学療法計画を立案することができる。 ③対象者への治療・指導・援助を実施することができる。 ④対象者の全体像と状態・症状の変化および治療効果を理解することができる。 ⑤理学療法の効果を確認し、必要に応じて理学療法計画を見直すことができる。		
授業計画(学外実習の内容含む)			
施設実習期間：令和7年1月6日(月)～3月5日(水)の期間で280時間(1日8時間実習で35日間) ※ただし、1日あたり1時間以内の課題学習および実習前後の評価を含む、計315時間の実習とする。 実習前評価(1.5時間)・解剖学・生理学・運動学・理学療法評価学を中心とした基礎的知識の確認テスト。 ・模擬症例に対する客観的臨床能力試験(OSCE)。実習後評価(0.5時間)・ポートフォリオの口頭試問と体験報告会。			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・臨床実習Ⅱで指摘された問題点を解消する努力をすること。 ・学生は配置された実習施設の情報収集をし、実際の患者様を想定したうえで、評価項目の選択・実施から問題点抽出、プログラム立案・実施を視野に入れて、演習を重ねること。 ・理学療法の解釈ができるよう、疾患の基礎および解剖学・生理学・運動学等の知識を関連付け、復習したうえで実習に臨むこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
施設実習の状況	実習前評価確認テスト・OSCEの成績・実習前セミナーへの取り組み	実習後評価①ポートフォリオの内容・口頭試問	実習後評価②体験報告会
40%	10%	25%	25%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 編集発行		
参考書又は参考資料等			

学内講義・演習で使用した教科書、配布資料、インターネットで検索した医学文献など	
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]	
担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	臨床実習Ⅳ		
担当者名	吉田 遊子、高橋 精一郎、橋元 隆、 石橋 敏郎、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、中藤 佳絵、神崎 良子、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210144001	授業形態	実習
学年	4年	開講期	前期
単位数	7単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-4-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	臨床実習Ⅳ(総合臨床実習第Ⅱ期)では、対象者や臨床実習指導者等との適切な関係性の構築が求められる。その上で、学内講義・演習や臨床実習で得た知識・技術・技能等の実践的な経験を重ねていく。臨床実習においては、学生が一定水準の知識と技能を有している必要があるため、「実習前評価」として、基礎的知識の確認テストおよび各専門領域での臨床経験を有する教員による客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。各施設における臨床実習は、臨床経験を有する臨床実習指導者が中心に実習指導を行う。実習後は、「実習後評価」として、ポートフォリオなどを用いて実習経験を振り返り、理学療法の理解を深めることを目的に口頭試問および体験報告会を行う。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①医療人として望ましい態度や行動をとることができる。 ②対象者に応じて適切な評価を実施・記録し、その問題点を整理して、理学療法計画を立案することができる。 ③対象者への治療・指導・援助を実施することができる。 ④対象者の全体像と状態・症状の変化および治療効果を理解することができる。 ⑤理学療法の効果を確認し、必要に応じて理学療法計画を見直すことができる。		
授業計画(学外実習の内容含む)			
施設実習期間：令和6年4月29日(月)～6月24日(月)の期間で280時間(1日8時間実習で35日間) ※ただし、1日あたり1時間以内の課題学習および実習前後の評価を含む、計315時間の実習とする。 実習前評価(1.5時間)・解剖学・生理学・運動学・理学療法評価学を中心とした基礎的知識の確認テスト。 ・模擬症例に対する客観的臨床能力試験(OSCE)。実習後評価(0.5時間)・ポートフォリオの口頭試問と体験報告会。			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・臨床実習Ⅲで指摘された問題点を解消する努力をすること。 ・学生は配置された実習施設の情報収集をし、実際の患者様を想定したうえで、理学療法評価からプログラム立案・実施を視野に入れて、演習を重ねること。 ・理学療法の解釈ができるよう、疾患の基礎および解剖学・生理学・運動学等の知識を関連付け、復習したうえで実習に臨むこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
施設実習の状況	ポートフォリオの内容・口頭試問	体験報告会	
50%	25%	25%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録	九州栄養福祉大学リハビリテーション 学部理学療法学科 編集発行		
参考書又は参考資料等			
学内講義・演習で使用した教科書、配布資料、インターネットで検索した医学文献など			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			

担当教員の連絡先等	
教員 E-mail	その他

授業科目名	臨床実習V		
担当者名	神崎 良子、廣滋 恵一、奥田 憲一、 井元 淳、吉田 遊子、中藤 佳絵、 時任 真幸、鈴木 雄太、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210145001	授業形態	実習
学年	4年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP1-4-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	高齢化の進展に伴う医療需要の増大や地域包括ケアシステムの構築が進む中で、地域における介護保険領域の理学療法士の役割を理解することは大変重要である。地域での自立支援を行うための通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割および多職種との連携について、施設実習を通して具体的かつ実践的な内容を見学して学ぶ。授業形態は見学実習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	(1) 医療人としての望ましい態度や行動をとることができる (2) 対象者の生活活動における目標を把握することができる (3) 生活活動における目標達成のための理学療法プロセスに参加できる (4) 通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおける理学療法部門および施設全体の役割を説明できる (5) 地域における理学療法士の役割、および多職種連携が理解できる		
授業計画(学外実習の内容含む)			
施設実習期間：令和6年7月8日(月)～7月22日(月)のうち40時間(1日8時間の実習で5日相当) 臨床実習IV実習後セミナー終了後に実施セミナー(実習前)オリエンテーション(実習に向けての準備)、特別講義(地域連携について)(実習後)ポートフォリオの確認、担当教員と個別にチェックリストをもとにポートフォリオの確認、フィードバックを行う			
準備学習・事後学習等についての補足説明			
介護保険制度や介護保険サービスについて事前に準備学習をして臨むこと。3年前期の地域理学療法学の授業プリント等を活用すること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ポートフォリオ	実習レポート		
60%	40%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
臨床実習録(別冊)	九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 編集発行		
参考書又は参考資料等			
これまでの授業で使用した教科書や配布資料などを活用すること			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	園芸概論		
担当者名	小浦 誠吾	実務家教員	
授業コード	1230001001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	選択・園芸療法士必修
ナンバリング	DP1-1-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	あたりまえと思われがちな「人間と植物の関係」が、実際には医療などの人間を対象とする職業人にとっても大切なものであることを、本講義によって再認識し自然の摂理を理解する。具体的には、植物の生命性、継続性および自然性を意識して園芸活動に取り組むことが、日常生活をより豊かなものにできることを理解する。「園芸療法の基礎」や「園芸療法実習」の講義につながる学際的な園芸学の基礎的知識を身につけ、社会に有為な人材になるための基礎力の修得を目指す。医療者にとっても大切となるコミュニケーション力の向上も目指すことを本科目の方針としており、アクティブラーニングとしてのグループディスカッションや意見の異なる2グループのディベートの時間を頻りに設けることとし、医療人の中での園芸の可能性に関する考察を深める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	単に園芸植物の栽培技術を習得することではなく、園芸活動や園芸活動が有する文化的・社会的・人類学的などの学際性豊かな特徴に関しても学修する。また、本講義で習得した考え方や指針を社会人基礎力につなげることを到達目標とする。さらに、園芸学を活用した医療の可能性についてのPDCAサイクルを確認することで、多様な患者の症状や人間性に対抗できるスキルを習得する。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	人間と植物・自然との関わり: 節季行事、七草、人間と植物の関りの基礎	テキストの予習(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)	
2	人間と植物・自然との関わり: 精神科医療、療法と園芸の関係性アクティブラーニングとしてのグループディスカッションを実施する	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)	
3	園芸とは何か: 農学から見た園芸学と医療者から見た園芸の相違点	アクティブラーニングの内容を再確認しておく(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)	
4	園芸と人間の関係: 作業療法・理学療法につながる園芸を探求	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)	
5	園芸用語の起源: Gardening(ガーデニング)とHorticulture(ホーティカルチャ)の違いアクティブラーニングとしてのグループディスカッションを実施する	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)	

6	花栽培の原点: 花の庭栽培のきっかけと現代の SDGs の考えとの比較検討	アクティブラーニングの内容を再確認しておく(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
7	花の心理的効果: 花の心理的機能の利用の歴史と人間の進化の関係	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
8	蔬菜園芸学1: 蔬菜園芸と生活	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
9	蔬菜園芸学2: 蔬菜園芸と園芸療法の関係	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
10	果樹園芸学1: 果樹園芸と生活	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
11	果樹園芸学2: 果樹園芸と園芸療法の関係	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
12	社会園芸学1: 社会園芸学の誕生と発展	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
13	社会園芸学2: 暮らしの中の園芸と植物	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
14	国内のガーデン: 国内のガーデンコンテストとガーデン ホスピタルガーデンの必要性についてのディベートを 実施する	テキストの予習と今回の講義資料の確認(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)

15	世界のガーデン:世界最古のガーデンフラワーショウの価値	ディベート内容を再吟味しておく(90分) 身近な自然の日々の変化に着目し、僅かな変化を五感で感じておき、その感覚を講義に役立てる準備をしておく(90分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
<ul style="list-style-type: none"> ・大学内の自然環境・植物と人間の関係性について考察しておくこと ・通学時の自然の変化に気を配る工夫をしてください ・配布の資料・参考文献を熟読しておく ・総合試験に向けてのまとめ 		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
授業姿勢	試験	
30%	70%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
資料配布		
参考書又は参考資料等		
(参考文献)植物分類学、ISBN978-4-13-062221-9、伊藤元己 園芸リハビリテーション 山根 博		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	
非公開とする。		

授業科目名	園芸療法の基礎		
担当者名	深町 晃次、廣滋 恵一、佐野 幹剛	実務家教員	
授業コード	1230002001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	選択・園芸療法士必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	園芸療法には様々な解釈があるが、本講義では園芸の捉え方を広義に捉え、広義の園芸を多面的に有効活用した医療・保健・福祉分野における園芸療法の可能性や本質を修得する。農学の一部としての園芸学の視点に捉われず、治療の目的や療法の評価を実施するための基礎知識を修得する必要がある。園芸療法を実践に向けて、自らプログラム立案し、その園芸療法実践計画の準備ができるための技法の理解を深める。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	リハビリテーション分野での園芸療法の実践場面の解説や多面的な視点を学ぶことで、なぜ理学療法、作業療法などのリハビリテーションの中で園芸技法が活用されているかを理解し、園芸療法の役割を理解する。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	【園芸療法の基礎】:園芸療法の歴史と時代背景の修得(深町)	シラバスの精読と園芸療法の起源について調べる(90分) 講義に役立つ医療基礎を復習しておく(90分)	
2	【園芸療法の基礎】:園芸福祉と園芸療法の理解(深町)	園芸福祉について調べる(90分) 資料の見直しと園芸福祉のまとめる(90分)	
3	【身体障害分野の園芸療法】:内部疾患の園芸療法の実際(佐野)	資料に示した内部疾患について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
4	【身体障害分野の園芸療法】:高次脳機能障害の園芸療法(佐野)	高次脳機能について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
5	【精神障害分野の園芸療法】:依存症における園芸療法の実際(深町)	依存症について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
6	【精神障害分野の園芸療法】:抑うつ、老人性うつ症状の具体的事例(深町)	うつ病について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
7	【発達障害分野の園芸療法】:知的障害における園芸療法(佐野)	知的障害について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
8	【高齢者の園芸療法】:地域在住高齢者の園芸療法の実際(佐野)	高齢者の園芸療法について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
9	【認知症の園芸療法】:国内の認知症に対する園芸療法(佐野)	認知症について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
10	【認知症の園芸療法】:世界の認知症に対する園芸療法(佐野)	国内認知症に対する園芸療法の現状を見直す(90分) 国内外の認知症に対する園芸療法の違いをまとめる(90分)	
11	【老年期障害の園芸療法】:老年期障害の現状と園芸療法(深町)	老年期障害について調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
12	【ストレスマネジメントと園芸療法】:ストレスマネジメントとしての園芸療法の実際(深町)	ストレスマネジメントについて調べる(90分) 資料の見直しと園芸療法の効果についてまとめる(90分)	
13	【園芸活動の紹介】:佐野 調べたことをグループディスカッションと発表	身近な園芸活動について調べる(90分) 資料の見直しと園芸活動の実際についてまとめる(90分)	

14	【園芸活動の紹介】:深町 調べたことをグループディスカッションと発表	住み慣れた街の中の園芸活動について調べる(90分) 資料の見直しと園芸活動の実際についてまとめる(90分)	
15	【園芸活動の紹介】:廣滋 調べたことをグループディスカッションと発表	大学周辺の園芸活動について調べる(90分) 資料の見直しと園芸活動の実際についてまとめる(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<ul style="list-style-type: none"> ・園芸概論の内容を再確認しておくこと ・配布の資料・参考文献を熟読しておく 			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ワークノートの完成度	課題の完成度	授業の貢献度	講義内容の理解度
20%	20%	30%	30%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
配布資料			
参考書又は参考資料等			
園芸リハビリテーション 山根 博 作業って何だろう「作業科学入門」 吉川ひろみ Horticulture as therapy Mitchell Hewson			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・理解できないことはその都度質問すること。 ・日本と世界の園芸療法の違いについて課題レポートを提出すること(佐野) ・認知症に対する園芸療法の実施計画について課題レポートを提出すること(佐野) ・講義内容の理解度は、小テストの結果を参考にする(深町) ・グループディスカッションと発表では各自が調べたことについて意見交換し、まとめについて発表する(佐野・廣滋・深町) 			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	園芸療法実習		
担当者名	深町 晃次、佐野 幹剛、廣滋 恵一	実務家教員	
授業コード	1230003001	授業形態	実習
学年	2年	開講期	通年
単位数	2単位	履修	選択・園芸療法資格課程必修
ナンバリング	DP1-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>医療や福祉の領域で支援を求める人たちへ、園芸活動を手段とした支援をするために、以下の内容の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.園芸療法の実践環境の理解 2.園芸療法プログラムの体験 3.園芸療法プログラムの企画・実践 4.園芸療法プログラムの効果測定 授業形態は実習である。 		
授業の到達目標 〔学習成果〕	リハビリテーション分野での園芸療法の実践方法を学び、支援を求める人に対して応用的活用を企画・実施することができるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	コースガイダンス夏野菜用の畑づくり(佐野)		
2	屋外ガーデンの整備・水遣り当番決め(深町)		
3	夏野菜の苗植え支柱立て・ネット張り(佐野)		
4	ガーデニング見学(佐野・廣滋・深町) (北九州市立総合農事センター)		
5	ガーデニング見学(佐野・廣滋・深町) (北九州市立総合農事センター)		
6	住宅ガーデンのデザイン(深町)		
7	身体障がい分野の園芸療法計画(廣滋)		
8	身体障がい分野の園芸療法実施(廣滋)		
9	グループでのコンテナデザイン(深町)		
10	グループでのコンテナづくり(深町)		
11	車椅子利用者のための園芸実習①(廣滋)		
12	車椅子利用者のための園芸実習②(廣滋)		
13	本館前ガーデンの整備(深町)		
14	記念館前ガーデンの整備(廣滋)		
15	キッチンガーデンの整備(深町)		
16	本館玄関～階段ガーデン他の整備(佐野)		
17	ハーバリウムづくり①(深町)		
18	ハーバリウムづくり②(深町)		
19	日本人ガーデナーの映像学習(深町)		
20	夏野菜の収穫(佐野)		
21	籐細工を用いた園芸実習①(深町)		
22	籐細工を用いた園芸実習②(深町)		
23	籐細工を用いた園芸実習③(深町)		

24	籐細工を用いた園芸実習④(深町)	
25	籐細工を用いたフラワーアレンジメント(深町)	
26	民間病院における園芸療法の見学① (佐野・廣滋・深町)	
27	民間病院における園芸療法の見学② (佐野・廣滋・深町)	
28	園芸を用いたストレスコントロールについて(深町)	
29	藍染め体験(深町)	
30	園芸療法を用いたボランティア活動の案内と準備 (深町)(発達障がい分野)	
31	陶芸を用いた園芸療法実習素焼きの植木鉢づくりの (深町)	
32	司法領域における園芸療法の実際①(深町)	
33	司法領域における園芸療法の実際②(深町)	
34	英国ガーデンの映像学習(廣滋)	
35	園芸施設の見学①(佐野・廣滋・深町)	
36	園芸施設の見学②(佐野・廣滋・深町)	
37	陶芸を用いた園芸療法実習素焼きの鉢への苗植え (深町)	
38	発達障がい分野を題材にしたセラピストの関わり方に 関する映像学習(佐野)	
39	グループでの温室園芸①(佐野)	
40	グループでの温室園芸②(佐野)	
41	発達障がい分野の園芸療法計画(佐野)	
42	発達障がい分野の園芸療法実施(佐野)	
43	精神・老年期障がい分野の園芸療法計画(深町)	
44	精神・老年期障がい分野の園芸療法実施(深町)	
45	園芸療法実習の総括(深町)	

準備学習・事後学習等についての補足説明

各ガーデンやコンテナおよびプランター、畑の管理をグループで行う。毎回シラバスに沿って事前の自己学習を行い、事後は実習内容をまとめる。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

授業への取り組み	グループ企画・実施内容		
20%	80%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
資料配布		

参考書又は参考資料等

山根 寛 他:園芸リハビリテーション 園芸療法の基礎と事例.医歯薬出版、2003
吉川ひろみ:「作業」って何だろう 第2版 作業科学入門.医歯薬出版、2017

その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]

実習が中心となるため、動きやすく汚れても良い服装とシューズで出席してください。

また、気温や湿度が高い日には、水筒やタオルを持参してください。

シラバス 4・5 回は 4/27(土)1・2 時限目に予定、26・27 回は前期の土曜日(午前中)、35・26 回は後期の土曜日(午前中)に予定している。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail

その他

--	--

授業科目名	ガーデニング		
担当者名	深町 晃次	実務家教員	○
授業コード	1230004001	授業形態	演習
学年	1年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	選択・園芸療法士必修
ナンバリング	DP1-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	ガーデニングに必要な知識・技術を習得すると共に、考え方・視点を習得するために、2年次後期に開講される園芸療法実習と連続する形で実施する。また、実際にガーデニングにかかわることで、園芸療法を実践する楽しさを理解する。演習の際は、教員が臨床経験を踏まえた情報提供を行ないながら、グループ討議や発表を適宜取り入れる。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	医療・福祉施設には、ガーデニング空間があることが多い。この空間は、患者のストレス軽減の効果にとどまらず、お見舞いのご家族や勤務している職員にも癒しの効果を与えていることが考えられる。そこで、対人援助職として人間と植物の関係について演習を通して理解する。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	ガーデニングに対する考え方や役割を修得する学内・学外(近隣)の園芸資源の散策	事前:シラバスの通読	
2	屋外ガーデン実習	事前:配布資料の予習 事後:ガーデンづくりの振り返り	
3	ガーデニング見学(北九州市立総合農事センター)	事前:配布資料の予習 事後:ガーデニング見学の振り返り	
4	ガーデンのデザイン①<映像学習>	事後:映像学習の振り返り	
5	ガーデンのデザイン②<映像学習>	事後:映像学習の振り返り	
6	ガーデンのデザイン<屋外ガーデンの見学とデザイン>	事前:ガーデンデザインの予習 事後:ガーデンデザインの振り返り	
7	身体障がい分野におけるガーデニングの実践 1	事前:車いす利用者の園芸について予習 事後:水遣り当番などの実施	
8	身体障がい分野におけるガーデニングの実践 2	事前:配布資料の確認 事後:フラワーアレンジメントの振り返り	
9	精神障がい分野におけるガーデニングの実践 1	事前:季節感のある園芸材料探し 事後:クリスマス・リースデザイン	
10	精神障がい分野におけるガーデニングの実践 2	事前:採集した自然素材の管理 事後:作品づくりを題材にコミュニケーションをとる	
11	老年期障がい分野におけるガーデニングの実践 1	事前:採集した自然素材の管理 事後:作品づくりを題材にコミュニケーションをとる	
12	老年期障がい分野におけるガーデニングの実践 2	事後:映像学習の振り返り	
13	発達障がい分野におけるガーデニングの実践 1	事後:映像学習の振り返り	
14	発達障がい分野におけるガーデニングの実践 2	事後:ガーデン整備の振り返り	
15	健康増進分野におけるガーデニングの実践	事後:実習全体の振り返り	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
①事前・事後の学習は合計で45分とする。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
授業への取り組み	課題		
50%	50%		

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
資料配布		
参考書又は参考資料等		
山根 寛 他:園芸リハビリテーション 園芸療法の基礎と事例.医歯薬出版、2003		
吉川ひろみ:「作業」って何だろう 第2版 作業科学入門.医歯薬出版、2017		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
実習が中心となるため、動きやすく汚れても良い服装とシューズで出席してください。 また、気温や湿度が高い日には、水筒やタオルを持参してください。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	